

**2022年度
大学院経済学研究科
シラバス**

 **西南学院大学大学院**

講義科目一覽

ミクロ経済学 IA〔仲澤 幸壽〕	1
ミクロ経済学 IB〔仲澤 幸壽〕	2
理論経済学演習〔仲澤 幸壽〕	3
経済学研究指導〔仲澤 幸壽〕	4
ミクロ経済学 II A〔平井 秀明〕	5
ミクロ経済学 II B〔平井 秀明〕	6
理論経済学演習〔平井 秀明〕	7
経済学研究指導〔平井 秀明〕	8
マクロ経済学 A〔三宅 伸治〕	9
マクロ経済学 B〔三宅 伸治〕	10
理論経済学演習〔三宅 伸治〕	11
経済学研究指導〔三宅 伸治〕	12
計量経済学 A〔瀧井 貞行〕	13
計量経済学 B〔瀧井 貞行〕	14
理論経済学演習〔瀧井 貞行〕	15
経済学研究指導〔瀧井 貞行〕	16
経済思想史 A〔江里口 拓〕	17
経済思想史 B〔江里口 拓〕	18
理論経済学演習〔江里口 拓〕	19
経済学研究指導〔江里口 拓〕	20
日本経済史 A〔小野 浩〕	21
日本経済史 B〔小野 浩〕	22
日本経済史演習〔小野 浩〕	23
経済学研究指導〔小野 浩〕	24
西洋経済史 A〔花田 洋一郎〕	25
西洋経済史 B〔花田 洋一郎〕	26
西洋経済史演習〔花田 洋一郎〕	27
経済学研究指導〔花田 洋一郎〕	28
労働経済学 A〔伊佐 勝秀〕	29
労働経済学 B〔伊佐 勝秀〕	30

労働経済学演習〔伊佐 勝秀〕	31
環境経済学 A〔小出 秀雄〕	32
環境経済学 B〔小出 秀雄〕	33
経済政策演習〔小出 秀雄〕	34
経済学研究指導〔小出 秀雄〕	35
学位論文指導〔小出 秀雄〕	36
経済地理学 A〔山村 英司〕	37
経済地理学 B〔山村 英司〕	38
経済政策演習〔山村 英司〕	39
経済学研究指導〔山村 英司〕	40
学位論文指導 I〔山村 英司〕	41
世界経済論 A〔尹 春志〕	42
世界経済論 B〔尹 春志〕	43
世界経済論演習〔尹 春志〕	44
経済学研究指導〔〔尹 春志〕	45
アメリカ経済論 A〔立石 剛〕	46
アメリカ経済論 B〔立石 剛〕	47
世界経済論演習〔立石 剛〕	48
経済学研究指導〔立石 剛〕	49
東南アジア経済論 A〔東 茂樹〕	50
東南アジア経済論 B〔東 茂樹〕	51
世界経済論演習〔東 茂樹〕	52
経済学研究指導〔東 茂樹〕	53
資源経済論 A〔河村 朗〕	54
資源経済論 B〔河村 朗〕	55
世界経済論演習〔河村 朗〕	56
経済学研究指導〔河村 朗〕	57
統計学 A〔中馬 正博〕	58
統計学 B〔中馬 正博〕	59
統計学演習〔中馬 正博〕	60
経済学研究指導〔中馬 正博〕	61
社会保障論 A〔熊谷 成将〕	62
社会保障論 B〔熊谷 成将〕	63

社会保障論演習〔熊谷 成将〕	64
経済学研究指導〔熊谷 成将〕	65
財政学A〔近藤 春生〕	66
財政学B〔近藤 春生〕	67
財政学演習〔近藤 春生〕	68
経済学研究指導〔近藤 春生〕	69
金融論A〔相模 裕一〕	70
金融論B〔相模 裕一〕	71
金融論演習〔相模 裕一〕	72
学位論文指導 I〔相模 裕一〕	73
証券投資論 A〔丹波 靖博〕	74
証券投資論 B〔丹波 靖博〕	75
証券投資論演習〔丹波 靖博〕	76
経済学研究指導〔丹波 靖博〕	77
国際金融論 A〔岩本 武和〕	78
国際金融論 B〔岩本 武和〕	79

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	ミクロ経済学 I A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	仲澤 幸壽			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義のテーマは、人工知能とロボティクスの普及によってもたらされると予測される新たな経済システムを理論モデルに基づいて予測することです。到達目標は、大学院修士レベルでその予測を実施する上で必要となる新たな経済モデルの構築に必要な理論に習熟することにあります。				
【講義概要】				
講義ではテキストは指定せずに、講義概要を記したプリントを配布し、それに従って各項目を解説していきます。それと同時に、事前と事後に読んでおくことが求められる文献を紹介します。このミクロ経済学 I Aでは、講義のテーマのうち、効用関数、生産関数の解説に加えてモデルの動学化の基礎を解説します。最後に習熟度を測るための課題を出題します。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	ミクロ経済学の特徴			
2	1次同次関数の諸性質			
3	具体的な1次同次関数			
4	静学モデルにおける効用関数			
5	モデルの動学化と期待形成の考え方			
6	期間分析における効用関数			
7	連続分析における効用関数			
8	静学モデルにおける生産関数			
9	期間分析における企業行動：生産関数と投資関数			
10	連続分析における企業行動：生産関数と投資関数			
11	期間分析：重複世代モデル			
12	連続分析：新古典派成長モデル			
13	より発展的な動学モデル			
14	課題の解説			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
その都度、読むべき参考文献を指示します。				
【事前・事後学習、時間等】				
事前に指示した文献を読んで疑問点を明らかにし、事後に解説を参考にモデルの例を確認すること(各2時間)。				
【課題の種類・内容】				
講義での応用分析例を参考にして、特定の問題の分析モデルを構築するレポートを課します。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
レポートの内容についてメールでコメントとアドバイスをします。				
【成績評価方法・基準】				
講義における経済理論の理解度60%、レポートの内容40%で評価を決めます。				
【履修上の注意】				
一定以上レベルの経済数学の知識が前提になります。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	ミクロ経済学 I B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	仲澤 幸壽			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義のテーマは、人工知能とロボティクスの普及によってもたらされると予測される新たな経済システムを理論モデルに基づいて予測することです。到達目標は、大学院修士レベルでその予測を実施する上で必要となる新たな経済モデルの構築に必要な理論に習熟することにあります。				
【講義概要】				
講義ではテキストは指定せずに、講義概要を記したプリントを配布し、それに従って各項目を解説していきます。それと同時に、事前と事後に読んでおくことが求められる文献を紹介しします。このミクロ経済学 I Aでは、講義のテーマのうち、効用関数、生産関数の解説に加えてモデルの動学化の基礎を解説します。最後に習熟度を測るための課題を出題します。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	新たな経済システムのイメージ			
2	ベーシックインカム の捉え方			
3	BIシステムへの移行プロセスの問題点: 財源			
4	BIシステムへの移行プロセスの問題点: 社会保障制度			
5	モデル化の試み: 既存の税を財源とするケース			
6	モデル化の試み: 新設の税を財源とするケース			
7	モデル化の試み: 税以外の財源の可能性			
8	モデル化の試み: 積み立て方式年金のケース			
9	モデル化の試み: 賦課方式年金のケース			
10	BIシステムへの移行プロセスの問題点: 勤労モラルへの影響の懸念			
11	BIシステムへの移行プロセスの問題点: 企業経営者と政治家の意識			
12	BIシステムへの移行プロセスの問題点: ワーキングシェアと新たなライフスタイル			
13	BIシステムの総合的モデル化の試み			
14	課題の説明			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
その都度、読むことが必要な文献を指示します。				
【事前・事後学習、時間等】				
事前に指示した文献を読んで疑問点を明らかにし、事後に解説を参考にモデルの例を確認すること(各2時間)。				
【課題の種類・内容】				
講義での応用分析例を参考にして、特定の問題の分析モデルを構築するレポートを課します。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
レポートの内容についてメールでコメントとアドバイスをします。				
【成績評価方法・基準】				
講義における経済理論の理解度60%、レポートの内容40%で評価を決めます。				
【履修上の注意】				
一定以上レベルの経済数学の知識が前提になります。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	理論経済学演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		通年	4	日本語	
担当教員名	仲澤 幸壽				
【講義の到達目標及びテーマ】					
この演習のテーマは、人工知能とロボティクスによってもたらされる新たな経済システムの研究です。到達目標は、そのテーマに沿って修士論文のための研究を行う具体的内容を確認していくことです。					
【講義概要】					
演習では、AI時代の経済に関する文献を講読し、新たな経済システムを多面的に考察していきます。特に、人間の労働時間が減少しても経済循環を維持していくためベーシックインカムが導入された経済システムが中心になります。そのシステムへの移行プロセスで実現可能な道筋を見出すことが大きな研究テーマであり、その中から修士論文の研究課題を見出していくことになります。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	演習のガイダンス		15	後期の進め方の確認	
2	汎用的生産技術革新: AIとロボットどうし		16	BIと労働インセンティブ: 現役世代	
3	技術革新の雇用への影響		17	BIと労働インセンティブ: 将来世代(教育)	
4	人工知能の将来見通し		18	失業対策、生活保護等への影響	
5	労働時間削減と長期的経済停滞の危険性		19	公的年金制度への影響	
6	労働分配率減少時の経済循環		20	現行年金加入者への影響	
7	経済循環を維持する仕組み		21	BIシステムへの移行過程の視覚化	
8	ベーシックインカム導入の必然性		22	重複世代モデルの定式化: 予備的作業	
9	ベーシックインカムによる経済循環の経路		23	重複世代モデルの具体的定式化	
10	ベーシックインカムの水準について		24	移行過程の課題: 労働価値観の修正	
11	財源問題: 税の場合の問題点		25	移行過程の課題: 大学の役割	
12	財源問題: 国債の場合の問題点		26	創造的消費による労働所得補填の可能性	
13	新たな財源調達方法について		27	創造的消費生活の具体像	
14	修論研究テーマの可能性の検討		28	修論研究テーマの決定	
【テキスト】					
なし					
【参考書・参考資料等】					
山本勲編著(2019)『人工知能と経済』勁草書房。岩本晃一編著(2018)『AIと日本の雇用』日本経済新聞社。佐々木隆治・志賀信夫編著『ベーシックインカムを問い直すーその現実と可能性』法律文化社。					
【事前・事後学習、時間等】					
事前に各回の内容に関して指定された文献を読んで考察してくると(2時間)。事後には、さらに指定された文献を読むとともに、研究テーマとしての可能性について考察を深めること(3時間)。					
【課題の種類・内容】					
前期・後期ともに研究テーマになる可能性のある項目について、具体的な考察方法の報告を求めます。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
考察内容に関して、演習時に討論し、有効性、発展可能性等についてコメントとアドバイスをを行います。					
【成績評価方法・基準】					
演習における報告60%、課題についての考察40%で評価を決めます。					
【履修上の注意】					
事実上、毎回報告を行うつもりでいてください。					

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		通年	4	日本語	
担当教員名	仲澤 幸壽				
【講義の到達目標及びテーマ】					
この演習では、人工知能とロボティクスが普及した後の経済システムを経済学の理論モデルによって分析することがテーマであり、3年間での学位請求論文作成が到達目標になります。					
【講義概要】					
演習の指導は、研究指導計画に沿って進められます。到達目標を達成するプロセスとして、前期では修士論文を加筆修正して公刊論文にし、それと並行して研究を発展させるためのテーマを選定して次の論文作成の準備を進めます。そのために、必要な文献を講読し独自の理論モデルを構築していくことが主な作業になります。その作業は後期にも継続され、後期のうちに1つの公刊論文原稿の完成を目指します。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	研究指導計画の確認		15	後期の研究計画の再確認	
2	修士論文修正方法の検討		16	労働時間削減プロセス	
3	発展的な研究テーマのピックアップ		17	ワークシェアリングのモデル化の可能性	
4	修士論文修正の報告		18	ワークシェアリングのモデル化の具体化	
5	AI経済の理論モデルの可能性		19	ワークシェアリングの有効性の論証	
6	AI経済の理論モデルの基礎構造		20	AI経済のワークシェアリングと創造的消費	
7	動学的モデル: 2期間分析		21	創造的消費活動による経済活性化の可能性	
8	動学的モデル: 多期間分析		22	創造的消費経済の具体的イメージ	
9	動学的モデル: 連続分析		23	新規論文の報告	
10	期待形成と動学経路		24	新規論文の修正報告	
11	フロー循環図とベーシックインカム		25	次年度研究テーマのピックアップ	
12	フロー循環図による財源問題の検討		26	次年度研究テーマの選定	
13	BIと年金問題		27	モデルの構築方針と参考文献リスト作成	
14	新規論文の中間報告		28	学位請求論文の方向性の確認	
【テキスト】					
なし					
【参考書・参考資料等】					
研究テーマ選定と同時に、必要な参考文献をピックアップして共同でリーディングリストを作成します。					
【事前・事後学習、時間等】					
事前の報告する文献を読み、研究を進めること(18時間)。事後にも演習で検討した分析を進めること(12時間)。					
【課題の種類・内容】					
課題は、公刊論文の作成になります。そのため、研究の進捗度合いを毎回報告してもらいます。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
論文が公刊できるように、各回に適切なコメントとアドバイスをします。					
【成績評価方法・基準】					
授業時の報告50%、時間外での独自の研究50%で評価を決めます。					
【履修上の注意】					
理論的な論文の作成には、努力だけでなく、柔軟な発想と多角的な視野および強い精神力が必要です。					

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	ミクロ経済学ⅡA	通年・前期・後期	単位数 2	使用言語 日本語
		前期		
担当教員名	平井 秀明			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義の到達目標は、大学院の修士レベルでの研究を実施する上で必要となるミクロ経済学の基礎理論のうち、ゲーム理論について修得することにあります。単に理論を理解するだけでなく、実際に経済問題に応用して分析する方法を身につけてもらうことが重要であり、それが講義のテーマになります。				
【講義概要】				
テキストを用いた講義並びに履修者による報告を中心に進める。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	ガイダンス			
2	ゲーム理論への招待 #1: ゲーム理論とは何か			
3	ゲーム理論への招待 #2: ゲーム理論による経済学の静かな革命			
4	戦略形ゲームの基礎 #1: 戦略形ゲームと利得行列			
5	戦略形ゲームの基礎 #2: 戦略形ゲームを解く			
6	戦略形ゲームの基礎 #3: 予想の先に行きものナッシュ均衡			
7	戦略形ゲームの応用 #1: 弱支配戦略と支配されないナッシュ均衡			
8	戦略形ゲームの応用 #2: 支配された戦略の繰り返し削除			
9	混合戦略 #1: 混合戦略とナッシュ均衡			
10	混合戦略 #2: 2×2の混合戦略のナッシュ均衡を求める			
11	完全情報の展開形ゲーム #1: 展開形ゲーム			
12	完全情報の展開形ゲーム #2: 完全情報展開形ゲームの応用			
13	一般の展開形ゲーム #1: 不完全情報の展開形ゲーム			
14	一般の展開形ゲーム #2: 展開形ゲームの構成要素と部分ゲーム完全均衡			
【テキスト】				
渡辺隆裕(2008)『ゼミナール ゲーム理論入門』日本経済新聞出版社。				
【参考書・参考資料等】				
神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社。				
【事前・事後学習、時間等】				
<ul style="list-style-type: none"> ・事前にテキストを十分に読み、自身の手を動かしながら図表や数式の展開を追うこと。(100分) ・講義で取り扱われた理論について、さまざまな角度から検討し、論文作成にどのように応用できるか考えること。(100分) 				
【課題の種類・内容】				
理解の確認や研究の基礎作業を目的にレポートを課す。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
提出されたレポートは返却して、添削及びコメント行う。				
【成績評価方法・基準】				
講義の時に確認する理論の理解度60%, レポートの内容40%で評価を決めます。				
【履修上の注意】				
学部レベルのミクロ経済学, 経済数学の知識があることが望ましい。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	ミクロ経済学ⅡB	通年・前期・後期	単位数 2	使用言語 日本語
		後期		
担当教員名	平井 秀明			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義の到達目標は、大学院の修士レベルでの研究を実施する上で必要となるミクロ経済学の基礎理論のうち、ゲーム理論について修得することにあります。単に理論を理解するだけでなく、実際に経済問題に応用して分析する方法を身につけてもらうことが重要であり、それが講義のテーマになります。				
【講義概要】				
テキストを用いた講義並びに履修者による報告を中心に進める。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	ガイダンス			
2	不完全競争市場への応用 #1: 完全競争市場とゲーム理論の発展, 独占市場での企業行動			
3	不完全競争市場への応用 #2: クールノー競争			
4	不完全競争市場への応用 #3: ベルトラン競争			
5	不完全競争市場への応用 #4: シュタッケルベルグ競争			
6	時間経過と長期的関係 #1: 割引因子による利得の計算, 交渉の要因と交互提案ゲーム			
7	時間経過と長期的関係 #2: 有限回の繰り返しゲーム			
8	時間経過と長期的関係 #3: 無限回の繰り返しゲームと協力の達成			
9	不完備情報の戦略形ゲーム #1: 不完備情報ゲームの基礎			
10	不完備情報の戦略形ゲーム #2: 不完備情報の複占競争			
11	不完備情報の戦略形ゲーム #3: ベイズの定理とベイズゲーム			
12	不完備情報の展開形ゲーム #1: 不完備情報の展開形ゲームと完全ベイズ均衡			
13	不完備情報の展開形ゲーム #2: シグナリング			
14	不完備情報の展開形ゲーム #3: 完全ベイズ均衡の詳細			
【テキスト】				
渡辺隆裕 (2008) 『ゼミナール ゲーム理論入門』日本経済新聞出版社.				
【参考書・参考資料等】				
神取道宏 (2014) 『ミクロ経済学の力』日本評論社.				
【事前・事後学習、時間等】				
<ul style="list-style-type: none"> ・事前にテキストを十分に読み、自身の手を動かしながら図表や数式の展開を追うこと。(100分) ・講義で取り扱われた理論について、さまざまな角度から検討し、論文作成にどのように応用できるか考えること。(100分) 				
【課題の種類・内容】				
理解の確認や研究の基礎作業を目的にレポートを課す。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
提出されたレポートは返却して、添削及びコメント行う。				
【成績評価方法・基準】				
講義の時に確認する理論の理解度60%, レポートの内容40%で評価を決めます。				
【履修上の注意】				
学部レベルのミクロ経済学, 経済数学の知識があることが望ましい。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	理論経済学演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	平井 秀明			
【講義の到達目標及びテーマ】				
本演習は、ミクロ経済学・産業組織論の知見を援用した理論分析を研究手法とする修士論文を作成できる能力を修得することを到達目標とする。				
【講義概要】				
本演習は、ミクロ経済学・産業組織論の知見を援用した理論分析を研究手法とする修士論文を作成できる能力を修得することを到達目標とする。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	ガイダンス	15	Product differentiation: Horizontal product differentiation	
2	What is Markets and Strategies?	16	Product differentiation: Vertical product differentiation	
3	Firms, consumers and the market: Firms and consumers	17	Product differentiation: Empirical analysis of product differentiation	
4	Firms, consumers and the market: Market interaction	18	Group pricing and personalized pricing: Price discrimination	
5	Firms, consumers and the market: Markt definition and market performance	19	Group pricing and personalized pricing: Group and personalized pricing in monopoly	
6	Static imperfect competition: Price competition	20	Group pricing and personalized pricing: Group and personalized pricing in oligopolies	
7	Static imperfect competition: Quantity competition	21	Menu pricing: Menu pricing versus group pricing	
8	Static imperfect competition: Price versus quantity competition	22	Menu pricing: A formal analysis of monopoly menu pricing	
9	Static imperfect competition: Strategic substitutes and strategic complements	23	Menu pricing: Menu pricing under imperfect competition	
10	Static imperfect competition: Estimating market power	24	Intertemporal price discrimination: Durable good monopoly without commitment	
11	Dynamic aspects of imperfect competition: Sequential choice	25	Intertemporal price discrimination: Durable good monopoly with commitment	
12	Dynamic aspects of imperfect competition: Free entry	26	Intertemporal price discrimination: Behaviour-based price discrimination	
13	Dynamic aspects of imperfect competition: Industry concentration and firm turnover	27	Bundling: A formal analysis of monopoly bundling	
14	Product differentiation: View on product differentiation	28	まとめ	
【テキスト】				
Belleflame, P. and M. Peitz (2010), Industrial Organization: Markets and Strategies, Cambridge University Press.				
【参考書・参考資料等】				
Shy, O. (1995), Industrial Organization: Theory and Application, The MIT Press.				
【事前・事後学習、時間等】				
<ul style="list-style-type: none"> ・事前にテキストを十分に読み、自身の手を動かしながら図表や数式の展開を追うこと。(100分) ・講義で取り扱われた理論について、さまざまな角度から検討し、論文作成にどのように応用できるか考えること。(100分) 				
【課題の種類・内容】				
必要に応じて、理解の確認や研究の基礎作業を目的にレポートを課す。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
提出されたレポートは返却して、添削及びコメント行う。				
【成績評価方法・基準】				
講義の時に確認する理論の理解度60%、レポートの内容40%で評価を決めます。				
【履修上の注意】				
学部レベルのミクロ経済学(ゲーム理論含む)、経済数学の知識があることが望ましい。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	平井 秀明			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>ミクロ経済学(ゲーム理論含む)・産業組織論を中心とした学術的論文を精読する力を高めるとともに、履修者の関心に沿って、先行研究の報告や論文報告を行なってもらい、博士論文を構成する研究につなげることを目標とする。</p>				
【講義概要】				
<p>学術論文の執筆と、学会報告や学術誌への掲載を目指すトレーニングを具体的にを行う。学会報告、学術雑誌への投稿方法などを実戦を通して学習する。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	ガイダンス	15	論文輪読・研究報告 #1: オリジナル・モデル構築のためのexample (検討)	
2	学会、学術誌の種類と役割	16	論文輪読・研究報告 #1: オリジナル・モデル構築のためのexample (検討)	
3	学会報告、投稿先の学術誌の選定方法	17	論文輪読・研究報告 #2: オリジナル・モデル構築のためのexample (作成)	
4	学術誌への投稿方法とフォーマット作成	18	論文輪読・研究報告 #3: オリジナル・モデル構築のためのexample (修正)	
5	学術誌から届く意思決定への対応法	19	論文輪読・研究報告 #4: オリジナル・モデル構築のためのexample (完成)	
6	Revsie要求のコメントの種類と対応法	20	論文輪読・研究報告 #5: exampleの一般化(検討)	
7	論文テーマの設定	21	論文輪読・研究報告 #6: exampleの一般化(作成)	
8	論文テーマの設定	22	論文輪読・研究報告 #7: exampleの一般化(修正)	
9	数式、図表の作成方法	23	論文輪読・研究報告 #8: exampleの一般化(完成)	
10	学会報告におけるプレゼン資料の作成方法	24	論文輪読・研究報告 #9: オリジナル・モデルの先行研究における位置付け(検討)	
11	論文の構造: Introduction	25	論文輪読・研究報告 #10: Introduction (作成)	
12	論文の構造: Preparing the Main Body	26	論文輪読・研究報告 #11: Introduction (修正)	
13	論文の構造: Conclusion	27	論文輪読・研究報告 #12: Introduction (完成)	
14	論文の構造: Abstract and Title, Reference, Endnotes and Appendix	28	論文輪読・研究報告 #13: オリジナル・モデルの拡張(検討・作成)	
【テキスト】				
<p>受講生と協議のうえ、国内学会誌や海外学術誌掲載の論文を選定していきます。</p>				
【参考書・参考資料等】				
<p>Belleflame, P. and M. Peitz (2010), Industrial Organization: Markets and Strategies, Cambridge University Press.</p>				
【事前・事後学習、時間等】				
<p>アカデミックな英語論文を自由に読むための基礎的な英語読解力を身につけておくこと。また、自ら理論モデルを構築し、分析を行った結果をまとめてみる。学術誌に掲載された論文の構造を把握し、まねて自分で書いてみる。</p>				
【課題の種類・内容】				
<p>論文を作成し、学会報告や公刊できる方向で研究を進められるように、各回の報告に対して適切にコメントしアドバイスします。</p>				
【課題に対するフィードバックの方法】				
<p>論文を作成し、学会報告や公刊できる方向で研究を進められるように、各回の報告に対して適切にコメントしアドバイスします。</p>				
【成績評価方法・基準】				
<p>講義時の報告60%、時間外での研究の進み具合40%で評価します。</p>				
【履修上の注意】				
<p>国際的学術誌の輪読をするので、一定の英語力を要求する。基本的なミクロ経済学(ゲーム理論含む)・産業組織論および数学の知識が身につけているという前提で講義を行う。</p>				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	マクロ経済学A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	三宅伸治			
【講義の到達目標及びテーマ】				
前期課程の研究を進めるために必要なマクロ経済理論を修得すること、および、Pythonによるプログラミングがマクロ経済分析にどのように応用されるか知ること为目标とします。				
【講義概要】				
主に代表的個人モデルを丁寧に解説します。必要に応じ Python を利用した数値計算やデータ分析を紹介し、トピックの理解が深まるようにします。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	ガイダンス: マクロ経済モデルの座標軸: 学部で学ぶマクロ経済学と大学院で学ぶマクロ経済学のギャップについて			
2	合理的期待形成仮説			
3	資産価格と資本蓄積			
4	新古典派成長モデルの実証的含意			
5	市場調整の失敗: 世代重複モデルを通して			
6	消費の恒常所得仮説			
7	資産価格決定モデルの基本的な考え方			
8	消費パターンの平準化と資産価格			
9	不確実性と資産価格			
10	資産市場と情報の伝達			
11	資産価格決定モデルの実証研究			
12	世代重複モデルにおける完備市場取引			
13	完備市場における取引制約と集計問題			
14	集計リスクの集中とリスク・プレミアム			
【テキスト】				
授業中に指示します。				
【参考書・参考資料等】				
授業中に指示します。				
【事前・事後学習、時間等】				
予習として、毎回指定した範囲を時間をかけて読み、理解できない箇所を整理しておいてください。復習として予習段階での疑問点を解決できたかどうかを確認してください。				
【課題の種類・内容】				
一定の範囲が終わったあと、理解を確認するためのクイズを出します。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
その場でクイズの答えを提示し、理解が深まるよう議論します。				
【成績評価方法・基準】				
試験60%。授業中の簡単なクイズ(事前にアナウンスします)40%。評価基準は次の通りです。(1)それぞれの経済モデルがどのような経済現象を説明しようとしているか理解している。(2)それぞれの経済モデルの主要な結論を論理的に説明できる。				
【履修上の注意】				
数学が苦手でも問題ありません。学部レベルのマクロ経済学の知識は前提としません。ただし、じっくりと意味を考えることが必要です。Pythonプログラミングについても基礎から説明します。参加者と相談の上、内容を若干変更する場合があります。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	マクロ経済学B	通年・前期・後期	単位数 2	使用言語 日本語
		後期		
担当教員名	三宅伸治			
【講義の到達目標及びテーマ】				
前期課程の研究を進めるために必要なマクロ経済理論を修得すること、および、Pythonによるプログラミングがマクロ経済分析にどのように応用されるか知ることを目標とします。				
【講義概要】				
マクロ経済学Aの履修を前提にして労働市場、インフレーションなどのトピックスを丁寧に解説します。必要な数学やプログラミングはその都度説明します。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	協調の失敗(1): 静学モデル			
2	協調の失敗(2): 動学モデル			
3	内生的成長モデル			
4	貨幣的景気循環モデル(1)情報の不完全性と金融政策			
5	貨幣的景気循環モデル(2)名目価格の硬直性と金融政策			
6	貨幣的景気循環モデル(3)外部性と名目価格の硬直性			
7	貨幣的景気循環モデル(4)貨幣理論のサーチ的アプローチ			
8	物価水準とインフレーションの理論			
9	景気循環のコスト			
10	資本所得課税と資本蓄積			
11	インフレーションの厚生費用			
12	期待形成と経済政策: フィリップス曲線			
13	複数均衡と経済政策			
14	モラルハザードと経済政策			
【テキスト】				
授業中に指示します。				
【参考書・参考資料等】				
授業中に指示します。				
【事前・事後学習、時間等】				
予習として、毎回指定した範囲を時間をかけて読み、理解できない箇所を整理しておいてください。復習として予習段階での疑問点を解決できたかどうかを確認してください。				
【課題の種類・内容】				
一定の範囲が終わったあと、理解を確認するためのクイズを出します。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
その場でクイズの答を提示し、理解が深まるよう議論します。				
【成績評価方法・基準】				
試験60%。授業中の簡単なクイズ(事前にアナウンスします)40%。評価基準は次の通りです。(1)それぞれの経済モデルがどのような経済現象を説明しようとしているか理解している。(2)それぞれの経済モデルの主要な結論を論理的に説明できる。				
【履修上の注意】				
数学が苦手でも問題ありません。学部レベルのマクロ経済学の知識は前提としません。ただし、じっくりと意味を考えることが必要です。Pythonプログラミングについても基礎から説明します。参加者と相談の上、内容を若干変更する場合があります。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	理論経済学演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	三宅伸治			
【講義の到達目標及びテーマ】				
マクロ経済学で使用される経済モデルの分析手法を理解し、これらの手法を用いた論文を読むことができるようになると同時に、修士論文において、動学モデルを構築・分析できるようになることを目指します。				
【講義概要】				
基本的な数学の復習から始め、大学院レベルのマクロ経済学で標準的に用いられる経済動学モデルの解説および演習を行います。採用する教科書には、代表的な経済成長モデルが含まれており、これらを丁寧に読み解いていくことで、自分で動学モデルを構築できるようになります。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	数学準備(1) 基礎からの復習	15	経済政策と経済成長(1) 研究開発を含むモデル	
2	数学準備(2) 演習および解説	16	経済政策と経済成長(2) 特許を含むモデル	
3	ソローモデル	17	経済政策と経済成長(3) 課税と経済成長	
4	代表的個人モデル(1) 基本事項	18	技術移転と発明(1) 基本モデル	
5	代表的個人モデル(2) 位相図	19	技術移転と発明(2) ライセンシング	
6	代表的個人モデル(3) 市場均衡の最適性	20	技術移転と発明(1) 知的所有権	
7	世代重複モデル(1) 世代重複モデルの基礎	21	規模効果(1) ローマーモデル	
8	世代重複モデル(2) 動学分析	22	規模効果(2) ジョーンズモデル	
9	世代重複モデル(3) 代表的個人モデルとの比較	23	規模効果(3) ハイブリッドモデル	
10	世代重複モデル(4) 年金問題への応用	24	規模効果(4) 規模効果の存在しないモデル	
11	世代重複モデル(5) バブル経済への応用	25	生産的な公共サービス(1) 基本モデル	
12	世代重複モデル(6) 伝染病サイクルへの応用	26	生産的な公共サービス(2) 財政赤字	
13	内生的技術進歩(1) 簡略化されたモデル	27	公共資本と経済成長(1) 基本モデル	
14	内生的技術進歩(2) 最適化行動を含むモデル	28	公共資本と経済成長(2) 混雑効果	
【テキスト】				
二神孝一、『動学マクロ経済学』, 日本評論社, 2012年				
【参考書・参考資料等】				
授業中に紹介します				
【事前・事後学習、時間等】				
(予習 90分)十分時間をかけて教科書を読み、理解できない点を整理しておいてください。(復習90分) 授業で学んだ重要な点をしっかり復習してください。				
【課題の種類・内容】				
必要に応じ理解の確認を目的としてレポートを課すことがあります。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
メール, Moodleなどを使用します。				
【成績評価方法・基準】				
試験30%。授業中の簡単なクイズ70%。評価基準は次の通りです。(1)設定された問題から最適化条件を導出できる。(2)最適化条件から教科書のような方法により均衡経路を導出できる。				
【履修上の注意】				
数学がそれほど得意な人でなくても、時間をかければ理解可能な内容です。ただし、自分で考え、実際に手を動かして計算し、位相図を描く等の努力が必要です。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導		通年・前期・後期	単位数	使用言語
			通年	4	日本語
担当教員名	三宅伸治				
【講義の到達目標及びテーマ】					
論文作成に必要なマクロ経済モデルの構築方法の修得および数値シミュレーションの基礎を理解することを目標とします。					
【講義概要】					
前半は、基本的なマクロ経済モデルを理解しそれを応用することにより自分でマクロ経済モデルが構築できるようになることを念頭に置き解説します。後半は、プログラミング実習を通じて数値シミュレーションが何をしているのか理解できるようになることを念頭に置き解説します。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当)	No.	講義計画	(担当者)
1	ガイダンス		15	数値シミュレーションの基礎(1) 統計的手法	
2	数学準備(1) 最適化問題の復習		16	Dynareによる数値シミュレーション(1): 基本モデルのコード解説	
3	数学準備(2) 統計的手法の復習		17	Dynareによる数値シミュレーション(2): コーディング	
4	マクロ経済理論の復習(1) 不確実性がない場合		18	Dynareによる数値シミュレーション(3): 応用	
5	マクロ経済理論の復習(2) 不確実性がある場合		19	Pythonプログラミングの基礎(1): 最適化問題	
6	マクロ経済理論の復習(3) 労働の内生化		20	Pythonプログラミングの基礎 (2): 統計的手法	
7	マクロ経済理論の復習(4) 政府の導入		21	NumpyおよびScipyを用いた数値シミュレーションの基礎	
8	マクロ経済理論の復習(5) 租税		22	Matplotlibを用いたグラフの描画	
9	マクロ経済理論の復習(6) 年金問題		23	Pythonによる数値シミュレーション(1): 基本モデルのコード解説	
10	マクロ経済理論の復習(7) 財政赤字		24	Pythonによる数値シミュレーション(2): コーディング	
11	マクロ経済理論の復習(8) 失業		25	Pythonによる数値シミュレーション(3): 成長モデル	
12	マクロ経済理論の復習(9) 伝統的金融政策		26	pandas を用いたデータ分析の基礎	
13	マクロ経済理論の復習(10) 非伝統的金融政策		27	マクロ時系列分析の基礎	
14	数値シミュレーションの基礎(1) 最適化問題		28	マクロ時系列分析の応用	
【テキスト】					
後日指示します。					
【参考書・参考資料等】					
後日指示します。					
【事前・事後学習、時間等】					
(予習 90分)十分時間をかけて教科書を読み、理解できない点を整理しておいてください。(復習90分) 授業で学んだ重要な点をしっかり復習してください。					
【課題の種類・内容】					
必要に応じ理解の確認を目的としてレポートを課すことがあります。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
メール, Moodleなどを使用します。					
【成績評価方法・基準】					
試験30%, 課題30%, 授業中の簡単なクイズ40%.					
【履修上の注意】					
プログラミングが未経験で、数学がそれほど得意な人でなくても、時間をかければ理解可能な内容です。ただし、自分で考え、実際に手を動かして計算する、プログラムを何度も書き直しコンピュータで実行してみる等の努力が必要です。					

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	計量経済学A	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	瀧井 貞行			
【講義の到達目標及びテーマ】				
計量分析を行う際に必要となる, 統計量の計算方法, その考え方, 分析結果の解釈の方法を身に付ける。				
【講義概要】				
計量経済学の基礎知識を学ぶ。また受講生の研究テーマに合わせた分析事例を参考にしながら実際にデータを扱い計算プログラムを作成することで, 実証分析に基づいた論文作成のための技能についても学ぶ。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	ガイダンス			
2	最小自乗法			
3	線形回帰モデルの標準的仮定			
4	t値, 標準誤差, F値, 決定係数			
5	関数型, ダミー変数と結果の解釈			
6	重回帰モデルの応用例1: 線形モデル			
7	重回帰モデルの応用例2: 対数線形モデル			
8	重回帰モデルの応用例3: ダミー変数の利用			
9	多重共線性の問題			
10	不均一分散とWhiteの分散推定量			
11	説明変数と攪乱項の相関			
12	最尤推定法			
13	LogitとProbit			
14	TobitとHekit			
【テキスト】				
浅野哲・中村二郎『計量経済学』(第2版)(有斐閣、2009年)				
【参考書・参考資料等】				
松浦寿幸『Stataによるデータ分析入門 —経済分析の基礎からパネル・データ分析まで』(第2版, 東京図書株式会社、2015年)				
【事前・事後学習、時間等】				
授業終了時に次回のテキスト範囲を指定するので, そこを熟読すること				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
試験(50%), 平常点(50%), 小テスト, レポート)				
【履修上の注意】				
学部の統計学, 経済数学の復習をしておくこと				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	計量経済学B	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	瀧井 貞行			
【講義の到達目標及びテーマ】				
計量分析を行う際に必要となる, 統計量の計算方法, その考え方, 分析結果の解釈の方法を身に付ける。				
【講義概要】				
計量経済学の基礎知識を学ぶ。また受講生の研究テーマに合わせた分析事例を参考にしながら実際にデータを扱い計算プログラムを作成することで, 実証分析に基づいた論文作成のための技能についても学ぶ。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	ガイダンス			
2	実証分析に基づいた論文の書き方			
3	データの収集と整理			
4	図表の作成と結果の解釈			
5	時系列分析の紹介			
6	単位根検定と共和分分析			
7	時系列モデルを用いた分析事例			
8	パネルデータ分析の紹介			
9	パネルデータ分析のためのプログラミング			
10	仮説, 検定方法と解釈			
11	レポートの作成について			
12	レポート作成のための準備			
13	レポートの報告			
14	レポートの改訂			
【テキスト】				
浅野哲・中村二郎『計量経済学』(第2版)(有斐閣、2009年)				
【参考書・参考資料等】				
松浦寿幸『Stataによるデータ分析入門 —経済分析の基礎からパネル・データ分析まで』(第2版, 東京図書株式会社、2015年)				
【事前・事後学習、時間等】				
授業終了時に次回のテキスト範囲を指定するので, そこを熟読すること				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
試験(50%), 平常点(50%), 小テスト, レポート)				
【履修上の注意】				
学部の統計学, 経済数学の復習をしておくこと				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	理論経済学演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	瀧井 貞行			
【講義の到達目標及びテーマ】				
受講生自らが、①データの収集・整理、②計量分析、③結果の解釈、④政策インプリケーションの導出ができるようになることを目標とする。				
【講義概要】				
(1) 受講生の研究テーマに合わせた分析事例を参考にしながら、先行研究で行われている実証分析について理解を深める。 (2) 実際にデータを収集し、データ整理、回帰分析、結果のまとめ、レポートの作成を行う。 (3) これを実施する上で必要な知識を身に付ける				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	論文の書き方	15	Dynamic Panel Data ModelとGMM	
2	インターネットを使ったデータの収集	16	GMMの演習	
3	データの整理の仕方、図表の作成	17	輸出決定に関する分析: ProbitとLogit	
4	記述統計	18	輸出決定に関する分析: 演習	
5	回帰分析	19	生産性分析: 生産性とは	
6	統計的推測	20	生産性分析: 生産性の計測	
7	計量分析ソフトの使い方: データの読み書き	21	生産性分析: OP法, LP法	
8	計量分析ソフトの使い方: 回帰分析	22	生産性分析: Data Envelopment Analysis	
9	計量分析ソフトの使い方: 仮説検定	23	生産性分析: Stochastic Frontier Model	
10	分析結果のまとめ方, 結果の解釈	24	貿易に関する実証分析: UN-Comtrade	
11	経済成長の理論	25	貿易に関する実証分析: 産業内貿易	
12	経済成長に関する分析事例	26	貿易に関する実証分析: グラヴィティ・モデル	
13	パネル・データ分析の概略	27	貿易に関する実証分析: データ演習	
14	固定効果モデルと変量効果モデル	28	貿易に関する実証分析: レポート報告	
【テキスト】				
計量経済学については、浅野哲・中村二郎『計量経済学』(第2版)(有斐閣、2009年)をテキストとして利用する。 その他、適宜資料を配布する。				
【参考書・参考資料等】				
なし				
【事前・事後学習、時間等】				
配布された資料を熟読し、質問事項等をまとめてくること、データのダウンロード、整理、回帰分析等を自分で行ってみる				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
試験(50%), 平常点(50%), 小テスト, レポート				
【履修上の注意】				
学部の統計学, 経済数学の復習をしておくこと				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	瀧井 貞行			
【講義の到達目標及びテーマ】				
計量分析を中心とした論文の作成方法を習得する				
【講義概要】				
受講者の研究テーマに合わせて、実証分析を行った先行研究のレビューを行いながら、計量経済学的手法を学んでいく。特に、計量経済学の理論を学ぶだけでなく、データを用いながら演習を行っていく。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	論文の書き方	15	実証分析の進め方	
2	問題意識の明確化	16	計量モデルの設定	
3	実証分析のフィジビリティ	17	分析手法とプログラミング	
4	統計的仮説の設定	18	計量経済学的分析方法	
5	文献サーベイの仕方	19	データの収集	
6	研究の理論的背景	20	記述統計分析	
7	研究の目的	21	図表の作成	
8	先行研究のリスト作成:理論モデルの目的	22	図表から導かれるインプリケーション	
9	先行研究のリスト作成:理論モデルの特徴	23	モデルの推定	
10	先行研究のリスト作成:理論モデルの含意	24	モデルの特定化	
11	先行研究のリスト作成:分析に用いたデータ	25	統計的仮説検定	
12	先行研究のリスト作成:分析手法	26	結果の解釈とまとめ方	
13	先行研究のリスト作成:分析結果	27	政策的インプリケーションの導出	
14	文献レビューのまとめ方と参考文献	28	論文の発表方法について	
【テキスト】				
J. M. Wooldridge, Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data, 2nd ed., (The MIT Press, 2010)				
【参考書・参考資料等】				
W. Thomson, A Guide for the Young Economist (The MIT Press, 2001)				
松浦寿幸『Stataによるデータ分析入門 —経済分析の基礎からパネル・データ分析まで』(第2版, 東京図書株式会社, 2015年)				
【事前・事後学習、時間等】				
指定された論文を読むこと, 自分の研究テーマに合わせて, 学んだことを応用させていくこと。計量分析ソフトの練習をししておくこと				
【課題の種類・内容】				
講義計画の内容に合わせて各自の設定したテーマの研究を進めていく				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
指導内容に対する理解度(100%)				
【履修上の注意】				
毎週出される課題を着実にこなしていくこと				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済思想史A	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	江里口 拓			
【講義の到達目標及びテーマ】				
福祉国家の経済思想史をテーマにする。経済思想の歴史の変遷についての知識・理解を深め、歴史に応じた経済学の変化という思考を身につけ、経済学が今後も変化するとしてその方向について創造性を涵養し、現在の経済学への相対的な批判的態度を身につける。そのことでアカデミックな課題を発見し、自分自身で解決するスキル取得を目指す。				
【講義概要】				
経済学の黎明期である古典派経済学の時代に、利己心、市場原理、功利主義、自由貿易、効用の質など様々な論点について、現代の問題関心とも関連させて理解する。テキストを読み、対話法的議論を行うことで理解を深める。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	はじめに:経済思想史と経済学史			
2	アダムスミス 見えざる手			
3	アダムスミス 市場原理			
4	アダムスミス 博愛主義			
5	リカードとマルサス 穀物法			
6	リカードとマルサス 人口法則			
7	リカードとマルサス 救貧法			
8	ベンサム 功利主義とは(1)快樂主義			
9	ベンサム 功利主義とは(2)最大多数の最大幸福			
10	ベンサム 平等主義, 救貧法			
11	J.S.ミル ミルの時代			
12	J.S.ミル 功利主義批判			
13	J.S.ミル 自由論			
14	まとめ, 総括, 通史的知見			
【テキスト】				
小峯敦編『福祉の経済思想家たち』ナカニシヤ出版、2018年				
【参考書・参考資料等】				
【事前・事後学習、時間等】				
講義計画欄の各回の授業内容に気合いされている教科書の該当ページを講義前に必ず予習してくる。2時間程度。				
【課題の種類・内容】				
期末レポートは課さないが、講義の際に、議論への積極参加と自己の意見の提出を求める。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
その都度、講義中に回答を行う。対話法のなかで示していく。				
【成績評価方法・基準】				
対話的な議論の中で、課題を正確に理解し(50%)、自分の意見を形成できているか(50%)を重視する。				
【履修上の注意】				
福祉国家の諸問題について日頃から現代的な関心を持つておくことが望ましい。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済思想史B	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	江里口 拓			
【講義の到達目標及びテーマ】				
福祉国家の経済思想史をテーマにする。経済思想の歴史の変遷についての知識・理解を深め、歴史に応じた経済学の変化という思考を身につけ、経済学が今後も変化するとしてその方向について創造性を涵養し、現在の経済学への相対的な批判的態度を身につける。そのことでアカデミックな課題を発見し、自分自身で解決するスキル取得を目指す。				
【講義概要】				
経済学の成熟期である19世紀末以降の新古典派経済学を中心に、限界効用、効用の個人間比較、ナショナルミニмум、人的資本概念など、これを超克する形で出てきた経済思想について、理解を深める。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	はじめに:近代経済学史と経済思想史			
2	マーシャル 企業者とは			
3	マーシャル 高賃金の経済			
4	マーシャル 経済騎士道			
5	ホブソン 過少消費説			
6	ホブソン 帝国主義論, 人間と福祉			
7	ウェッブ夫妻 ナショナル・ミニмум			
8	ウェッブ夫妻 国際競争力			
9	ケインズ, ベヴァリッジ 有効需要論			
10	ケインズ, ベヴァリッジ 社会保障論			
11	ケインズ, ベヴァリッジ 福祉国家体制			
12	社会保障改革の必要性			
13	社会保障改革の必要性具体策			
14	まとめ:現代から見た通史的知見			
【テキスト】				
小峯敦編『福祉の経済思想家たち』ナカニシヤ出版、2018年				
【参考書・参考資料等】				
【事前・事後学習、時間等】				
講義計画欄の各回の授業内容に気合いされている教科書の該当ページを講義前に必ず予習してくる。2時間程度。				
【課題の種類・内容】				
期末レポートは課さないが、講義の際に、議論への積極参加と自己の意見の提出を求める。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
その都度、講義中に回答を行う。対話法のなかで示していく。				
【成績評価方法・基準】				
対話的な議論の中で、課題を正確に理解し(50%)、自分の意見を形成できているか(50%)を重視する。				
【履修上の注意】				
福祉国家の諸問題について日頃から現代的な関心を持つておくことが望ましい。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	理論経済学演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	江里口 拓			
【講義の到達目標及びテーマ】				
福祉国家の経済思想的背景と、歴史的成り立ちについて理解し、日本かあるいは海外諸国をとりあげて、修士論文を作成するためのノウハウを講義する。文献収集の基本知識、サーベイにおける各論者の比較の方法、自分の見解の提示の仕方など、自分で課題を発見し、アカデミックにこれを自発的に解決するためのスキルを身につける。				
【講義概要】				
修士論文を作成するにあたり、経済思想史の分野では先行研究のサーベイが絶対条件であると言われている。そのために、指導は当該分野についての先行研究を網羅的に学習することを目的とする。基本文献を読むこともあるし、初回講義で受講者のテーマに応じて、文献を選ぶこともありうる。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	演習の進め方について	15	古典派経済学と福祉国家(1)経済理論	
2	文献リストの作成方法(1)文献を探す	16	古典派経済学と福祉国家(2)人口論	
3	文献リストの作成方法(2)文献を整理する	17	古典派経済学と福祉国家(3)収穫逡減	
4	サーベイとは何か(1)先行研究とは	18	古典派経済学と福祉国家(4)租税論	
5	サーベイとは何か(2)問題点を探る	19	古典派経済学と福祉国家(5)現代から	
6	オリジナリティとは何か(1)先行研究の問題	20	近代経済学と福祉国家(1)功利主義	
7	オリジナリティとは何か(2)問題意識	21	近代経済学と福祉国家(2)限界革命	
8	海外文献の取得方法(1)国内図書館経由	22	近代経済学と福祉国家(3)厚生経済学	
9	海外文献の取得方法(2)海外図書館経由	23	近代経済学と福祉国家(4)保険原理	
10	文献の読み方(1)日本語文献	24	近代経済学と福祉国家(5)政策論	
11	文献の読み方(2)英語文献	25	近代経済学と福祉国家(6)現代から	
12	重商主義と福祉国家(1)理論と政策	26	現代経済学と福祉国家(1)ロールズ, 非対称情報	
13	重商主義と福祉国家(2)現代との連続性	27	現代経済学と福祉国家(2)連帯とコミュニタリアン	
14	まとめ	28	まとめ	
【テキスト】				
橘木俊詔『福祉と格差の思想史』ミネルヴァ書房、2015年				
【参考書・参考資料等】				
江里口拓『福祉国家の効率と制御: ウェブ夫妻の経済思想』昭和堂、2007年				
【事前・事後学習、時間等】				
各自の研究テーマに応じて、修士論文を作成することがメインですから、上記以外の文献で、自分のテーマに関するものについては、積極的に準備し、読んでおき、プレゼンテーションができる状態にしておいてください。週に2時間は必要です。				
【課題の種類・内容】				
口頭もしくは文章による、各自の意見についての提出を求めます。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
毎週の授業中に、回答をします。再批判も歓迎します。				
【成績評価方法・基準】				
出席状況、授業への積極性(50%)、ディスカッションのレベル(50%)をみて、総合評価する。				
【履修上の注意】				
自分のテーマ、関心を積極的に持ち続け、他分野の問題にもしっかりと関心を払って下さい。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	江里口拓			
【講義の到達目標及びテーマ】				
最終年限終了後、3年以内に博士論文を作成することを目標として、研究者としての基礎的な情報処理、論文作成力を身につけることを目標とする。サーベイを元にして、自分のオリジナルな観点を、アカデミックな手続きを経て立証していくための能力を養成する。				
【講義概要】				
博士論文の作成にあたって必要なことは、修士論文における先行研究のサーベイに加えて、いわゆる独創性、オリジナリティを前面に出して、そこから数本の個別論文を作成するための研究力を身につけることであり、このレベルへの到達の手引きをすることが、本講義の目標である。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	研究テーマの確認	15	論文作成途中経過報告	
2	修士論文の見直しと修正(1)文章表現	16	リーディングリスト文献の報告(5)歴史	
3	修士論文の見直しと修正(2)先行研究の使用	17	リーディングリスト文献の報告(6)学説史通説	
4	修士論文の見直しと修正(3)独創性の示唆	18	リーディングリスト文献の報告(7)学説史問題	
5	学位論文向け文献リストの作成(1)範囲の確定	19	リーディングリスト文献の報告(8)代替説	
6	学位論文向け文献リストの作成(2)序列の決定	20	リーディングリスト文献の報告(9)通史	
7	学位論文向け文献リストの作成(3)広い範囲で	21	リーディングリスト文献の報告(10)現代から	
8	リーディングリスト文献の報告(1)基本文献	22	リーディングリスト文献の報告(11)政策提言	
9	リーディングリスト文献の報告(2)先行研究	23	リーディングリスト文献の報告(12)結論	
10	リーディングリスト文献の報告(3)問題点	24	論文執筆方法について(4)文献引用	
11	リーディングリスト文献の報告(4)独創性の示唆	25	論文執筆方法について(5)文脈への配慮	
12	論文執筆方法について(1)体裁、引用方法	26	論文執筆方法について(6)立証方法、弱点の認識	
13	論文執筆方法について(2)独創性の出し方	27	論文執筆方法について(7)総点検	
14	研究計画の見直し、修正	28	研究計画の見直し、次年度への準備	
【テキスト】				
なし。				
【参考書・参考資料等】				
リーディングリストをもとに、各自が読むべき基本文献、周辺文献などについて、適宜、指示することになる。				
【事前・事後学習、時間等】				
研究者として自立して研究が行えるように、細かく指示されなくとも、自発的に関連文献に目を通しておくなどの積極的な準備が求められる。2時間程度。				
【課題の種類・内容】				
口頭もしくは文章による、各自の意見についての提出を求めます。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
毎週の授業中に、対話形式で示します。弁証法的に議論は進みます。				
【成績評価方法・基準】				
出席状況、学問的なレベル(50%)、研究課題のオリジナリティ(50%)などをもとに評価する。				
【履修上の注意】				
研究者としての自立を目指すために、教員の指示を細かく受けるのではなく、自ら進んで判断していく姿勢を身につけることが求められる。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	日本経済史A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期		
担当教員名	小野 浩			
【講義の到達目標及びテーマ】				
近世から現代に至る日本経済の歴史を理解し、歴史分析の手法を身につけることを目標とする。				
【講義概要】				
経済学研究科で研究を進めるうえで、経済の歴史を理解することは有用である。本講義では、近世から現代までの日本経済史の流れを輪読形式で学ぶ。受講生にはテキストの精読と入念な報告準備が求められる。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	ガイダンス			
2	第1章 近世の成立と全国市場の展開(1.0~1.1) ※括弧内は節の番号			
3	第1章 近世の成立と全国市場の展開(1.2~1.4)			
4	第2章 田沼時代から松方財政まで(2.0~2.2)			
5	第2章 田沼時代から松方財政まで(2.3~2.4)			
6	第3章 松方デフレから第1次世界大戦まで(3.0~3.1)			
7	第3章 松方デフレから第1次世界大戦まで(3.2~3.4)			
8	第4章 第1次世界大戦から昭和恐慌期まで(4.0~4.1)			
9	第4章 第1次世界大戦から昭和恐慌期まで(4.2~4.3)			
10	第4章 第1次世界大戦から昭和恐慌期まで(4.4~4.5)			
11	第5章 戦時経済から民主化・復興へ(5.0~5.2)			
12	第5章 戦時経済から民主化・復興へ(5.3~5.4)			
13	第6章 高度成長から平成不況まで(6.0~6.1)			
14	第6章 高度成長から平成不況まで(6.2~6.4)			
【テキスト】				
浜野潔・井奥成彦・中村宗悦ほか(2017)『日本経済史 1600—2015 歴史に読む現代』慶應義塾大学出版会				
【参考書・参考資料等】				
平井健介・島西智輝・岸田真(2020)『ハンドブック日本経済史』ミネルヴァ書房				
【事前・事後学習、時間等】				
授業計画の該当する範囲を精読のうえ、報告の準備(要約、論点整理等)をしておくこと(2コマ相当)。				
【課題の種類・内容】				
日本経済の歴史に関する独自のテーマを設定し、歴史分析の手法を用いてレポートを制作すること。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
後日、レポートの講評を行う。				
【成績評価方法・基準】				
各回の報告・ディスカッション(70%)、レポート(30%)。				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	日本経済史B	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	小野 浩			
【講義の到達目標及びテーマ】				
近現代の日本経済史を通史的に把握したうえで、個別の論点についてさらに深く掘り下げて理解することを目標とする。				
【講義概要】				
経済学研究科で研究を進めるうえで、経済史を理解することは有用である。本講義では、いくつかの主題軸を設定し、それぞれの時期に区分して、各論点をさらに深く追究する。受講生にはテキストの精読と入念な報告準備が求められる。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	ガイダンス			
2	通史① 徳川社会の形成と発展			
3	通史② 自由貿易体制への参入と近代化への模索			
4	通史③ 産業化の発展と「帝国」化			
5	通史④ 恐慌下の経済発展と国際対立			
6	通史⑤ 戦争・統制の帰結と経済復興			
7	通史⑥ 「経済大国」日本の確立と変容			
8	主題軸① 人口・労働力			
9	主題軸② 対外関係・植民地			
10	主題軸③ 産業			
11	主題軸④ エネルギー・環境			
12	主題軸⑤ 政策			
13	主題軸⑥ インフラ・都市			
14	主題軸⑦ 思想・構想			
【テキスト】				
平井健介・島西智輝・岸田真(2020)『ハンドブック日本経済史』ミネルヴァ書房				
【参考書・参考資料等】				
浜野潔・井奥成彦・中村宗悦ほか(2017)『日本経済史 1600－2015 歴史に読む現代』慶應義塾大学出版会				
【事前・事後学習、時間等】				
授業計画の該当する範囲を精読のうえ、報告の準備(要約、論点整理等)をしておくこと(2コマ相当)。				
【課題の種類・内容】				
日本経済の歴史に関する独自のテーマを設定し、歴史分析の手法を用いてレポートを制作すること。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
後日、レポートの講評を行う。				
【成績評価方法・基準】				
各回の報告・ディスカッション(70%)、レポート(30%)。				
【履修上の注意】				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	日本経済史演習		通年・前期・後期	単位数	使用言語
			通年	4	日本語
担当教員名	小野 浩				
【講義の到達目標及びテーマ】					
日本経済史の分野における修士論文の制作に必要な知識と研究能力を身につけることを目標とする。					
【講義概要】					
実証史学の方法に従って過去の事実を確定し、経済学的に解釈する方法を学ぶ。 研究の土台となる基本文献の輪読(テキスト①～③)と受講生の修士論文の研究報告を並行して進める。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	ガイダンス、学術論文の書き方		15	研究報告(5) アウトライン	
2	テキスト①『近代1』 序章		16	テキスト②『近代2』 第3章	
3	研究報告(1) 研究領域の設定		17	テキスト②『近代2』 第4章	
4	テキスト①『近代1』 第1章		18	研究報告(6) 序章の検討	
5	テキスト①『近代1』 第2章		19	テキスト②『近代2』 第5章	
6	研究報告(2) 研究テーマの設定		20	テキスト③『現代1』 序章	
7	テキスト①『近代1』 第3章		21	研究報告(7) 中間報告(1回目)	
8	テキスト①『近代1』 第4章		22	テキスト③『現代1』 第1章	
9	研究報告(3) 先行研究の整理		23	テキスト③『現代1』 第2章	
10	テキスト①『近代1』 第5章		24	研究報告(8) 中間報告(2回目)	
11	テキスト② 序章		25	テキスト③『現代1』 第3章	
12	研究報告(4) 史料の収集と分析		26	テキスト③『現代1』 第4章	
13	テキスト②『近代2』 第1章		27	研究報告(9) 最終報告	
14	テキスト②『近代2』 第2章		28	研究報告(10) 論文の仕上げ	
【テキスト】					
①深尾京司・中村尚史・中林真幸編(2017)『日本経済の歴史 3 近代1』岩波書店 ②深尾京司・中村尚史・中林真幸編(2017)『日本経済の歴史 4 近代2』岩波書店 ③深尾京司・中村尚史・中林真幸編(2018)『日本経済の歴史 5 現代1』岩波書店					
【参考書・参考資料等】					
研究テーマに即して、適宜、紹介する。					
【事前・事後学習、時間等】					
テキストを精読のうえ、報告の準備をしておくこと(200分) 修士論文については、研究計画に従って、必要な作業を進めること。					
【課題の種類・内容】					
【課題に対するフィードバックの方法】					
【成績評価方法・基準】					
修士論文の進捗状況および各回の報告・質問等(100%)					
【履修上の注意】					

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導	通年・前期・後期	単位数	使用言語	
		通年	4	日本語	
担当教員名	小野 浩				
【講義の到達目標及びテーマ】					
日本経済史の分野における研究能力を強化し、博士論文を完成させることを目標とする。					
【講義概要】					
学会等での発表、紀要・学会誌等への論文投稿に向けて準備を進めつつ、博士論文の完成を目指す。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	修士論文の総括		15	中間発表(2)本論	
2	計画作成—学会発表に向けて		16	中間発表(3)本論・結論	
3	研究テーマの検討		17	学会発表に向けての予行演習	
4	研究テーマの確定		18	計画作成—論文投稿に向けて	
5	先行研究の報告(1)		19	先行研究の整理	
6	先行研究の報告(2)		20	アウトラインの検討	
7	最新の研究動向と論点整理		21	史料・データの収集状況に関する報告	
8	史料・文献リストの作成		22	論文構成の検討	
9	アウトライン(1)報告		23	論文添削指導(1)序論	
10	アウトライン(2)修正指導		24	論文添削指導(2)本論①	
11	史料・データの収集状況に関する報告		25	論文添削指導(3)本論②	
12	論文構成(1)報告		26	論文添削指導(4)本論③	
13	論文構成(2)修正指導		27	論文添削指導(5)結論	
14	中間発表(1)序論		28	論文添削指導(6)校正	
【テキスト】					
使用しない。					
【参考書・参考資料等】					
研究テーマに即して、適宜、紹介する。					
【事前・事後学習、時間等】					
博士論文の準備段階である学会発表、論文投稿を計画的に進めること。					
【課題の種類・内容】					
【課題に対するフィードバックの方法】					
【成績評価方法・基準】					
博士論文の内容により評価する(100%)					
【履修上の注意】					

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	西洋経済史A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	花田洋一郎			
【講義の到達目標及びテーマ】				
西洋経済史は、経済学と歴史学を両親に持つ学問である。この両分野に関する大学院レベルの基礎知識習得と歴史を経済学の視点から分析する方法を身につけることを目標とする。この授業では「資本主義発展の歴史的プロセス研究」をテーマとする。				
【講義概要】				
講義では、ドイツの著名な近代史家ユルゲン・コッカの資本主義の歴史に関するテキストを用いて、西洋経済史の基礎を理論と実証双方において勉強する。講義は受講者が作成したレジュメに基づいて進める。講義を通じて、レジュメ作成方法、参考文献の利用方法、報告のやり方など基本的技術を身につける。以下の講義計画内容に沿って講義は行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	ガイダンス: 授業の方針説明と到達目標の確認。レジュメの作成指導。			
2	テキスト講読開始: 第1章「資本主義とは何か」第1節 論議の付きまとう概念			
3	第1章「資本主義とは何か」第2節 3つの古典—マルクス、ウェーバー、シュンペーター—			
4	第1章「資本主義とは何か」第3節 他の諸見解と作業のための定義			
5	第2章「商人資本主義」第1節 端緒 第2節 中国とアラビア			
6	第2章「商人資本主義」第3節 ヨーロッパ—ダイナミックな遅参者—			
7	第2章「商人資本主義」第4節 1500年頃の時代についての中間的報告			
8	第3章「拡大」第1節 ビジネスと暴力—植民地支配と世界交易—			
9	第3章「拡大」第2節 株式会社と金融資本主義			
10	第3章「拡大」第3節 プランテーション経済と奴隷制			
11	第3章「拡大」第4節 農業資本主義・鉱業・プロト工業化			
12	第3章「拡大」第5節 資本主義・文化・啓蒙主義—時代の文脈におけるアダム・スミス—			
13	第4章「資本主義の時代」第1節 工業化とグローバル化。第2節 オーナー資本主義から経営資本主義へ			
14	第4章「資本主義の時代」第3節 金融化、第4節 資本主義における労働 第5節 市場と国家			
【テキスト】				
ユルゲン・コッカ(山井敏章訳)『資本主義の歴史 起源・拡大・現在』人文書院、2018年。				
【参考書・参考資料等】				
西洋経済史関係の歴史書に目を通しておくことが望ましい。例えば、河崎・奥編著『一般経済史』ミネルヴァ書房、2018年;小野塚知二『経済史』有斐閣、2018年。				
【事前・事後学習、時間等】				
レジュメ作成と専門用語を確実に理解できるようになっておくこと(3時間程度)。テキスト各章について関連する書籍に目を通すことも必要である。報告用に作成されたレジュメについては、講義中に誤字脱字などを修正する。講義は基本的に質問をベースにしながら行う。レジュメについては、講義終了後に修正しておくこと(1時間程度)。				
【課題の種類・内容】				
講義で毎回作成するレジュメがこれにあたる。テキストの該当箇所を的確に整理し報告するための原稿を作成する。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
レジュメの内容の適否、文章内容のチェックを行い、適宜加筆・修正を行う。				
【成績評価方法・基準】				
成績の評価方法として期末試験は行わない。講義における学業への取り組みを重視する。成績評価には出席も重視するが、基本的には、毎回作成するレジュメの水準で判断する。その際の評価基準は、誤字脱字、段落などの形式面30点、文章の論理性30点、用語説明や補足資料添付などの課題への取り組みの意欲40点、計100点である。				
【履修上の注意】				
講義は出席重視であり、講義を行う場所は学術研究所の研究室とする。参考文献・史料など勉強に便利な環境であるためである。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	西洋経済史B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	花田洋一郎			
【講義の到達目標及びテーマ】				
西洋経済史は、経済学と歴史学を両親に持つ学問である。従って、この両分野に関する大学院レベルの基礎知識習得と歴史を経済学の視点から分析する方法を身につけることを目標とする。前期で養った能力を、後期ではさらに高めることを目指す。この授業では「経済成長に関する歴史的考察」をテーマとする。				
【講義概要】				
講義では定評のあるテキストを用いて西洋経済史の基礎を勉強する。テキストは著名な経済史家・環境史家であるエリック・ジョーンズの研究を使用し、世界史の観点から経済成長あるいは資本主義発展の歴史を学ぶ。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	ガイダンス: 授業の方針説明と到達目標の確認			
2	テキスト講読開始: 第1章 ひとりよがりの産業革命解釈			
3	第2章 経済成長の始点			
4	第3章 古代における成長の兆し			
5	第4章 宋代中国の事例			
6	第5章 神の碾臼			
7	第6章 征服			
8	第7章 派生的影響			
9	第8章 惰眠する国家			
10	第9章 日本(1)			
11	第9章 日本(2)			
12	第10章 ヨーロッパ(1)			
13	第10章 ヨーロッパ(2)			
14	第11章 要約と結論。テキスト全体のまとめ			
【テキスト】				
E.L.ジョーンズ(天野・重富他訳)『経済成長の世界史』(名古屋大学出版会、2007年)				
【参考書・参考資料等】				
同一著者による姉妹編である、E.L.ジョーンズ(安元・脇村訳)『ヨーロッパの奇跡—環境・経済・地政の比較史—』(名古屋大学出版会、2000年)も一読を薦める。				
【事前・事後学習、時間等】				
レジュメの作成と専門用語の説明はしっかりやっておくこと。またレジュメの修正も行うこと(総計3時間程度)。				
【課題の種類・内容】				
課題は毎回作成するレジュメ、そして用語や歴史背景の調査がそれにあたる。テキストの内容を的確にまとめること。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
レジュメの作成方法や文章の整理の仕方については、毎回指導を行う。そして加筆・修正を行う。				
【成績評価方法・基準】				
成績評価の方法として試験は行わない。講義における課題への取り組みを重視する。成績評価では出席も重視するが、基本的には毎回作成するレジュメの水準で判断する。その際の評価基準は、誤字脱字、段落などの文章作成上の形式面30点、文章の論理性30点、用語説明や補足資料添付などの課題への取り組みの意欲40点、計100点である。				
【履修上の注意】				
講義は出席重視。場所は学術研究所内の研究室とする。それは関係史料の使用という点で研究室が便利であるからである。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	西洋経済史演習	通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	花田洋一郎			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この演習では、英仏両学界で盛んに議論されている国王・都市行財政史に関する論文の講読を通じて、この分野における研究の現状と課題を学ぶ。論文の精読を通じて研究史の整理方法、研究の現状を理解し、他の関連研究論文の探索につながることを目指す。				
【講義概要】				
演習では、2本の英語論文の講読を行う。前期は英仏中・近世における国王行政に関する論文、後期は財政に関する論文を精読する。英文の正確な読解と論文における英語表現の特徴などを学ぶ。場所は、学術研究所内の研究室とする。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	ガイダンス: 前期における授業の方針説明	15	ガイダンス: 後期における授業の方針説明	
2	Introduction 1	16	Introduction	
3	Introduction 2	17	The genesis of modern state finance	
4	Types of officer 1	18	Revenue 1	
5	Types of officer 2	19	Revenue 2	
6	The scale of office-holding	20	Revenue 3	
7	The provenance, recruitment and appointment of officers 1	21	The personnel of royal finance 1	
8	The provenance, recruitment and appointment of officers 2	22	The personnel of royal finance 2	
9	appointment, venality, laicisation 1	23	Fiscal culture: principles and practice 1	
10	appointment, venality, laicisation 2	24	Fiscal culture: principles and practice 2	
11	The rewards of office	25	Fiscal culture: principles and practice 3	
12	The education of officers	26	Politics, political culture and finance 1	
13	Probity, ability, adaptability	27	Politics, political culture and finance 2	
14	Attitudes	28	Conclusion	
【テキスト】				
前期: Ch. Carpenter and O. Matteoni, Offices and officers, in C. Fletcher, J.-Ph. Genet, J. Watts, ed., <i>Government and Political Life in England and France, c. 1300-c. 1500</i> , Cambridge UP, 2015, pp. 78-115. 後期: D. Grummitt and J.-Fr. Lassalmonie, Royal public finance (c. 1290-1523), in <i>Ibid.</i> , pp. 116-149.				
【参考書・参考資料等】				
Simonetta Cavaciocchi (a cura di), <i>La fiscalità nell'Economia europea secc. XIII-XVIII. Atti delle Settimane di Studi e altri Convegni</i> , Firenze University Press, 2008 第1巻所収論文。英語、フランス語については大部の辞書を用意すること。英語は『研究社新英和辞典』、フランス語は『小学館ロベール仏和辞典』がよい。				
【事前・事後学習、時間等】				
外国語の読解能力を専門論文読解が容易になるレベルに引き上げるためには、日常的な語学学習が必要である。ラジオ番組を聞いて外国語に耳をならし(2時間程度)、なるべく早い時期に外国語専門書1冊の読了を経験すること(1日3時間程度を1か月)。				
【課題の種類・内容】				
テキストの予習・復習の徹底。授業ではレジュメを毎回作成し、正確な訳ができるように指導するので、必ず復習すること(正確なレジュメを作成する)。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
レジュメは必ず朱書して訂正を行うので、改めて自宅で修正を行うこと。もし訳が分からないところが事後的にできたら常に教員に相談し、疑問を失くすようにすること。				
【成績評価方法・基準】				
成績評価の方法として期末試験は行わない。講義における学業への取り組みを重視する。成績評価には出席も重視するが、基本的には毎回作成する訳のレジュメの水準で判断する。その際の評価基準は、レジュメの形式面30点、訳の正確さ30点、用語説明や時代背景など準備の十分さ40点、計100点である。				
【履修上の注意】				
この演習は博士論文を作成するための第1段階にあたる。研究者としての自覚を意識し、課題には真摯に取り組むこと。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	花田洋一郎			
【講義の到達目標及びテーマ】				
講義では、外国経済史の専門研究を行う上で必須の知識を得るために西洋経済史の最新のテキストを使用し、西洋経済史の理論と通史の理解を目指す。この授業のテーマは、「西洋経済史の課題と現状」とする。				
【講義概要】				
テキストのレジュメ報告を通じて、西洋経済史の通史理解を深める。そして経済学の理論と歴史学の理論との接合がどのように歴史事象の説明に適用されているのか理解する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	ガイダンス:講義日程の説明とレジュメ作成指導	15	ガイダンス:講義日程の確認	
2	序章 経済史とは何か	16	第13章 産業革命	
3	第1章 経済成長と際限のない欲望	17	第14章 資本主義の経済制度	
4	第2章 欲望充足の効率性と両義性—支配と自由—	18	第15章 国家と経済	
5	第3章 総説—前近代と近現代—	19	第16章 自然と経済	
6	第4章 共同体と生産様式	20	第17章 家と経済	
7	第5章 前近代社会の持続可能性と停滞	21	第18章 資本主義の世界体制	
8	第6章 前近代の市場、貨幣、資本	22	第19章 近代と現代	
9	第7章 総説—前近代から近代への移行—	23	第20章 第1のグローバル経済と第一次世界大戦	
10	第8章 市場経済と資本主義	24	第21章 第一次世界大戦とその後の経済	
11	第9章 近世の市場と経済活動	25	第22章 第二次世界大戦とその後の経済	
12	第10章 近世の経済と国家	26	第23章 第2のグローバル化の時代	
13	第11章 近世の経済規範	27	終章 経済成長の限界と可能性	
14	第12章 経済発展の型。まとめ	28	テキスト講評と関連書籍	
【テキスト】				
小野塚知二『経済史 今を知り、未来を生きるために』有斐閣、2018年。				
【参考書・参考資料等】				
西洋経済史の様々な理論を理解するために、河崎・奥編著『一般経済史』ミネルヴァ書房、2018年；小田中直樹『ライブ・経済史入門 経済学と歴史学を架橋する』勁草書房、2017年；佐藤昇編 神戸大学文学部史学講座『歴史の見方・考え方 大学で学ぶ考える歴史』山川出版社、2018年を挙げておく。金澤監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年も重要である。				
【事前・事後学習、時間等】				
西洋経済史に関しては、最新の研究動向を把握するために『社会経済史学』『歴史と経済』『史学雑誌』といった日本歴史学界の主要雑誌を、図書館で定期的にチェックすること(週に2時間)。さらに論文はコピーしてファイルし、参考文献表を作成する。また海外の論文については定評ある検索エンジンを使って、定期的に論文探索を行うこと(週に2時間)。				
【課題の種類・内容】				
授業では毎回レジュメ作成を求める。レジュメでは、担当する章の概要、用語説明、関連する参考文献を書くこと。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
レジュメは毎回修正箇所を朱書するので、後で修正すること。そして定期的に新しい文献を参考文献表に追加すること。				
【成績評価方法・基準】				
成績の評価方法として期末試験は行わない。出席と同様にレジュメの水準を重視する。具体的な評価基準は、誤字脱字等のレジュメの形式面の出来30点、レジュメの論理性30点、用語説明や補足資料の添付などレジュメ作成への取り組み40点、計100点である。				
【履修上の注意】				
この演習は、西洋経済史に関する専門知識の習得を目指しているため、何よりも真面目に着実に取り組む姿勢が重要である。予習と復習をしっかりとやること、そしてわからない箇所をなござりにしない、いわば勉強するためのタフさが重要である。さらに博士論文作成に必須のスキルを身につけることも意図している。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	労働経済学A	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	伊佐勝秀			
【講義の到達目標及びテーマ】				
修士論文等の執筆に必要な、労働経済学の標準的な概念やツールを習得してもらう。				
【講義概要】				
英語圏で標準的とされている、新古典派労働経済学の立場に立つ下記のテキストの最新版を元に講義を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	Introduction to Labor Economics			
2	Labor Supply			
3	Labor Demand			
4	Labor Market Equilibrium (1)			
5	Labor Market Equilibrium (2)			
6	Compensating Wage Differentials			
7	Education			
8	The Wage Distribution			
9	Labor Mobility			
10	Labor Market Discrimination (1)			
11	Labor Market Discrimination (2)			
12	Labor Unions			
13	Incentive Pay			
14	Unemployment			
【テキスト】				
George Borjas <i>Labor Economics (8th Edition)</i> , McGraw-Hill, 2019				
【参考書・参考資料等】				
Ronald G. Ehrenberg, Kevin Hallock, Robert S. Smith <i>Modern Labor Economics: Theory and Public Policy (14th Edition)</i> , Routledge, 2021				
【事前・事後学習、時間等】				
学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学及び計量経済学の基礎を復習しておくこと。				
【課題の種類・内容】				
必要に応じて練習問題を課す。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
練習問題を課した時は次の授業で解説する。				
【成績評価方法・基準】				
出席、レポート及び期末試験。				
【履修上の注意】				
毎回出席すること。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	労働経済学B	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	伊佐勝秀			
【講義の到達目標及びテーマ】				
「労働経済学A」で習得した知識を前提に、修士論文等の執筆に有益と思われる、労働経済学の発展的な話題を学び、それに付随する概念やツールを習得してもらう。				
【講義概要】				
本講義では「労働経済学特論」として、近年、発展の著しい「人事経済学(Personnel Economics)」の基礎を学ぶ。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	Principal-Agent Problem: Basics (1)			
2	Principal-Agent Problem: Basics (2)			
3	Principal-Agent Problem: Applications (1)			
4	Principal-Agent Problem: Applications (2)			
5	Empirical Methods in Personnel Economics (1)			
6	Empirical Methods in Personnel Economics (2)			
7	Employee Selection (1)			
8	Employee Selection (2)			
9	Employee Training (1)			
10	Employee Training (2)			
11	Models of Tournament (1)			
12	Models of Tournament (2)			
13	Teams (1)			
14	Teams (2)			
【テキスト】				
Peter Kuhn, <i>Personnel Economics</i> , Oxford University Press, 2017				
【参考書・参考資料等】				
James N. Baron, David M. Kreps <i>Strategic Human Resources: Frameworks for General Managers</i> , Wiley; 1999				
【事前・事後学習、時間等】				
学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学及び計量経済学の基礎を復習しておくこと。				
【課題の種類・内容】				
必要に応じて練習問題を課す。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
練習問題を課した時は次の授業で解説する。				
【成績評価方法・基準】				
出席、レポート及び期末試験。				
【履修上の注意】				
毎回出席すること。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	労働経済学演習	通年・前期・後期		単位数	使用言語
		通年		4	日本語
担当教員名	伊佐勝秀				
【講義の到達目標及びテーマ】					
本演習では、受講生が自ら設定した研究テーマに沿って、担当教員の指導の下に、修士号取得のための論文を仕上げることを目標とする。修士論文では、特定研究領域におけるサーベイ論文が書ければよしとする。そのために、最低でも100点以上の国内外の専門書・論文を読破することを目標とすること。					
【講義概要】					
前半では、初回に受講者が予め作成したスケルトン(研究テーマ、概要、目次、文献リストからなる2頁程度の論文執筆計画書)の報告を行い、その添削後に文献リストのうち特に重要と思われる文献を数点選び、精読する。後半では、前半の作業を踏まえてスケルトンの見直しを行った上で論文の章もしくは節毎の報告を行ってもらい、指導教員との討議を通じて論文の完成度を徐々に高めてゆく。なお、受講者の作業進捗度に応じて、講義計画は変更される可能性がある。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	スケルトンの報告(1)		15	先行研究の総括(メタサーベイ)	
2	文献リストの作成		16	スケルトンの報告(2)	
3	先行研究の個別検討(1):労働供給		17	草稿報告(1)	
4	先行研究の個別検討(2):労働需要		18	草稿報告(2)	
5	先行研究の個別検討(3):雇用量と賃金の決定		19	草稿報告(3)	
6	先行研究の個別検討(4):賃金格差		20	草稿報告(4)	
7	先行研究の個別検討(5):教育訓練		21	草稿報告(5)	
8	先行研究の個別検討(6):国内労働移動		22	草稿報告(6)	
9	先行研究の個別検討(7):労使関係		23	草稿報告(7)	
10	先行研究の個別検討(8):差別		24	中間総括	
11	先行研究の個別検討(9):内部労働市場		25	草稿報告(8)	
12	先行研究の個別検討(10):失業		26	草稿報告(9)	
13	先行研究の個別検討(11):所得分配		27	草稿報告(10)	
14	先行研究の個別検討(12):国際労働移動		28	完成稿の検討・確認	
【テキスト】					
受講者の関心に応じて決める。差し当たり、Handbook of Labor Economics所収の論文や『日本労働研究雑誌』所収の「学界展望」、及びそれらで取り上げられている重要論文を考えている。					
【参考書・参考資料等】					
小浜裕久、木村福成『経済論文の作法(第3版) 勉強の仕方・レポートの書き方』日本評論社、2011年					
【事前・事後学習、時間等】					
常に最新の研究動向に注意すること。					
【課題の種類・内容】					
指導教員や学内外の他の院生との切磋琢磨を心がけること。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
【成績評価方法・基準】					
出席状況と研究の進捗状況(50%)、報告討論の内容(50%)で評価する。					
【履修上の注意】					
早めに論文執筆作業に着手すること。いわゆる「眼高手低」では、論文はいつまでたっても形をなさない。なお、演習前半の「先行研究の個別検討」で明示されているテーマは、あくまで例示であり、受講者の問題関心に応じて適宜変更する。また、演習後半の「草稿報告」は、受講者のスケルトン等が不明のままでは具体的に書きようがないので、上記のように抽象的な文言に止めている。					

2022年度大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	環境経済学A	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	小出 秀雄			
【講義の到達目標及びテーマ】				
環境経済学の分野を網羅した文献を精読することによって、環境経済学・環境政策学の基本的な考え方と分析手法を学修する。この学修を起点として、世間で話題となっている環境問題および環境政策の多くを理解し、さらに経済のしくみをよりよく学ぶことができる。この講義は、小出が顧問を務める西南まちづくりラボと連携している。				
【講義概要】				
環境経済学の考え方と手法を丁寧に解説した栗山浩一・馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ』をテキストとし、受講生主導による講義と議論を行う。全員が該当箇所を読んでいることを前提に、まずその回に講義を担当する受講生が内容を概説してから、担当教員を交えて質疑応答を活発に行う。そして、現行の政策をどう評価すべきか、あるいはどう変えるべきかを議論する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	ガイダンス、役割分担の確認			
2	〔序〕環境問題と経済学			
3	〔第1章〕私たちの生活と環境(1)経済発展、ごみ問題			
4	〔第1章〕私たちの生活と環境(2)地球温暖化問題			
5	〔第2章〕環境問題発生メカニズム(1)外部性、共有資源			
6	〔第2章〕環境問題発生メカニズム(2)公共財、フリーライダー			
7	〔第3章〕環境政策の基本理論(1)直接規制、税・補助金			
8	〔第3章〕環境政策の基本理論(2)直接交渉、排出量取引			
9	〔第4章〕環境政策への応用(1)政策手段の選択、廃棄物政策			
10	〔第4章〕環境政策への応用(2)パリ協定、地球温暖化対策			
11	〔第5章〕環境の価値評価(1)環境の価値、顕示選好法			
12	〔第5章〕環境の価値評価(2)表明選好法、費用便益分析			
13	〔第6章〕企業と環境問題(1)企業の環境対策、社会的責任、環境リスク			
14	〔第6章〕企業と環境問題(2)生物多様性と生態系、個人研究発表、まとめ			
【テキスト】				
栗山浩一・馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ』(有斐閣、第4版、2020年)				
【参考書・参考資料等】				
参考書は、適宜指示する。テキストの内容に関連する資料を、その都度配布する。講義中は、環境の実態と政策を知るネット情報として、国の環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書< http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/ >、福岡市の環境< https://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/ >などをたびたび利用する。				
【事前・事後学習、時間等】				
精読箇所は事前に必ず読み込んでおき、理解が困難な点については、参考文献等に当たって解決を図ること(100分程度)。また、講義中に理解が十分でなかった点、あるいはさらに探究すべき課題が与えられた場合は、次回の講義あるいは設定された期日までに、必ずそれらに取り組んでおくこと(100分程度)。				
【課題の種類・内容】				
個別テーマに関するレポート、他大学や研究会での発表など				
【課題に対するフィードバックの方法】				
面前で指導、添削など				
【成績評価方法・基準】				
精読の内容の理解度、解説および質疑応答時の内容、議論への積極的な参加の姿勢等を総合的に考慮し、評価を行う(60点)。また、時折与える研究課題(レポート、発表など)の成果も、評価の対象である(40点)。				
【履修上の注意】				
講義への皆勤に加えて、小出が顧問を務める西南まちづくりラボの研究会や地域実践活動にも極力参加すること。				

2022年度大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	環境経済学B	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	小出 秀雄			
【講義の到達目標及びテーマ】				
循環型社会の形成に向けた到達点と政策課題を明らかにした文献を精読することによって、環境経済学・環境政策学の最新トピックを学修する。この分野をきっかけに、環境問題および環境政策の本質を理解し、さらに経済のしくみをよりよく学ぶことができる。この講義は、小出が顧問を務める西南まちづくりラボと連携している。				
【講義概要】				
循環型社会の形成に関する研究成果を解説した鷺田豊明・笹尾俊明編『循環型社会をつくる』をテキストとし、受講生主導による講義と議論を行う。全員が該当箇所を読んでいることを前提に、まずその回に講義を担当する受講生が内容を概説してから、担当教員を交えて質疑応答を活発に行う。そして、現行の政策をどう評価すべきか、あるいはどう変えるべきかを議論する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	ガイダンス、役割分担の確認			
2	〔序章〕循環型社会形成に向けた廃棄物管理と資源循環			
3	〔第1章〕廃棄物政策と法制度(1)法体系			
4	〔第1章〕廃棄物政策と法制度(2)EPRとDfE			
5	〔第2章〕廃棄物排出抑制の経済政策			
6	〔第3章〕適正処理推進のための制度設計(1)不法投棄の現状			
7	〔第3章〕適正処理推進のための制度設計(2)不法投棄抑制の経済学			
8	〔第4章〕廃棄物処理の費用と便益(1)費用便益分析			
9	〔第4章〕廃棄物処理の費用と便益(2)外部費用を考慮した分析			
10	〔第5章〕リサイクル制度の有効性と課題(1)EPR再論			
11	〔第5章〕リサイクル制度の有効性と課題(2)EPR政策の経済分析			
12	〔第6章〕廃棄物の越境移動と国際的な管理(1)制度			
13	〔第6章〕廃棄物の越境移動と国際的な管理(2)アジア地域			
14	〔第7章〕放射性廃棄物の現状と課題、個人研究発表、まとめ			
【テキスト】				
鷺田豊明・笹尾俊明編『循環型社会をつくる』(岩波書店、2015年)				
【参考書・参考資料等】				
参考書は、適宜指示する。テキストの内容に関連する資料を、その都度配布する。講義中は、環境の実態と政策を知るネット情報として、国の環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書< http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/ >、福岡市の環境< https://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/ >などをたびたび利用する。				
【事前・事後学習、時間等】				
精読箇所は事前に必ず読み込んでおき、理解が困難な点については、参考文献等にあたって解決を図ること(100分程度)。また、講義中に理解が十分でなかった点、あるいはさらに探究すべき課題が与えられた場合は、次回の講義あるいは設定された期日までに、必ずそれらに取り組んでおくこと(100分程度)。				
【課題の種類・内容】				
個別テーマに関するレポート、他大学や研究会での発表など				
【課題に対するフィードバックの方法】				
面前での指導、添削など				
【成績評価方法・基準】				
精読の内容の理解度、解説および質疑応答時の内容、議論への積極的な参加の姿勢等を総合的に考慮し、評価を行う(60点)。また、時折与える研究課題(レポート、発表など)の成果も、評価の対象である(40点)。				
【履修上の注意】				
講義への皆勤に加えて、小出が顧問を務める西南まちづくりラボの研究会や地域実践活動にも極力参加すること。				

2022年度大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済政策演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	小出 秀雄			
【講義の到達目標及びテーマ】				
中国で起こっている生活廃棄物問題を政策科学的な視点でとらえた文献を精読することによって、同問題の深刻な現状と対処方法について学修する。そして、関連する論文も読み込みつつ、理論経済モデルを用いた分析の可能性を議論する。この講義は、小出が顧問を務める西南まちづくりラボと連携している。				
【講義概要】				
金紅実・何彦旻編著『中国都市廃棄物と環境ガバナンス』をテキストとして、受講生主導による講義と議論を行う。まず、その日に講義を担当する受講生が内容を概説してから、担当教員を交えて質疑応答を活発に行う。そして、現行の政策をどう評価すべきか、あるいはどう変えるべきかを議論する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	ガイダンス、役割分担の確認	15	〔第5章〕自動車解体産業のinformality (1)	
2	〔第1章〕中国都市生活廃棄物政策の後進性(1)	16	〔第5章〕自動車解体産業のinformality (2)	
3	〔第1章〕中国都市生活廃棄物政策の後進性(2)	17	〔第5章〕地方政府の関与	
4	〔第1章〕環境ガバナンスの位置づけ	18	〔第6章〕ごみ分別意識調査(1)	
5	〔第2章〕都市生活廃棄物の政策の変遷(1)	19	〔第6章〕ごみ分別意識調査(2)	
6	〔第2章〕都市生活廃棄物の政策の変遷(2)	20	〔第6章〕意識向上対策	
7	〔第2章〕都市生活廃棄物の政策の変遷(3)	21	関連論文ピックアップ(1)家電リサイクル	
8	〔第3章〕ごみ排出の現状と決定要因(1)	22	関連論文ピックアップ(2)自動車リサイクル	
9	〔第3章〕ごみ排出の現状と決定要因(2)	23	関連論文ピックアップ(3)食品リサイクル	
10	〔第3章〕ごみ排出の現状と決定要因(3)	24	〔第7章〕中国の政策の進展と課題(1)	
11	〔第4章〕廃家電政策の現状と課題(1)	25	〔第7章〕中国の政策の進展と課題(2)	
12	〔第4章〕廃家電政策の現状と課題(2)	26	〔第7章〕中国と日本との比較	
13	〔第4章〕廃家電政策の現状と課題(3)	27	〔第7章〕中国と台湾との比較	
14	個人研究発表(1)構想	28	個人研究発表(2)プレゼン、まとめ	
【テキスト】				
金紅実・何彦旻編著『中国都市廃棄物と環境ガバナンス』(晃洋書房、2018年)				
【参考書・参考資料等】				
参考書は、適宜指示する。テキストの内容に関連する資料を、その都度配布する。講義中は、環境の実態と政策を知るネット情報として、国の環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書< http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/ >、福岡市の環境< https://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/ >などをたびたび利用する。				
【事前・事後学習、時間等】				
精読箇所は事前に必ず読み込んでおき、理解が困難な点については、参考文献等にあたって解決を図ること(100分程度)。また、講義中に理解が十分でなかった点、あるいはさらに探究すべき課題が与えられた場合は、次回の講義あるいは設定された期日までに、必ずそれらに取り組んでおくこと(100分程度)。				
【課題の種類・内容】				
個別テーマに関するレポート、他大学や研究会での発表など				
【課題に対するフィードバックの方法】				
面前での指導、添削など				
【成績評価方法・基準】				
精読の内容の理解度、解説および質疑応答時の内容、議論への積極的な参加の姿勢等を総合的に考慮し、評価を行う(60点)。また、時折与える研究課題(レポート、発表など)の成果も、評価の対象である(40点)。				
【履修上の注意】				
講義への皆勤に加えて、小出が顧問を務める西南まちづくりラボの研究会や地域実践活動にも極力参加すること。				

2022年度大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導		通年・前期・後期	単位数	使用言語
			通年	4	日本語
担当教員名	小出 秀雄				
【講義の到達目標及びテーマ】					
環境経済学の主要な研究書と関連論文を受講生と担当教員が精読し、知識と理解を深めていくとともに、受講生が研究テーマに定めた専門論文の執筆準備から完成まで指導する。その延長として、プレゼンテーション(学会や研究会での報告)、紀要を含めた学術誌への投稿、そして学位論文の提出を目指す。					
【講義概要】					
まず、環境経済学の到達点を若手研究者が分担執筆した、細田衛士編著『環境経済学』をテキストとして、精読と議論を行う。その成果を踏まえつつ、専門論文の準備と執筆、中間報告、改善などに関する細かい指導を行う。また別途、小出が顧問を務める西南まちづくりラボの研究会で報告する。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	ガイダンス		15	精読(6)環境税	
2	精読(1)現代経済と環境問題		16	精読(7)排出量取引	
3	精読(2)環境保全の制度的側面		17	精読(8)企業の自主的取り組みと環境経営	
4	精読(3)自然環境と公共財		18	精読(9)廃棄物とリサイクル	
5	精読(4)再生不可能資源		19	精読(10)経済成長と環境	
6	精読(5)再生可能資源とオープンアクセス		20	精読(11)環境と国際経済	
7	論文準備(1)最近の条約・法律		21	精読(12)持続可能な開発と世代間の衡平	
8	論文準備(2)最近の研究動向		22	論文執筆(1)目次構成	
9	論文準備(3)理論分析		23	論文執筆(2)数学表現	
10	論文準備(4)実証分析		24	論文執筆(3)文章表現	
11	論文準備(5)数学表現		25	論文中間報告(1)構成	
12	論文準備(6)図解方法		26	論文中間報告(2)モデル	
13	論文準備(7)文体		27	論文改善(1)目次構成	
14	論文準備(8)構成、前期のまとめ		28	論文改善(2)数学表現、後期のまとめ	
【テキスト】					
細田衛士編著『環境経済学』(ミネルヴァ書房、2012年)					
【参考書・参考資料等】					
上記テキストの各章に記載されている参考文献の論文をはじめ、適宜指示する。その回の内容に関連する資料を、その都度配布する。					
【事前・事後学習、時間等】					
精読箇所は事前に必ず読み込んでおき、理解が困難な点については、テキスト記載の原論文等で解決を図ること(100分程度)。また、研究指導中に理解が十分でなかった点、あるいは課題が与えられた場合は、時を置かずに必ずそれらに取り組むこと(100分程度)。					
【課題の種類・内容】					
サーベイ論文、他大学や研究会での発表、本論文など					
【課題に対するフィードバックの方法】					
面前での指導、添削など					
【成績評価方法・基準】					
精読の内容の理解度および積極的な質疑応答(40点)、サーベイ論文の内容(20点)、そして本論文(40点)の内容に基づき評価する。					
【履修上の注意】					
よほどの事情がない限り、修士論文あるいはこれに準ずる論文から、研究の方向性を大きく変えないこと。					

2022年度大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	学位論文指導	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	小出 秀雄			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義は、環境経済学およびその関連分野における研究手法を身につけ、学位論文作成の基礎能力を養成するためのものであり、研究テーマの設定方法、研究遂行上の調査分析の方法、研究結果の論文としてのまとめ方の習熟等を目標とする。				
【講義概要】				
代表的な研究論文を具体例として、研究テーマの設定方法と先行研究等との関連性、テーマを分析するための資料収集方法、資料やモデルの分析方法、結果を論文にまとめる際の倫理面を含めた注意点、学術論文の形式や書き方等について研究していく。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	講義内容と進め方:リーディングリストの配布			
2	研究テーマの設定方法(1)分野の理解			
3	研究テーマの設定方法(2)研究動向			
4	研究テーマの設定方法(3)学術論文の読み方			
5	先行研究との関連性の整理(1)参考文献			
6	先行研究との関連性の整理(2)数学手法			
7	先行研究との関連性の整理(3)政策含意			
8	資料収集の方法(1)図書館利用			
9	資料収集の方法(2)ネット利用			
10	資料の分析方法(1)概要			
11	資料の分析方法(2)計算			
12	資料の分析方法(3)図解			
13	学術論文の形式等			
14	論文のまとめ方:目次構成、数学表現			
【テキスト】				
授業の初回にリーディングリストを配布する。				
【参考書・参考資料等】				
リーディングリスト以外に必要な資料等は、その都度指示する。				
【事前・事後学習、時間等】				
それぞれの文献について、その回の講義の目的に即して事前に読み込むこと(100分程度)。また、毎回の講義後に、自分の研究に活用できる部分を具体的に確認すること(100分程度)。				
【課題の種類・内容】				
授業時間内での発表など				
【課題に対するフィードバックの方法】				
面前での指導、添削など				
【成績評価方法・基準】				
広義の内容の理解および積極的な質疑応答(50点)、必要に応じて与えられる課題(50点)の内容に基づき評価する。				
【履修上の注意】				
講義は受け身ではなく、積極的な姿勢で臨むこと。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済地理学A	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	山村 英司			
【講義の到達目標及びテーマ】				
研究者としての基礎をつくるため、英語文献を自力で理解することと、データを利用した分析をする能力を養成する。このような最低限の能力に加え、これらの知識を駆使して経済地理をテーマにして論文を書くことを目指す。				
【講義概要】				
定評ある英語テキストの講読および、国際学術雑誌に掲載された近年の論文を読むことにより、経済地理およびその関連分野の知識を身につける。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	講義内容の説明			
2	Working Tools			
3	Utility and Preferences in Geography			
4	Consumption and Demand in Geography			
5	Applications and Extensions of Demand Theory in Geography			
6	The Business Firm in Geography			
7	Equilibrium in the Product Market: Competitive Industry in Geography			
8	Monopolies, Cartels, and Networks in Geography			
9	Product Quality and Product Variety in Geography			
10	Consumption among the Few: Oligopoly and Strategic Behavior in Geography			
11	Dealing with Uncertainty: The Economics of Risk and Information in Geography			
12	Demand for Factor Services in Geography			
13	Resource Supply and Factor-Market Equilibrium in Geography			
14	Exchange, Transaction Costs, and Money in Geography			
【テキスト】				
Goolsbee, A., Levitt, S., Syverson, C. (2016). Microeconomics (2nd ed). Worth Publ.				
【参考書・参考資料等】				
American Economic Review, Quarterly Journal of Economics, Review of Economics and Statisticsなどの学術誌に掲載された学術論文。				
【事前・事後学習、時間等】				
講義で取り扱った知識を完全なものとする。講義はすでに学習した内容を応用して進めていく。したがって、復習をしていなければ、それ以降の講義についていくことは困難となる。				
【課題の種類・内容】				
アカデミックな英語論文を自由に読むための、基礎的な英語読解力を身につけておくこと。事前に指定した教材の予習範囲を精読する。可能な限りその内容を理解するように努力する。テキストは毎回1chapter進み、さらに学術論文を1本の内容を報告する。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
毎回、講義中に報告内容について指導教授よりコメント及び内容確認の詳細な質問がある。				
【成績評価方法・基準】				
講義における質問への応答(40点)、報告における学問的な正確性(30点)、宿題の達成度(30点)の配点で評価する。				
【履修上の注意】				
ミクロ経済学および計量経済学の知識が身につけているという前提で講義を行う。最低限の知識として経済学においてElasticity(弾力性)が何を意味するのか、なぜこの概念が必要になるのかななどを熟知していることがあげられる。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済地理学B	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	山村 英司			
【講義の到達目標及びテーマ】				
研究者としての基礎をつくるため、英語文献を自力で理解することと、データを利用した分析をする能力を養成する。このような最低限の能力に加え、これらの知識を駆使して経済地理をテーマにして論文を書くことを目指す。				
【講義概要】				
定評ある英語テキストの講読および、国際学術雑誌に掲載された近年の論文を読むことにより、経済地理およびその関連分野の知識を身につける。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	講義内容の説明			
2	Market structure and geography 1: agglomeration			
3	Market structure and geography 2: distance			
4	Market structure and geography 3: scale economy			
5	Market structure and geography 4: Space			
6	Political economy and disaster 1: Growth			
7	Political economy and disaster 2: risk			
8	Political economy and disaster 3: Hanshin-awaji			
9	Political economy and disaster 4: Fertility			
10	Political economy and disaster 5: corruption			
11	Economic background and geography 1: colony			
12	Economic background and geography 2: africa			
13	Economic background and geography 3: South america			
14	Economic background and geography 4: Asia			
【テキスト】				
Goolsbee, A., Levitt, S., Syverson, C. (2016). Microeconomics (2nd ed). Worth Publ.				
【参考書・参考資料等】				
American Economic Review, Quarterly Journal of Economics, Review of Economics and Statisticsなどの学術誌に掲載された学術論文。				
【事前・事後学習、時間等】				
講義で取り扱った知識を完全なものとする。講義はすでに学習した内容を応用して進めていく。したがって、復習をしていなければ、それ以降の講義についていくことは困難となる。				
【課題の種類・内容】				
アカデミックな英語論文を自由に読むための、基礎的な英語読解力を身につけておくこと。事前に指定した教材の予習範囲を精読する。可能な限りその内容を理解するように努力する。テキストは毎回1chapter進み、さらに学術論文を1本の内容を報告する。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
毎回、講義中に報告内容について指導教授よりコメント及び内容確認の詳細な質問がある。				
【成績評価方法・基準】				
講義における質問への応答(40点)、報告における学問的な正確性(30点)、宿題の達成度(30点)の配点で評価する。				
【履修上の注意】				
ミクロ経済学および計量経済学の知識が身につけているという前提で講義を行う。最低限の知識として経済学においてElasticity(弾力性)が何を意味するのか、なぜこの概念が必要になるのかなどを熟知していることがあげられる。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済政策演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	山村 英司			
【講義の到達目標及びテーマ】				
研究者としての基礎をつくるため、英語文献を自力で理解すること、データを利用した分析をする能力を養成する。このような最低限の能力に加え、これらの知識を駆使して英語で論文を書き、国際的学術誌に論文を掲載することを目指す。				
【講義概要】				
定評ある英語テキストの講読および、データを利用した演習を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	講義内容の説明	15	15. Random assignment solves	
2	1.The simple regression model	16	16. Making regression make sense	
3	2.Multiple regression analysis: estimation	17	17. Regression causality	
4	3.Multiple regression analysis: inference	18	18. Nonlinearity	
5	4.Multiple regression analysis: OLS analysis	19	19. Instrumental variables in action	
6	5.Multiple regression analysis: further issues	20	20. IV and causality	
7	6. Multiple regression analysis: Qualitytative informaiton	21	21. Asymptotic 2SLS inference	
8	7. Multiple regression analysis: Probit	22	22. Two-sample iV and Split-sample IV	
9	8. Multiple regression analysis: Ordered probit	23	23.IV with heterogenous potential outcomes	
10	9. Simple panel data analysis: basic	24	24. Generalizing LATE	
11	10.Simple panel data analysi: Fixed Effects	25	25. Difference-in-difference (1) Pool data	
12	11. Simple panel data analysi: Rnadam Effects	26	26. Difference-in-difference (2) Panel data	
13	12. Simple panel data analysis: two way model	27	27. The bias of robust standard error estimates	
14	13. The experimental ideal	28	28. Clustering in panel	
【テキスト】				
Wooldridge, J.. <i>Introductory Econometrics, A Modern Approach</i> , South-Western, 2009. Angrist, J.D., Pischke, J.S. <i>Mostly Harmless Econometrics: An Empirisist's Companion</i> , Princeton Univ Press, 2009.				
【参考書・参考資料等】				
<i>Americacn Economic Review, Quarterly Journal of Economics, Review of Economics and Statistics</i> などの学術誌に掲載された学術論文。				
【事前・事後学習、時間等】				
アカデミックな英語論文を自由に読むため、基礎的な英語読解力を身につけておくこと。事前に自らデータを構築し、それを回帰分析するために計量経済学のテキストにでる問題を解いておくこと。事後的には、推計結果の解釈をする。				
【課題の種類・内容】				
テキストの各章末に登場する、練習問題を解く。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
課題への取り組みを報告する。それに対し指導教授はアドバイスすることにより、各自の研究課題への応用を促す。				
【成績評価方法・基準】				
講義における質問への応答(40点)、報告における学問的な正確性(30点)、宿題の達成度(40点)の配点で評価する。				
【履修上の注意】				
講義で利用する教材はすべて、英語で書かれているので、一定の英語力を要求する。基本的なミクロ経済学および計量経済学の知識が身につけているという前提で講義を行う。例えば、OLSや2SLSなどの手法について基本的な知識は事前に学習しておくこと。さらに、予習復習に多大な労力を注がなければ、単位取得は困難である。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導		通年・前期・後期	単位数	使用言語
			通年		
担当教員名	山村 英司				
【講義の到達目標及びテーマ】					
研究者としての基礎をつくるため、英語文献を自力で理解すること、英語で論理的に論文を書くための文章力を身につける。さらに、データを利用した分析を行い、実際に英語で論文を書くこと、国際的学術誌に論文を投稿し、これを掲載させるための方法論を身につける。					
【講義概要】					
英語実証論文の執筆と、国際的学術誌への掲載を目指すトレーニングを具体的に行う。国際学術雑誌への投稿方法、論文査読者の改定要求への対応の方法などを実戦を通して学習する。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画		No.	講義計画	
1	1. 国際的学術誌の種類と役割		15	14. 仮説提起の書き方(2) ストーリー展開	
2	2. 投稿先の国際的学術誌の選定方法		16	15. 回帰モデルを説明する文の書き方	
3	3. 国際的学術誌への投稿方法とフォーマット作成		17	16. 検証結果の書き方(1) 統計的有意性	
4	4. 国際的学術誌から届く意思決定への対応法		18	17. 検証結果の書き方(2) 妥当性のテスト	
5	5. Revise 要求のコメントの種類と対応法		19	18. 検証結果の解釈の書き方(1) 仮説との関連	
6	6. Revise要求の手紙への説明書の書き方		20	19. 検証結果の解釈の書き方(2) コントロール変数	
7	7. 論文テーマの設定		21	20. Discussionの書き方(1) 先行研究との関わり	
8	8. 論文の構造		22	21. Discussionの書き方(2) 政策的含意	
9	9. Introduction の書き方		23	22. 結論の書き方(1) 問題設定と発見	
10	10. Settingの書き方		24	23. 結論の書き方(2) 今後の課題	
11	11. 図および表の作成方法		25	24. 脚注の種類と書き方	
12	12. データの説明文の書き方		26	25. 参考文献の書き方	
13	13. 基本統計量の解釈と説明の書き方		27	28. 文献整理の方法	
14	14. 仮説提起の書き方(1) 数理的モデルの利用		28	29. 統計データの加工方法と保存	
【テキスト】					
酒井 聡樹『これから論文を書く若者のために』共立出版, 2002. 小田麻里子・味園真紀『英語論文: すぐに使える表現集』ベレ出版, 2000.					
【参考書・参考資料等】					
Americacn Economic Review, Quarterly Journal of Economics, Review of Economics and Statisticsなどの学術誌に掲載された学術論文。					
【事前・事後学習、時間等】					
アカデミックな英語論文を自由に読むための、基礎的な英語読解力を身につけておくこと。また、自らデータを構築し、統計分析を行った結果をまとめてみる。国際的学術誌に掲載された論文の構造を把握し、まねて自分で書いてみる。					
【課題の種類・内容】					
講義で学んだ方法を、各自の論文テーマを題材に論文の要約版を作成する。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
課題への取り組みを報告する。それに対し指導教授はアドバイスすることにより、各自の研究課題への応用を促す。					
【成績評価方法・基準】					
講義における質問への応答(20点)、レポートを執筆し、講義で学んだ知識を活用している程度(40点)、国際的学術誌へ掲載可能なレベルに達している論文を書けたか(40点)の配点で、総合的に評価する。					
【履修上の注意】					
論文は必ず英語で書くので、一定の英語力を要求する。基本的なミクロ経済学および計量経済学の知識が身につけているという前提で講義を行う。					

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	学位論文指導I	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	山村 英司			
【講義の到達目標及びテーマ】				
研究者としての基礎をつくるため、英語文献を自力で理解すること、英語で論理的に論文を書くための文章力を身につける。さらに、データを利用した分析を行い、実際に英語で論文を書く。査読付き国際学術誌に掲載される論文を2本以上書き、これをまとめて博士論文にするための指導を行う。				
【講義概要】				
これまで書いた個別の論文をまとめ、学位論文にするための方法を具体的に挙げる。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	講義内容の説明			
2	1.出席者がこれまで書いた論文の報告(1) 目的と結果			
3	2.出席者がこれまで書いた論文の報告(2) 仮説とデータ			
4	3.出席者がこれまで書いた論文の報告(3) 推計法			
5	4.出席者がこれまで書いた論文の検討と、学位論文における位置づけ(1) 概要の説明			
6	5.出席者がこれまで書いた論文の検討と、学位論文における位置づけ(2) 学位論文の新規性			
7	6.出席者がこれまで書いた論文の検討と、学位論文における位置づけ(3) 今後の研究の課題			
8	7. 学位論文の構造			
9	8. 学位論文に引用する先行研究の整理と探索 (1) 古典的研究			
10	9. 学位論文に引用する先行研究の整理と探索 (2) 2000年以降の研究			
11	10.学位論文の第2章になる、サーベイ論文の構想報告			
12	11.学位論文の第2章になる、サーベイ論文の検討			
13	12. 学位論文全体の整合性の検討 (1) 個別の推計結果が整合性および妥当性			
14	13. 学位論文全体の整合性の検討 (2) 個別の論文を統合して学位論文にする時の連続性			
【テキスト】				
酒井 聡樹『これから論文を書く若者のために』共立出版, 2002. 小田麻里子・味園真紀『英語論文:すぐに使える表現集』ペレ出版, 2000.				
【参考書・参考資料等】				
American Economic Review, Quarterly Journal of Economics, Review of Economics and Statisticsなどの学術誌に掲載された学術論文。				
【事前・事後学習、時間等】				
すでに、これまで書いた論文がどの程度の水準に達しているか自己検証しておくこと。さらに、サーベイ論文作成のために、先行研究のリストを作り、この中に含まれる論文はすべて読むようにする。				
【課題の種類・内容】				
アカデミックな英語論文を自由に読むための、基礎的な英語読解力を身につけておくこと。事前に指定した教材の予習範囲を精読する。可能な限りその内容を理解するように努力する。テキストは毎回1chapter進み、さらに学術論文を1本の内容を報告する。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
学位論文執筆のアドバイスを挙げる、講義の終りに毎回課題を挙げる。翌週までにこの課題を達成することが望まれる。				
【成績評価方法・基準】				
講義における質問への応答(40点)、報告における学問的な正確性(30点)、宿題の達成度(30点)の配点で評価する。				
【履修上の注意】				
講義における質問への応答(20点)、課題を出すの達成度合い(20点)、学位論文の質が国際的な水準に達しているか(60点)の配点で、総合的に評価する。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	世界経済論A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	尹春志			
【講義の到達目標及びテーマ】				
現代世界経済の構造と動態を理解・研究するうえで必要な貿易・投資・通貨・国際金融に関する基本概念や理論を身につける				
【講義概要】				
下記のテキストの第一部と第二部に則して、世界経済を理解するために必要な貿易、投資、通貨交際・金融の基礎知識を復習しつつ、現実を踏まえて、通説的理解とは異なる世界経済の見方について考える、という形で講義し、討論を行う。テキストの各章の内容の密度が濃いので、2回の講義で1つの章を終える速度で進める。授業参加者には、分担してテキストの内容を要約した報告を行ってもらう。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	イントロダクション: 講義の進め方と概要説明			
2	イギリス中心の世界経済の構造: テキスト第1章			
3	第二次世界大戦後の世界経済: テキスト第2章			
4	国際貿易と国際通貨の基礎理論(1): テキスト第3章(貿易論)			
5	国際貿易と国際通貨の基礎理論(2): テキスト第3章(国際収支)			
6	国際貿易と国際通貨の基礎理論(3): テキスト第3章(外国為替)			
7	国際貿易と国際通貨の基礎理論(4): 補論(為替レートの決定理論)			
8	第二次世界大戦後の国際通貨システム(1): テキスト第4章(ブレトンウッズ体制とその崩壊)			
9	第二次世界大戦後の国際通貨システム(2): テキスト第4章(変動相場制と金融グローバル化)			
10	国際貿易システムの形成・展開・変貌(1): テキスト第5章(GATTからWTOへ)			
11	国際貿易システムの形成・展開・変貌(2): テキスト第6章(FTA/EPA)			
12	途上国における開発戦略と開発経済学の変遷: テキスト第7章			
13	対外投資と生産のグローバル化(1): テキスト第8章(対外投資)			
14	対外投資と生産のグローバル化(2): テキスト第8章(多国籍企業と生産ネットワーク)			
【テキスト】				
山本和人・鳥谷一生編著『世界経済論』ミネルヴァ書房、2019年。				
【参考書・参考資料等】				
授業中に随時支持します。				
【事前・事後学習、時間等】				
「講義計画」欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、講義前に必ず読んでくること。(1.5時間程度)。毎回の講義の初前回の講義内容について議論するので、復習して授業に臨むこと(1.5時間程度)。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
課題に関する報告(50%)や講義中の質疑・応答・議論の内容(50%)をもって評価します。事前にテキストを読み込み内容を適切に要約できているかどうか、またテキストの内容をクリティカルに読み込み具体的な問題意識をもって討論に参加しているかどうかを重視します。				
【履修上の注意】				
出席は必須ですので、事情により欠席する場合は、特別な場合を除き事前に連絡するようにしてください。質問には随時、受けとけます。事前にメールで予約してください。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	世界経済論B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	尹春志			
【講義の到達目標及びテーマ】				
現代の国際分業構造を理解するための枠組みについて理解し、現代世界経済の理解する分析する視角を修得する。				
【講義概要】				
世界経済を理解する一つの分析視角であるグローバル・バリューチェーン・アプローチを下記のテキストをベースにして学ぶ。その際、テキストの記述をそのまま理解するのではなく、その批判的検討を通じて、このアプローチが持つ多様な議論についても学ぶ。授業参加者には、分担してテキストの内容を要約した報告を行ってもらう。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	イントロダクション: 講義の進め方とGVCアプローチの位置づけ			
2	グローバル・バリューチェーンとは何か			
3	NID論と工程間国際分業論			
4	東アジアの地域的経済構造			
5	米中摩擦			
6	グローバル・バリューチェーンから見た米中摩擦			
7	付加価値貿易と世界経済			
8	付加価値貿易の計測方法			
9	グローバル・バリューチェーンの指標			
10	グローバル・バリューチェーンの類型			
11	技術革新と経済発展			
12	新しい南北問題			
13	政策提言			
14	第四次産業革命とグローバル・バリューチェーン			
【テキスト】				
猪俣 哲史『グローバル・バリューチェーン』日本経済新聞社、2019年。				
【参考書・参考資料等】				
授業中に随時支持します。				
【事前・事後学習、時間等】				
「講義計画」欄の各回の授業内容に相当するテキストの当該箇所もしくは(配布文献)、講義前に必ず読んでくること。(1.5時間程度)。毎回の講義の初前回の講義内容について議論するので、復習して授業に臨むこと(1.5時間程度)。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
課題に関する報告(50%)や講義中の質疑・応答・議論の内容(50%)をもって評価します。事前にテキストを読み込み内容を適切に要約できているかどうか、またテキストの内容をクリティカルに読み込み具体的な問題意識をもって議論に参加しているかどうかを重視します。				
【履修上の注意】				
出席は必須ですので、事情により欠席する場合は、特別な場合を除き事前に連絡するようにしてください。質問には随時、受けとけます。事前にメールで予約してください。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	世界経済論演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	尹春志			
【講義の到達目標及びテーマ】				
世界経済論の構造変化を歴史的・理論的について研究し、この分野で修士論文を作成する際の基礎認識を確立することを目標にする。				
【講義概要】				
前期は日本語で書かれた下記の、グローバル価値連鎖の視点からグローバル化を論じたテキストを輪読し分析視角を確定する。後期は、技術の視点から世界経済の歴史を論じたテキストを輪読し現代世界経済の構造変化の要因を探る。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	前期演習のガイダンス	15	後期演習ガイダンス	
2	テキスト:序章	16	テキスト:第一章 産業革命前夜の技術の歴史	
3	テキスト:第一章 第一のバンドリグ	17	テキスト:第二章 産業革命前の繁栄	
4	テキスト:第二章 第一のアンバンドリング	18	テキスト:第三章 なぜ機械化は進まなかったのか	
5	テキスト:第三章 第二のアンバンドリング	19	テキスト:第四章 工場の出現	
6	第1部をベースにした討論	20	テキスト:第五章 産業革命と不満分子	
7	テキスト:第四章 グローバリゼーションの制約	21	テキスト:第六章 大量生産から大衆の中流化へ	
8	テキスト:第五章 グローバル価値連鎖	22	テキスト:第七章 機械化問題の再燃	
9	第II部をベースにした討論	23	テキスト:第八章 中流階級の勝利	
10	テキスト:第六章 グローバリゼーションの経済学	24	テキスト:第九章 中流階級の衰退	
11	テキスト:第七章 グローバリゼーションのインパクト	25	テキスト:第十章 広がる格差	
12	テキスト:第八章 グローバリゼーション政策	26	テキスト:第十一章 政治の二極化	
13	テキスト:第九章 開発政策	27	テキスト:第十二章 人工知能	
14	テキスト:グローバリゼーションの未来	28	テキスト:第十三章 豊かな生活への道	
【テキスト】				
前期:リチャード・ポールドウィン『世界経済 大いなる収斂』日本経済新聞社。後期:カール・フレイ『テクノロジーの世界経済史』日経BP。				
【参考書・参考資料等】				
適宜指示するが、テキストを使用する場合は、当該テキストで使用されている参考文献のなかから必要なものを指示する。				
【事前・事後学習、時間等】				
テキストを事前に読むことは当然として、自ら論点を摘出しておくことが必要となる(1.5時間)。レジュメ形式の報告を求めることもある。大切なことは、内容を十分理解・消化した上で、自らの研究課題との関連性をつねに考えながら復習を行うこと(1.5時間)。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
課題に関する報告(50%)や講義中の質疑・応答・議論の内容(50%)をもって評価します。事前にテキストを読み込み内容を適切に要約できているかどうか、またテキストの内容をクリティカルに読み込み具体的な問題意識をもって討論に参加しているかどうかを重視する。				
【履修上の注意】				
向学相談には随時、応じます。事前にメールで予約してください。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	尹 春志			
【講義の到達目標及びテーマ】				
受講者各人の世界経済論に関連する博士論文作成に必要な研究手法を身につけ、論文の内容の具体化を図ることを目標とする。				
【講義概要】				
前期には修士論文の再検討と加筆修正を行い、それをもとに後期には博士論文の内容を構成することになる新たな論文の完成を目指す。新論文については、前期後半から既存研究のサーベイをはじめ、後期には具体的な論文の論点・構成の検討と作成を行う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	イントロダクション: 研究テーマの確認	15	論文サーベイ報告(1): 頭出し報告	
2	修士論文の内容報告	16	論文サーベイ報告(2): 修正報告	
3	修士論文の形式面での再検討と修正	17	論文サーベイ報告(3): 追加と補足	
4	修士論文の文献サーベイについての再検討	18	論文のサーベイ報告(4): 修正とまとめ	
5	修士論文の内容面での再検討	19	論文の論点検討	
6	修士論文関連のリーディングリストの作成	20	論文の論点の検討と修正	
7	修士論文の修正	21	論文の分析手法の確認	
8	修士論文後の課題の析出	22	統計データなどの確認・検討	
9	課題についての研究の方向性について検討	23	論文の構成検討	
10	課題についてのリーディングリストの作成	24	論文の論点別概要報告・検討	
11	論文テーマの議論(1): テーマ候補の提出と概要説明	25	論文の結論の検討	
12	論文テーマの議論(2): テーマ選定のための議論	26	論文の草稿発表	
13	論文テーマの議論(3): 既存研究文献リスト	27	論文の形式・内容面での修正	
14	論文テーマの議論(4): 研究方針の検討	28	完成論文報告	
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
受講者のテーマに則して、適宜指示する。				
【事前・事後学習、時間等】				
受講者の事前の準備に授業の内容は規定されるので、指示した課題については従前に準備すること(1.5時間)。授業中に指摘した問題点や論点について授業後に復習し(1.5時間)、十分に考えて答えをもつように努力すること。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
課題の事前準備(40%)・講義中の議論の内容(20%)・授業で得られた知見の蓄積状況(40%)で判断する。				
【履修上の注意】				
向学相談には随時、応じます。事前にメールで予約してください。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	アメリカ経済論A	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	立石 剛			
【講義の到達目標及びテーマ】				
本講義ではアメリカ経済に関する幅広い分析を通じて今後どのような経済問題が研究課題としてクローズアップされるかを考えます。この作業を通じて、就職活動を行う学生にとっては職業選択の大まかな指針を、研究を続ける学生にとっては対象とする研究分野の選択を行うことが目標です。				
【講義概要】				
トランプ政権の誕生以降、「アメリカ経済の内向化と対外摩擦の拡大」が指摘されています。本講義では、アメリカ経済を、財政システム、金融システム、技術革新、社会福祉、所得格差、エネルギー資源、国際貿易、国際金融通貨など多面的に分析することで、アメリカ経済の内向化や対外摩擦の背景にあるアメリカ経済の動向を検証します。アメリカ経済論Aではアメリカ経済で生じている主要経済問題、アメリカ経済の基本構造、第二次世界大戦後から1970年代までのアメリカ経済の変遷およびに焦点をあてます、この過程で今後どのような経済問題が研究課題として重要になるか長期的視点で考えます。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	はじめに—講義内容と進め方—			
2	問題提起 アメリカ経済で起こっていること			
3	基本構造: アメリカ産業の基本構造			
4	基本構造: 金融システムの基本構造			
5	基本構造: 企業システムの基本構造			
6	基本構造: 労使関係と国民生活の基本構造			
7	基本構造: 経済政策の基本構造			
8	基本構造: IMF・GATT体制の基本構造			
9	アメリカ経済の動揺: 冷戦体制と資本主義経済の成長			
10	アメリカ経済の動揺: IMF・GATT体制の動揺と変質			
11	アメリカ経済の動揺: ドル本位制とアメリカ経済			
12	アメリカ経済の動揺: アメリカ製造業の相対的衰退			
13	アメリカ経済の動揺: スタグフレーション下の金融システム			
14	前期内容に関する個人研究発表			
【テキスト】				
特定のテキストは利用しませんので、適宜主要文献を紹介します。				
【参考書・参考資料等】				
講義内容に関連して、適宜紹介します。				
【事前・事後学習、時間等】				
各講義前に講義範囲の提示とテキスト資料などの配布を行いますので、事前に学習しておいてください。その際、十分に理解することを目的とするだけでなく、疑問点などを整理しておくとい良いでしょう。講義前での疑問点が解決できたかどうかをしっかりとチェックしてください。また論点を整理し、今後の研究を行う際の参考にしてください。事前・事後学習の時間はそれぞれ1.6時間程度行ってください。				
【課題の種類・内容】				
前期講義で学習した内容のうち、最も関心を持ったテーマに関して、レポート形式でまとめ、それをプレゼンテーションしてもらうことを課題とします。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
レポートに関してはコメントを付して返却します。プレゼンテーションについては他の受講者とともに発表内容についてのディスカッションおよびコメントを通じてフィードバックします。				
【成績評価方法・基準】				
授業への取り組み(報告(20%)・レポート提出(20%)・プレゼンテーション(20%)・受講態度(20%)・出席状況(20%))を総合的に評価して判断します。				
【履修上の注意】				
経済学に関する基本的知識を有することを前提として講義を進めますが、講義内容や学習方法などに不明な点がある場合には、いつでも研究室を訪ねてください。研究室は学術研究所324号室です。事前にメールにて予約してください。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	アメリカ経済論B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	立石 剛			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>本講義ではアメリカ経済に関する幅広い分析を通じて今後どのような経済問題が研究課題としてクローズアップされるかを考えます。この作業を通じて、就職活動を行う学生にとっては職業選択の大まかな指針を、研究を続ける学生にとっては対象とする研究分野の選択を行うことが目標です。</p>				
【講義概要】				
<p>トランプ政権の誕生以降、「アメリカ経済の内向化と対外摩擦の拡大」が指摘されています。本講義では、アメリカ経済を、財政システム、金融システム、技術革新、社会福祉、所得格差、エネルギー資源、国際貿易、国際金融通貨など多面的に分析することで、アメリカ経済の内向化や対外摩擦の背景にあるアメリカ経済の動向を検証します。アメリカ経済論Bでは1980年代以降のアメリカ経済の再編過程と世界経済との関連性、金融危機の発生とオバマ・トランプ政権の経済政策、そして米中経済摩擦に焦点をあてます。この過程で今後どのような経済問題が研究課題として重要になるか長期的視点で考えます。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	はじめに—講義内容と進め方—			
2	アメリカ経済の再編：金融自由化と金融システムの変容			
3	アメリカ経済の再編：政府機能の転換—市場原理と規制緩和—			
4	アメリカ経済の再編：株主価値とコーポレート・ガバナンスの変化			
5	アメリカ経済の再編：伝統的労使関係の衰退			
6	アメリカ経済のグローバル化：貿易投資システムの自由化と「新しい」国際分業			
7	アメリカ経済のグローバル化：世界的金融・資本自由化とアメリカの対外債務			
8	アメリカ経済のグローバル化：アメリカの金融活況と世界経済			
9	金融危機と脱グローバル化：金融危機とアメリカ経済の長期停滞			
10	金融危機と脱グローバル化：デジタル経済化と産業構造の変化			
11	金融危機と脱グローバル化：経済格差の拡大とオバマ政権の経済政策			
12	金融危機と脱グローバル化：トランプ政権と米中経済摩擦			
13	後期のまとめ			
14	後期内容に関する個人研究発表			
【テキスト】				
<p>特定のテキストは利用しませんので、適宜主要文献を紹介いたします。</p>				
【参考書・参考資料等】				
<p>講義内容に関連して、適宜紹介いたします。</p>				
【事前・事後学習、時間等】				
<p>各講義前に講義範囲の提示とテキスト資料などの配布を行いますので、事前に学習しておいてください。その際、十分に理解することを目的とするだけでなく、疑問点などを整理しておくとい良いでしょう。講義前での疑問点が解決できたかどうかをしっかりとチェックしてください。また論点を整理し、今後の研究を行う際の参考にしてください。事前・事後学習の時間はそれぞれ1.6時間程度行ってください。</p>				
【課題の種類・内容】				
<p>前期講義で学習した内容のうち、最も関心を持ったテーマに関して、レポート形式でまとめ、それをプレゼンテーションしてもらうことを課題とします。</p>				
【課題に対するフィードバックの方法】				
<p>レポートに関してはコメントを付して返却します。プレゼンテーションについては他の受講者とともに発表内容についてのディスカッションおよびコメントを通じてフィードバックします。</p>				
【成績評価方法・基準】				
<p>授業への取り組み(報告(20%)・レポート提出(20%)・プレゼンテーション(20%)・受講態度(20%)・出席状況(20%))を総合的に評価して判断します。</p>				
【履修上の注意】				
<p>経済学に関する基本的知識を有することを前提として講義を進めますが、講義内容や学習方法などに不明な点がある場合には、いつでも研究室を訪ねてください。研究室は学術研究所324号室です。事前にメールにて予約してください。</p>				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	世界経済論演習		通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	立石剛				
【講義の到達目標及びテーマ】					
本演習では、アメリカ経済の基本構造の理解を到達目標とする。具体的には、(1)アメリカ経済の基本構造を多面的に説明することができる、(2)1930年代以降のアメリカ経済の変化を歴史区分に沿って説明することができる、そして(3)以上を世界経済におけるアメリカ経済の役割と関連付けて説明できること、を到達目標とします。					
【講義概要】					
上記の到達目標を達成するために、(1)アメリカ経済の基本的な構造についてマクロ経済構造、産業構造、金融システム、企業システム、労使関係、国民生活、政府政策、そして国際経済関係等多面的に文献を渉猟し、(2)アメリカ経済の分析に必要なデータの収集及び分析方法について実習し、(3)講義に関する課題に取り組み、発表してもらいます。					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	はじめに—講義内容と進め方—	立石	15	企業活動のグローバル化: オフショアリング・GVC	立石
2	金融危機後の経済システム: 市場原理のアメリカが権威主義の中国か	立石	16	シェールガスの世界政治への影響	立石
3	市場経済システムと国家管理型経済システム: 大恐慌とニューディールの経験から	立石	17	ビッグデータと国際的データ管理構造	立石
4	経済成長の源泉は何か: 政治体制、地勢、資源、人口、技術	立石	18	ブロックチェーンと国際貿易の未来	立石
5	人口構造の変化と低経済成長	立石	19	人工知能とデジタル権威主義: 民主主義は生き残れるのか?	立石
6	人工知能と雇用	立石	20	国際通貨の興亡の歴史: ドル体制とデジタル人民元	立石
7	オートメーション時代のと社会保障	立石	21	金融政策転換の国際的影響: 連邦準備制度による金利引き上げは何をもたらすか	立石
8	格差拡大の政治的要因: 政治的影響力を増す富裕層と失う労働組合	立石	22	金融危機の忘れられた歴史: そしていかに米欧のきずなは失われたか	立石
9	格差拡大の心理学的影響: 行動経済学による「忘れられた人々」の心理分析	立石	23	トランプの貿易政策は何を引き起こすか: アメリカ経済の孤立化	立石
10	格差拡大の政治経済的帰結: アメリカにおけるポピュリズムの歴史	立石	24	トランプ政権と国際経済秩序の未来: ブレトンウッズ体制はどこに向かうのか	立石
11	政府は格差にどう対処していくべきか: アフターピケティ	立石	25	次なるサイバー大国: 中国の製造2025とアメリカ	立石
12	大不況と金融政策: 連邦準備制度はバブルと金融危機にどのように対処したか	立石	26	米中貿易戦争の安全保障リスク: 対立は中国をどこへ向かわせるか	立石
13	「緊縮財政」という思想: 不十分な財政支出の背後にあるもの	立石	27	大恐慌への回帰か: 恐慌型経済と世界大恐慌の経験	立石
14	金融危機後の長期景気停滞をどう診るか	立石	28	1930年代の世界経済の分断と世界大恐慌	立石
【テキスト】					
Council on Foreign Relations(アメリカ外交問題評議会)が発行している雑誌Foreign Affairsに掲載されている論文を中心に、関連書籍および関連論文をテキストとして利用します。論文は日本語訳されているものを利用しますが、受講生が希望すれば原文(英語)を利用することもあります。					
【参考書・参考資料等】					
各回の講義時に参考書及び参考資料を提示します。					
【事前・事後学習、時間等】					
各講義前に講義範囲の提示とテキスト資料などの配布を行いますので、事前に学習しておいてください。その際、十分に理解することを目的とするだけでなく、疑問点などを整理しておくとい良いでしょう。講義前での疑問点が解決できたかどうかをしっかりとチェックしてください。また論点を整理し、今後の研究を行う際の参考にしてください。事前事後学習はそれぞれ1.6時間程度行ってください。					
【課題の種類・内容】					
講義内容に関連した課題を出しますので、それについてレポート形式でまとめ、それをプレゼンテーションしてもらうことを課題とします。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
レポートに関してはコメントを付けて返却します。プレゼンテーションについては発表内容についてのディスカッションおよびコメントを通じてフィードバックします。					
【成績評価方法・基準】					
授業への取り組み(報告(20%)・レポート提出(20%)・プレゼンテーション(20%)・受講態度(20%)・出席状況(20%))を総合的に評価して判断します。					
【履修上の注意】					
経済学に関する基本的知識を有することを前提として講義を進めますが、講義内容や学習方法などに不明な点がある場合には、いつでも研究室を訪ねてください。研究室は学術研究所324号室です。事前にメールにて予約してください。					

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導	通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	立石剛			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この授業は標準終了年限3年以内での学位論文作成を最終目標として、院生の定めた研究テーマを追究し、毎年1本以上の論文を作成し、研究会または学会等での発表を行うことを各年の到達目標とする。学位論文は、それらの論文の集成として完成される。				
【講義概要】				
講義は学位論文の研究テーマの確定と、今年度作成する論文のための研究内容の設定から始める。標準的なケースとしては、修士論文を加筆修正して最初の論文を作成し、そこから次の研究内容に進むことになる。なお、世界経済システムにおけるアメリカ経済衰退論をめぐる論争の分析が専門的テーマとなるので、次の文献の内容についての検討も並行して行うことになる。(1) Josef Joffe, (2009), "The Default Power: The False Prophecy of America's Decline", Foreign Affairs, (2) Robert Kagan, (2012), The World America Made, Knopf. さらに、論文のテーマごとにリーディング・リストを作って読みこなしながら、それらの内容の研究への活用方法を考察していく。				
【講義計画内容】				
No	講義計画	No	講義計画	
1	研究テーマの確認	15	論文作成方針の検討	
2	研究テーマのリーディング・リストの確認	16	第2論文作成プロセスの確認	
3	修士論文の修正(1)論文テーマと目的	17	リーディング・リスト文献の報告(7)Josef Joffe	
4	修士論文の修正(2)構成	18	リーディング・リスト文献の報告(8)Robert Kagan	
5	修士論文の修正(3)データ	19	リーディング・リスト文献の報告(9)Robert Gilpin	
6	修士論文に基づく論文作成内容の確認	20	リーディング・リスト文献の報告(10)Susan Strange	
7	リーディング・リスト文献の報告(1)国際政治経済学	21	リーディング・リスト文献の報告(11)C.P. Kindleberger	
8	リーディング・リスト文献の報告(2)国内経済構造	22	リーディング・リスト文献の報告(12)Josef Nye	
9	リーディング・リスト文献の報告(3)貿易投資構造	23	リーディング・リスト文献の報告(13)Ian Bremmer	
10	リーディング・リスト文献の報告(4)国際通貨金融構造	24	論文の概要報告(1)論文テーマと目的	
11	リーディング・リスト文献の報告(5)対欧州経済関係	25	論文の概要報告(2)構成	
12	リーディング・リスト文献の報告(6)対アジア経済関係	26	論文の概要報告(3)データ	
13	修士論文に基づく論文の報告	27	論文発表準備	
14	論文テーマの議論(1)問題意識	28	論文の発表	
【テキスト】				
各論文を作成する段階での研究テーマごとにリーディング・リストを作成し、指示します。				
【参考書・参考資料等】				
テキストと同様に、論文作成に必要な参考文献リストを作成します。				
【事前・事後学習、時間等】				
それぞれの授業の目的を意識して準備学習を行ってください。それ以外に、多様な視点を得るためにも、専門分野以外にも触れるように心がけてください。(1.6時間程度) リーディング・リストの文献に関する理解を授業での議論を通じて深めるとともに、自分の研究に活用する方法を考察するようにしてください。また自らの研究が経済社会とどのようにつながるか、そのインプリケーションを考えてください。(1.6時間程度)				
【課題の種類・内容】				
前期講義で学習した内容のうち、最も関心を持ったテーマに関して、レポート形式でまとめ、それをプレゼンテーションしてもらうことを課題とします。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
レポートに関してはコメントを付して返却します。プレゼンテーションについては他の受講者ととも発表内容についてのディスカッションおよびコメントを通じてフィードバックします。				
【成績評価方法・基準】				
成績は(1)出席、(2)研究の進捗状況、(3)文献理解の程度、(4)論文の内容を総合して判定します。判定は論文の内容の比重が大きくなりますが、出席して十分な指導を受けていないとみなされる場合は減点になります。				
【履修上の注意】				
研究活動が中心となりますが、意識して多様な視点を吸収するよう、専門外の経験も積んでください。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	東南アジア経済論A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	東 茂樹			
【講義の到達目標及びテーマ】				
東南アジア経済について、工業化の特色、農村の変化、政府の役割、グローバル化の影響、経済危機への対応などを解説する。これまでの東南アジア経済に関する議論を検討した上で、国別およびテーマ別に事例を取り上げて現状を分析し、特徴や問題点を考えていく。講義を通して、東南アジア経済の現状や問題点について理解を深めるとともに、東南アジアを対象に経済学の視点から分析する思考能力を養う。				
【講義概要】				
東南アジアの経済開発および通貨危機に関する先行研究を精読して、それぞれの特徴と問題点を把握する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	東南アジア経済の概要			
2	東南アジアの農業			
3	東南アジアの経済・社会開発			
4	東南アジアの工業化			
5	東南アジアの金融			
6	東南アジアの貿易			
7	東南アジアの直接投資			
8	東南アジアの地域統合			
9	アジア通貨危機の概要			
10	アジア通貨危機後のマクロ経済			
11	アジア通貨危機後の金融改革			
12	アジア通貨危機後の企業改革			
13	アジア通貨危機後のセーフティネット整備			
14	アジア通貨危機後の地域協力			
【テキスト】				
東茂樹編『FTAの政治経済学：アジア・ラテンアメリカ7カ国のFTA交渉』アジア経済研究所、2007年、西澤信善・北原淳編『東アジア経済の変容：通貨危機後10年の回顧』晃洋書房、2009年など。				
【参考書・参考資料等】				
Jonathan Rigg ed. Southeast Asian Development Volume 3, Routeledge, 2008など				
【事前・事後学習、時間等】				
テキストを必ず事前に読んで、理解できたことと理解できなかったことをまとめておいてください(100分程度)。毎回の講義の中で指摘した論点について、さらに参考文献を読んで、統計資料を使って分析し、まとめてください(100分程度)。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
講義への事前準備、講義での報告、発言や質問内容を総合的に評価して判断する。				
【履修上の注意】				
特になし				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	東南アジア経済論B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	東 茂樹			
【講義の到達目標及びテーマ】				
東南アジア経済について、工業化の特色、農村の変化、政府の役割、グローバル化の影響、経済危機への対応などを解説する。これまでの東南アジア経済に関する議論を検討した上で、国別およびテーマ別に事例を取り上げて現状を分析し、特徴や問題点を考えていく。講義を通して、東南アジア経済の現状や問題点について理解を深めるとともに、東南アジアを対象に経済学の視点から分析する思考能力を養う。				
【講義概要】				
東南アジア諸国が直面している最近の経済的な課題に関して、地域経済統合と通貨危機後の産業再編を取り上げ分析する思考力を養う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	タイの経済			
2	フィリピンの経済			
3	マレーシアの経済			
4	インドネシアの経済			
5	アジア通貨危機の産業再編			
6	自動車産業の事例			
7	流通業の事例			
8	情報通信産業の事例			
9	食品・飲料産業の事例			
10	セメント産業の事例			
11	石油化学産業の事例			
12	鉄鋼業の事例			
13	アジア域内貿易の分析			
14	アジア域内投資の分析			
【テキスト】				
東茂樹編『FTAの政治経済学：アジア・ラテンアメリカ7カ国のFTA交渉』アジア経済研究所、2007年、西澤信善・北原淳編『東アジア経済の変容：通貨危機後10年の回顧』晃洋書房、2009年など。				
【参考書・参考資料等】				
Jonathan Rigg ed. Southeast Asian Development Volume 3, Routledge, 2008など				
【事前・事後学習、時間等】				
テキストを必ず事前に読んで、理解できたことと理解できなかったことをまとめておいてください(100分程度)。毎回の講義の中で指摘した論点について、さらに参考文献を読んで、統計資料を使って分析し、まとめてください(100分程度)。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
講義への事前準備、講義での報告、発言や質問内容を総合的に評価して判断する。				
【履修上の注意】				
特になし				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	世界経済論演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	東 茂樹			
【講義の到達目標及びテーマ】				
開発経済学と国際経済学の成果と手法を研究し、修士論文作成への応用方法を見出すことが目標です。				
【講義概要】				
前半は、開発経済学の各テーマを取り上げて、理論の把握と実証分析をめざす。後半は、国際貿易、国際金融と開発の関わり、開発援助の問題点を扱って、発展途上国経済を分析する思考力を養う。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	経済学と制度、開発(1): 開発経済学とは	15	人的資本: 経済開発における教育	
2	経済学と制度、開発(2): 開発指標	16	人的資本: 経済開発における保健	
3	経済発展の比較分析(1): 開発途上国の特徴	17	農業の変容と農村開発(1): 農業の成長	
4	経済発展の比較分析(2): 先進国との違い	18	農業の変容と農村開発(2): 農村開発戦略	
5	経済成長と開発の古典的理論(1): 線形段階理論	19	環境と開発(1): 経済成長と環境	
6	経済成長と開発の古典的理論(2): 構造変化モデル	20	環境と開発(2): 地球規模の問題	
7	開発と低開発の現代モデル(1): ビッグプッシュ	21	開発政策と市場経済	
8	開発と低開発の現代モデル(2): 複数均衡	22	開発政策と市民社会	
9	貧困、不平等と開発(1): 貧困の測定	23	国際貿易理論と開発戦略(1): 自由貿易理論	
10	貧困、不平等と開発(2): 貧困の経済的特徴	24	国際貿易理論と開発戦略(2): 工業化戦略	
11	人口増加と経済開発(1): 高出生力	25	国際収支と対外債務	
12	人口増加と経済開発(2): 政策対応	26	マクロ経済安定化論争	
13	都市化と人口移動(1): 都市化	27	海外直接投資と多国籍企業	
14	都市化と人口移動(2): 人口移動	28	開発援助論争	
【テキスト】				
マイケル・P・トダロ、ステファン・C・スミス『トダロとスミスの開発経済学』原著第10版、ピアソン、2010年。				
【参考書・参考資料等】				
【事前・事後学習、時間等】				
テキストを必ず事前に読んで、理解できたことと理解できなかったことをまとめておいてください(100分程度)。毎回の演習の中で指摘した論点について、さらに参考文献を読んで、統計資料を使って分析し、まとめてください(100分程度)。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
演習への事前準備、演習での報告、発言や質問内容を総合的に評価して判断する。				
【履修上の注意】				
特になし				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	東 茂樹			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この授業は標準終了年限3年以内での学位論文作成を最終目標として、院生の定めた研究テーマを追究し、毎年1本以上の論文を作成し、研究会または学会等での発表を行うことを各年の到達目標とする。学位論文は、それらの論文の集成として完成される。				
【講義概要】				
講義は学位論文の研究テーマの確定と、今年度作成する論文のための研究内容の設定から始める。標準的なケースとしては、修士論文を加筆修正して最初の論文を作成し、そこから次の研究内容に進むことになる。なお、開発経済学の応用分析が専門的テーマとなるので、まずその基礎となる次の文献の内容について検討を行う。Michael P. Todaro and Stephen C. Smith, "Economic Development, Tenth Edition," Pearson Education Limited. さらに、テーマごとにリーディング・リストを作って読みこなしながら、それらの内容の研究への活用方法を考察していく。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画
1	研究テーマの確認		15	第2論文テーマの議論(2): テーマの選定
2	研究テーマのリーディング・リストの確認		16	第2論文作成方針の検討
3	修士論文の修正(1): 形式上の修正		17	第2論文作成プロセスの確認
4	修士論文の修正(2): 内容の再検討		18	リーディング・リスト文献の報告(7): 都市化
5	修士論文の修正(3): 文献リスト等		19	リーディング・リスト文献の報告(8): 人口移動
6	修士論文に基づく論文作成内容の確認		20	リーディング・リスト文献の報告(9): 農業の成長
7	リーディング・リスト文献の報告(1): 開発指標		21	リーディング・リスト文献の報告(10): 農村開発戦略
8	リーディング・リスト文献の報告(2): 線形段階理論		22	リーディング・リスト文献の報告(11): 経済成長と環境
9	リーディング・リスト文献の報告(3): 構造変化モデル		23	リーディング・リスト文献の報告(12): 自由貿易理論
10	リーディング・リスト文献の報告(4): ビッグプッシュ		24	リーディング・リスト文献の報告(13): 工業化戦略
11	リーディング・リスト文献の報告(5): 複数均衡		25	論文の概要報告(1): 貧困、不平等と開発
12	リーディング・リスト文献の報告(6): 貧困		26	論文の概要報告(2): 農業の変容と農村開発
13	修士論文に基づく論文の報告		27	論文の概要報告(3): 国際貿易理論と開発戦略
14	第2論文テーマの議論(1): テーマ候補の提出		28	論文発表準備
【テキスト】				
各論文を作成する段階での研究テーマごとに、協議の上でリーディング・リストを作成し、指示します。				
【参考書・参考資料等】				
テキストと同様に、論文作成に必要な参考文献リストを協議して作成します。				
【事前・事後学習、時間等】				
テキストを必ず事前に読んで、理解できたことと理解できなかったことをまとめておいてください(1.5時間程度)。毎回の演習の中で指摘した論点について、さらに参考文献を読んで、統計資料を使って分析し、まとめてください(1.5時間程度)。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
演習への事前準備、演習での報告、発言や質問内容を総合的に評価して判断する。				
【履修上の注意】				
特になし				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	資源経済論A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	河村 朗			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>本講義は中東諸国のエネルギー資源経済、特に、ペルシャ湾岸産油国(以下、湾岸産油国)における石油・天然ガスの上流部門、原子力、再生可能エネルギーの動向について総論的に研究し、その歴史・現状を理解するとともに、課題を明らかにし、今後を展望することを目標とする。</p>				
【講義概要】				
<p>本講義では、中東地域、特にペルシャ湾岸産油国(湾岸産油国)における石油、天然ガス、原子力、再生エネルギーのようなエネルギー資源動向などを学ぶ。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	イントロダクション			
2	世界におけるエネルギー資源経済の概観(1): 歴史			
3	世界におけるエネルギー資源経済の概観(2): 現状			
4	湾岸産油国における石油上流部門の歴史(1): 石油メジャー			
5	湾岸産油国における石油上流部門の歴史(2): OPECと石油危機			
6	湾岸産油国における石油上流部門の歴史(3): 1980年代以降			
7	湾岸産油国における天然ガス上流部門の概観(1): 歴史			
8	湾岸産油国における天然ガス上流部門の概観(2): 現状			
9	湾岸産油国における石油・天然ガスの貿易			
10	湾岸産油国における経済開発と石油・天然ガス(1): 電力			
11	湾岸産油国における経済開発と石油・天然ガス(2): 海水淡水化			
12	湾岸産油国における天然ガス不足とその背景(1)UAE			
13	湾岸産油国における天然ガス不足とその背景(2)クウェート			
14	今後の課題と展望			
【テキスト】				
特になし。毎回講義ノートを配布する予定である。				
【参考書・参考資料等】				
特になし。				
【事前・事後学習、時間等】				
講義形式で授業を進めていくが、適宜参考文献を指示するので授業までに読んでおくこと。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
<p>平常点、発表、レポートによって評価を行う。それらの配分比率は以下の通りである。 平常点: 30%、レポート: 70%</p>				
【履修上の注意】				
無断欠席をしないように注意すること。やむを得ない理由で欠席する時は、事前にメールで知らせること。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	資源経済論B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	河村 朗			
【講義の到達目標及びテーマ】				
本講義は中東諸国のエネルギー資源経済、特に、ペルシャ湾岸産油国(以下、湾岸産油国)における各国ごとの石油・天然ガス上流部門の動向を中心に研究し、理解することを目標とする。				
【講義概要】				
本講義では、中東諸国、特に 湾岸産油国に焦点を当てて、イラン、イラク、クウェート、サウジアラビア、バーレーン、カタル、UAE、オマーンの8カ国における石油、天然ガスのエネルギー動向を学ぶ。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	イントロダクション			
2	イランの石油動向			
3	イランの天然ガス動向			
4	イラクの石油・天然ガス動向			
5	クウェートの石油動向			
6	クウェートの天然ガス動向			
7	サウジアラビアの石油動向			
8	サウジアラビアの天然ガス動向			
9	カタルの石油動向			
10	カタルの天然ガス動向			
11	UAEの石油動向			
12	UAEの天然ガス動向			
13	オマーン・バーレーンの石油・天然ガス動向			
14	まとめ			
【テキスト】				
特になし。毎回講義ノートを配布する予定である。				
【参考書・参考資料等】				
Bassam Fattouh and Jonathan P.Stern,eds., 2011, <i>Natural Gas Markets in the Middle East and North Africa</i> , Oxford University Press.				
【事前・事後学習、時間等】				
講義形式で授業を進めていくが、適宜参考文献を指示するので授業までに読んでおくこと。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
平常点、発表、レポートによる評価を行う。それらの配分比率は以下の通りである。 平常点:30%、レポート:70%				
【履修上の注意】				
無断欠席をしないように注意すること。やむを得ない理由で欠席する時は、事前にメールで知らせること。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	世界経済論演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	河村 朗			
【講義の到達目標及びテーマ】				
<p>本演習は中東諸国の経済動向をテーマにして、それら諸国のエネルギー資源（石油、天然ガス、再生可能エネルギー、原子力）動向の歴史と現状について学んだうえ、それを踏まえて、中東諸国が直面している課題について、レントピア国家、資源の呪い、経済構造多様化、人口・雇用問題、国際関係の観点から分析することを目標とする。</p>				
【講義概要】				
<p>本演習は、中東地域の経済動向に焦点を当てて、これら諸国のエネルギー、製造・サービス業、人口、諸外国との国際関係の動向をテーマとして取り上げる。前半では、中東経済の動向に関して総論的に説明し、後半では、個別のテーマを取り上げる。</p>				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	イントロダクション	15	中東諸国のレントピア国家	
2	中東とアラブとは	16	中東諸国における資源の呪い	
3	中東諸国の宗教・政治・社会・軍事動向	17	中東諸国の経済構造多様化(1)石油化学工業	
4	中東諸国の経済動向(1): 1970年代以前	18	中東諸国の経済構造多様化(2)観光	
5	中東諸国の経済動向(2): 1970年代以降	19	中東諸国の経済構造多様化(3)金融	
6	中東諸国のエネルギー動向の歴史(1)石油	20	中東諸国の経済構造多様化(4)流通	
7	中東諸国のエネルギー動向の歴史(2)天然ガス	21	中東諸国の人口動向	
8	中東諸国のエネルギー動向の歴史(3)再生可能エネルギー	22	中東諸国の失業問題と外国人労働者問題	
9	中東諸国のエネルギー動向の歴史(4): 原子力	23	中東諸国と国際関係(1)アメリカ	
10	中東諸国のエネルギー動向の現状(1)石油	24	中東諸国と国際関係(2)ヨーロッパ	
11	中東諸国のエネルギー動向の現状(2)天然ガス	25	中東諸国と国際関係(3)アジア諸国(日本以外)	
12	中東諸国のエネルギー動向の現状(3)再生可能エネルギー	26	中東諸国と国際関係(4)日本の石油輸入	
13	中東諸国のエネルギー動向の歴史(4)原子力	27	中東諸国と国際関係(4)日本のLNG輸入	
14	前半のまとめ	28	後半のまとめ	
【テキスト】				
未定				
【参考書・参考資料等】				
各自の関心に応じて適宜紹介する。				
【事前・事後学習、時間等】				
主に英語文献の講読を通じて授業を進めていくので、授業までに読んでおくこと。				
【課題の種類・内容】				
【課題に対するフィードバックの方法】				
【成績評価方法・基準】				
<p>平常点、発表、レポートによる総合評価を行う。それらの配分比率は以下の通りである。 平常点: 30%、レポート: 70%</p>				
【履修上の注意】				
無断欠席をしないように注意すること。やむを得ない理由で欠席する時は、事前にメールで知らせること。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導		通年・前期・後期	単位数	使用言語
			通年	4	日本語
担当教員名	河村 朗				
【講義の到達目標及びテーマ】					
<p>本講義の目標は、中東地域を対象としたエネルギー問題に関する論文を執筆することである。そのために、特定のテーマのもとで研究し、発表をして指導を受けた後修正をしていく作業を繰り返しながら論文の内容を充実させていく。また、その目標に向けた途中のプロセスにおいて、論文執筆や学会の研究発表等を行って研究業績を増やすことが各年度の目標である。</p>					
【講義概要】					
<p>本講義では、まず修士論文をベースとしてそれをさらに発展させた研究テーマを設定する。研究計画をたてた後、先行研究のサーベイを行う。その後、参考文献の講読、研究内容の発表を行い、それを修正しながら研究を進めて行き、最終的に最終論文を執筆する。なお、本講義のテーマは中東諸国のエネルギー問題などである。</p>					
【講義計画内容】					
No.	講義計画	(担当者)	No.	講義計画	(担当者)
1	イントロダクション		15	問題意識の設定(1)	
2	修士論文の報告		16	問題意識の設定(2)	
3	修士論文の修正(1)		17	研究の背景と目的などの明確化(1)	
4	修士論文の修正(2)		18	研究の背景と目的などの明確化(2)	
5	資料収集		19	先行研究のサーベイ(1)	
6	文献リストの作成		20	先行研究のサーベイ(2)	
7	文献の講読(1)石油・天然ガス		21	章構成の検討(1)	
8	文献の講読(2)原子力・再生可能エネルギー		22	章構成の検討(2)	
9	文献の講読(3)中東経済		23	論文要旨の報告(1)	
10	文献の講読(4)サウジアラビア		24	論文要旨の報告(2)	
11	文献の講読(5)UAE		25	論文要旨の報告(3)	
12	文献の講読(6)カタール・クウェート		26	論文要旨の報告(4)	
13	文献の講読(7)オマーン・バーレーン		27	論文要旨の報告(5)	
14	文献の講読(8) イラン・イラク		28	論文の最終報告	
【テキスト】					
特になし					
【参考書・参考資料等】					
各自の関心に応じて適宜紹介する。					
【事前・事後学習、時間等】					
論文の執筆のための関連論文の講読を通じて授業を進めていくので、授業までに読んでレジュメにまとめておくこと。また各自のテーマに応じた研究を行いその成果を発表してもらうので、発表者はその内容に関するレジュメを作成し、発表の準備をしておくこと。					
【課題の種類・内容】					
【課題に対するフィードバックの方法】					
【成績評価方法・基準】					
平常点、報告、論文によって成績評価を行う。それらの配分比率は以下の通りである。 平常点:20%、報告:30%、論文:50%					
【履修上の注意】					
無断欠席をしないように注意すること。やむを得ない理由で欠席する時は、事前にメールで知らせること。					

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	統計学A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	中馬正博			
【講義の到達目標及びテーマ】				
理論研究に終始するのではなく、何らかのデータ収集、分析を行うことになるが、データの取り扱い、その解釈に当たっては、統計学の基礎知識を修得しておくことが望ましい。本講義では、統計学の基本事項を整理し、統計データに基づいて行う様々な判断に役立つ基礎知識を提供する。				
【講義概要】				
本講義では、標準的なテキストを利用して、初心者を対象に統計学の基本的な考え方、特に記述統計学における基礎的事項と相関・回帰分析について説明する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	統計データと統計手法			
2	度数分布表とヒストグラム			
3	中心の尺度(平均, 中位数, 最頻値)			
4	散らばりの尺度(範囲, 分散, 標準偏差, 四分位偏差)			
5	単純平均と加重平均, 算術平均, 幾何平均, 調和平均			
6	歪み, 平均差, 不平等尺度			
7	回帰分析(最小二乗法)			
8	回帰分析の計算(単回帰, 重回帰)			
9	決定係数と相関係数			
10	相関関係と因果関係			
11	擬似相関と偏相関係数			
12	順位相関係数			
13	時系列データと自己相関係数			
14	経済指標の確認(e-Statによるデータ検索など)			
【テキスト】				
東京大学教養学部統計学教室『統計学入門』東京大学出版会, 2011年				
【参考書・参考資料等】				
熊原啓作・渡辺美智子『身近な統計』放送大学教育振興会, 2012年				
【事前・事後学習、時間等】				
事前学習としては、教科書本文の解説を予習し、授業内容に関するイメージを予め作って講義に臨んでください(1時間半程度)。事後学習としては、教科書各章末にある練習問題に取り組み、解答作成を試みてください(1時間半程度)。				
【課題の種類・内容】				
講義内容に関連して、EXCELによる実習課題を受講者に送付することがあります。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
EXCELの実習課題は、評価・添削した上で、メールに添付して返却します。				
【成績評価方法・基準】				
本講義の最終評価は、次のような基準で評価します。①講義への積極的な出席態度, 取り組み 40%, ②講義ノートの整理状況 30%, ③課題提出 30%				
【履修上の注意】				
後期に提供される統計学Bを合わせて履修することが望ましい。テキストで示されている計算数値を、関数電卓と表計算ソフトを利用して自分でも計算して確認するよう努めてください。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	統計学B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		後期	2	日本語
担当教員名	中馬正博			
【講義の到達目標及びテーマ】				
理論研究に終始するのではなければ、何らかのデータ収集、分析を行うことになるが、データの取り扱い、その解釈に当たっては、統計学の基礎知識を修得しておくことが望ましい。本講義では、統計学の基本事項を整理し、統計データに基づいて行う様々な判断に役立つ基礎知識を提供する。				
【講義概要】				
本講義では、初心者を対象に標準的なテキストを利用して、統計学の基本的な考え方、特に推測統計学における推定論、検定論の基礎事項について説明する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	標本空間と事象			
2	確率の公理			
3	排反性と加法定理			
4	独立性と乗法定理			
5	確率変数と確率分布			
6	積率と積率母関数			
7	チェビシェフの不等式			
8	超幾何分布と二項分布			
9	二項分布と正規分布			
10	ポアソン分布、幾何分布、負の二項分布			
11	母集団と標本、母数の推定			
12	点推定の基準(不偏性、最良性、一致性)			
13	正規母集団に関する仮説検定(カイ二乗検定、t検定)			
14	中心極限定理を用いる仮説検定(大標本法)			
【テキスト】				
東京大学教養学部統計学教室『統計学入門』東京大学出版会、2011年				
【参考書・参考資料等】				
東京大学教養学部統計学教室『人文・社会科学の統計学』東京大学出版会、2008年				
【事前・事後学習、時間等】				
事前学習としては、教科書本文の解説を予習し、授業内容に関するイメージを予め作って講義に臨んでください(1時間半程度)。事後学習としては、教科書各章末にある練習問題に取り組み、解答作成を試みてください(1時間半程度)。				
【課題の種類・内容】				
講義内容に関連して、EXCELによる実習課題を受講者に送付することがあります。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
提出された課題は評価・添削した上で、メールに添付して返却します。				
【成績評価方法・基準】				
本講義の最終評価は、次のような基準で評価します。①講義への積極的な出席態度、取り組み 40%、②講義ノートの整理状況 30%、③課題提出 30%				
【履修上の注意】				
前期に開講された統計学Aを履修していることが望ましい。テキストで求められている数値を、関数電卓と表計算ソフトを利用して計算し、自分でも確認するよう努めてください。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	統計学演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	中馬 正博			
【講義の到達目標及びテーマ】				
実証分析に比重を置く修士論文を作成することを意識して、修士論文を構成する要素に結びつく分析手法と統計データの所在を確認する。				
【講義概要】				
本演習は、統計学が取り扱う内容について受講生が準備する報告を中心に進める。テキストや参考書を手掛かりとして、分析手法と統計データの所在と性質を探り、修士論文取りまとめに到る道を探る。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	演習の進め方	15	確率分布, 期待値	
2	経済統計と統計データ	16	推定(1) 点推定, 区間推定	
3	統計制度と標準統計分類	17	推定(2) 不偏性, 有効性, 一致性	
4	統計法と統計行政	18	推定(3) 尤度, 最尤法	
5	統計図表の見方, 描き方	19	仮説検定(1) 平均に関する検定	
6	人口と労働に関する統計	20	仮説検定(2) 平均の差に関する検定	
7	所得と消費に関する統計	21	仮説検定(3) 分散に関する検定	
8	産業と企業に関する統計	22	検定力, 最強力検定	
9	財政と金融に関する統計	23	相関, 擬似相関, 偏相関係数	
10	物価指数と数量指数	24	分散分析(1) 一元配置模型	
11	国民経済計算	25	分散分析(2) 二元配置模型	
12	産業連関表	26	回帰分析(1) 単純最小二乗法	
13	標本調査法	27	回帰分析(2) 条件付き最小二乗法	
14	社会調査の方法と信頼性	28	回帰分析(3) 一般化最小二乗法	
【テキスト】				
廣松毅, 高木新太郎ほか 『経済統計』新世社, 2006, 東京大学教養学部統計学教室『人文社会科学の統計学』東京大学出版会, 2008, 原純輔・浅川達人『社会調査』日本放送協会, 2009				
【参考書・参考資料等】				
岩田暁一『経済分析のための統計的方法』東洋経済新報社, 1988,				
【事前・事後学習、時間等】				
テキストで省略されている部分を補いながら、丁寧な説明ができるよう報告の準備をきちんと行ってください。1時間半程度。修士論文のテーマを意識しながら、分析方法や統計データの所在を確認してください。1時間半程度。				
【課題の種類・内容】				
講義内容に関連して、EXCELによる実習課題を送付します。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
提出期限内にメールに添付して提出してください。提出された課題は評価、添削した上で返却します。				
【成績評価方法・基準】				
成績評価を行うに当たっては、①実習課題への取り組み状況(20%), ②積極的出席態度(30%), ③報告状況(50%)を基準に評価します。				
【履修上の注意】				
関数電卓と表計算ソフトを利用して、テキストで求められている数値を、自分でも確認するよう努めてください。講義内容に関する質問のメールは常時受け付けます。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	中馬 正博			
【講義の到達目標及びテーマ】				
受講生の設定した研究テーマに沿って議論を行い、その成果を発展させ、修士論文の作成に結び付けることを目指す。本研究指導においては、受講生による当初の研究テーマを実証的側面から検討し、論文の作成及び学会・研究会における報告に役立つよう配慮する。				
【講義概要】				
標準的なテキストに従って基礎事項の説明に努め、後期においては、受講者の具体的研究の進捗に合わせて論文指導を追加する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	年間講義の予定と学習方針	15	標本統計量分布(カイニ乗分布)	
2	資料の記述(母集団と標本)	16	標本統計量の分布(ステューデントのt分布)	
3	資料の記述(平均, 分散, 標準偏差)	17	標本統計量の分布(F分布)	
4	資料の記述(その他の標本特性値)	18	母平均の推定(母分散が既知の場合)	
5	確率(加法定理, 乗法定理)	19	母平均の推定(ベルヌーイ母集団)	
6	確率(期待値)	20	母平均の推定(母分散が未知, 大標本)	
7	確率変数と確率分布(離散型確率分布)	21	母平均の推定(母分散が未知, 小標本)	
8	確率変数と確率分布(連続型確率分布)	22	推定量の性質(不偏性, 有効性, 一致性)	
9	確率変数と確率分布(複数確率変数の分布)	23	仮説検定(有意性検定)	
10	標本抽出(無作為抽出)	24	仮説検定(平均の差の検定)	
11	標本抽出(有限母集団)	25	仮説検定(母分散の比の検定)	
12	標本抽出(無限母集団)	26	回帰分析(単純最小二乗法)	
13	標本抽出(正規分布)	27	回帰分析(制約付最小二乗法)	
14	確率変数の関数の分布(積率母関数)	28	回帰分析(一般化最小二乗法)	
【テキスト】				
岩田暁一『経済分析のための統計的方法』東洋経済新報社, 1988				
【参考書・参考資料等】				
永田靖『統計学のための数学入門30講』朝倉書店, 2010				
【事前・事後学習、時間等】				
教科書の練習問題にも積極的に取り組んでください。1時間半程度。講義中の板書内容を書き写すだけでなく、事後的に受講者それぞれが丁寧に学習内容の復習を行い、自分の理解のステップに合ったノート整理を行ってください。1時間半程度。				
【課題の種類・内容】				
講義内容に関連して、EXCELによる実習課題を受講者に送付します。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
提出期限内に解答しメールに添付して送付する。提出された課題は添削した上で返却します。				
【成績評価方法・基準】				
最終成績は、次の基準で評価します。①論文作成への積極的取り組み 40%, ②報告内容 40%, ③受講態度 20%				
【履修上の注意】				
関数電卓と表計算ソフトを利用して、テキストで求められている数値を、自分でも実際に計算して確認するよう努めてください。講義内容に関する質問のメールは常時受け付けます。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	社会保障論A	通年・前期・後期	前期	単位数	2	使用言語	日本語
担当教員名	熊谷 成将						
【講義の到達目標及びテーマ】							
<p>本講義では、受講者が専門的職業に求められる高度な専門的能力を身に付けることを重視しています(ディプロマ・ポリシーを参照)。受講者の到達目標は、①標準的な計量経済分析の手法を身につけ、②社会保障のデータを用いて論文を作成できるようになることです。実証分析の結果に基づいて、直面している問題を解決するための方策を提案できるようになりましょう。受講者は、この目標に到達できるよう、StataもしくはEViewsのうち少なくともひとつの使い方を覚えてください。</p>							
【講義概要】							
<p>この講義の守備範囲は、厚生労働省が行っている主な統計調査(保健衛生, 老人保健福祉, 社会保険, 賃金, 労働時間)と重なります。医療・介護に関するデータ(医療費の動向など)を用いて、受講者は、日本の社会保障を実証的に分析する方法を学修します。下記の講義計画に登場する論文は必読文献であり、毎回90分程度の予習が必要です。安倍政権下の『新三本の矢』のうち、希望出生率1.8と介護離職ゼロに関するトピックが社会保障論Aと社会保障論Bで扱われます。</p>							
【講義計画内容】							
No.	講義計画						
1	社会保障の問題発見: 西村周三(2010)「日本の社会保障の未来」『医療経済研究』21(3)						
2	研究課題の設定: 同上						
3	回帰分析(推定): 森棟公夫(2005)『基礎コース計量経済学』新世社						
4	回帰分析(検定): 同上						
5	介護: 安藤道人(2008)「介護給付水準と介護保険料の地域差の実証分析」『季刊社会保障研究』44(1)						
6	同上						
7	花岡智恵(2015)「介護労働力不足はなぜ生じているのか」『日本労働研究雑誌』658						
8	社会保障財政: 小林慶一郎 編(2018)「第1章 人口減少時代の政策決定」『財政破綻後 危機のシナリオ分析』日本経済新聞出版社						
9	小林慶一郎編(2018)「第4章 公的医療・介護・福祉は立て直せるか？」						
10	同上						
11	岩本康志(2018)「医療・介護サービス市場の成長と今後の展望」レファレンス 812:1-26.						
12	同上						
13	データの収集と加工						
14	実証分析						
【テキスト】							
<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロ計量経済分析の手法を用いる場合(ソフトはStata) 北村行伸(2009)『マイクロ計量経済学入門』日本評論社 ・マクロ計量経済分析の手法を用いる場合(ソフトはEViews) 縄田和満(2009)『EViewsによる計量経済分析入門』朝倉書店 							
【参考書・参考資料等】							
Brown, Heather (2018) The Economics of Public Health – Evaluating Public Health Interventions. Palgrave Macmillan.							
【事前・事後学習、時間等】							
上記の講義計画に登場する論文は必読文献のため、毎回60～90分の予習と復習が必要です。							
【課題の種類・内容】							
講義時間外に、受講者はStataもしくはEViewsを用いる実証分析の課題に取り組みます。							
【課題に対するフィードバックの方法】							
課題に対する解説・講評は、講義中に行われます。							
【成績評価方法・基準】							
受講状況(課題を含む) 50%, レポート 50%							
【履修上の注意】							
予習90%, 復習10%の割合で学修してください。受講前に文献に目を通し、初見の専門用語の意味を調べてください。							

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	社会保障論B	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	熊谷 成将			
【講義の到達目標及びテーマ】				
本講義では、社会保障論Aと同様に、受講者が専門的職業に求められる高度な専門的能力を身につけることを重視しています(ディプロマ・ポリシーを参照)。受講者の到達目標は、①標準的な計量経済分析の手法を身につけ、②社会保障のデータを用いて論文を作成できるようになることです。実証分析の結果に基づいて、直面している問題を解決するための方策を提案できるようになりましょう。受講者は、この目標に到達できるよう、StataもしくはEViewsのうち少なくともひとつの使い方を覚えてください。				
【講義概要】				
この講義の守備範囲は、厚生労働省が行っている主な統計調査(保健衛生, 老人保健福祉, 社会保険, 賃金, 労働時間)と重なります。医療・介護に関するデータ(医療費の動向など)を用いて、受講者は、日本の社会保障を実証的に分析する方法を学修します。下記の講義計画に登場する論文は必読文献であり、毎回90分程度の予習が必要です。安倍政権下の『新三本の矢』のうち、希望出生率1.8と介護離職ゼロに関するトピックが社会保障論Aと社会保障論Bで扱われます。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	少子化対策: 山口慎太郎 (2019)「第5章 保育園の経済学」『「家族の幸せ」の経済学』光文社新書			
2	同上			
3	社会保険料の負担: 岩本康志・濱秋純哉 (2006)「社会保険料と帰着分析」『季刊社会保障研究』42(3)			
4	同上			
5	A Schematic of Health Economics: Culyer, AJ. ed. (2014) Encyclopedia of Health Economics. Elsevier			
6	社会的孤立: Klinenberg, E. (2016) Social Isolation, Loneliness, and Living Alone: Identifying the Risks for Public Health. Americal Journal of Public Health 106(5)			
7	メンタルヘルス: Golberstein, E., Busch, SH. (2014) Mental Health, Determinants of. In Encyclopedia of Health Economics. Elsevier			
8	同上			
9	Kumagai, N. (2018) Care Preferences of Elderly People Living Alone in Japan. Health Education and Public Health 1(2)			
10	社会保障からみた教育: 末富芳 (2020)「国際比較からみた日本の教育費 —初等中等教育費を中心に—」『社会保障研究』5(3)			
11	公的介護と移民政策: 上林千恵子(2015)「介護人材の不足と外国人労働者受け入れ— EPA による介護士候補者受け入れの事例から」『日本労働研究雑誌』662			
12	同上			
13	実証分析(1)			
14	実証分析(2)			
【テキスト】				
・ミクロ計量経済分析の手法を用いる場合(ソフトはStata) 北村行伸(2009)『ミクロ計量経済学入門』日本評論社 ・マクロ計量経済分析の手法を用いる場合(ソフトはEViews) 縄田和満(2009)『EViewsによる計量経済分析入門』朝倉書店				
【参考書・参考資料等】				
Culyer, AJ. ed. (2014) Encyclopedia of Health Economics. Elsevier 友原章典 (2020)『移民の経済学 雇用、経済成長から治安まで、日本は変わるか』中公新書				
【事前・事後学習、時間等】				
上記の講義計画に登場する論文は必読文献のため、毎回60～90分の予習と復習が必要です。				
【課題の種類・内容】				
上記の講義計画に登場する論文は必読文献のため、毎回60～90分の予習が必要です。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
課題に対する解説・講評は、講義中に行われます。				
【成績評価方法・基準】				
受講状況(課題を含む) 50%, レポート 50%				
【履修上の注意】				
予習90%, 復習10%の割合で学修してください。受講前に文献に目を通し、初見の専門用語の意味を調べてください。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	社会保障論演習		通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	熊谷 成将				
【講義の到達目標及びテーマ】					
受講者の到達目標は、①specific topics and issues in health economicsを理解して、②専門的職業に求められる高度な専門的能力を身に着けることです(ディプロマ・ポリシーを参照)。					
【講義概要】					
受講者は、a first step in becoming familiar with an area in health economicsとして作られた Handbook of Health Economics Vol.2を用いて、主要参考文献を読み、health economicsのhot issuesに対する理解を深めます。					
【講義計画内容】					
No	講義計画	No	講義計画		
1	Spending Growth vs. Spending Level (Ch.1)	15	Continuing Debates in CEA (Ch.7)		
2	同上	16	The Traditional Economic Approach to Studying Health Behaviors (Ch.3)		
3	Models of Spending Growth (Ch.1)	17	同上		
4	同上	18	Alternative Approaches to Studying Health Behaviors (Ch.3)		
5	An Economic Model of Regional Variations in Health Care (Ch.2)	19	同上		
6	同上	20	Economic Consequences of Health Behaviors (Ch.3)		
7	Empirical Evidence on Geographic Variations in Expenditures and Utilization (Ch.3)	21	同上		
8	同上	22	Perfectly Functioning Medical Labor Markets (Ch.14)		
9	Inefficiency and the Policy Implications of Regional Variations (Ch.3)	23	同上		
10	同上	24	Labor Supply Topics (Ch.14)		
11	Standard Approaches to Methodological Issues in Cost-effectiveness Analysis (Ch.7)	25	同上		
12	同上	26	同上		
13	Theoretical Foundations of CEA (Ch.7)	27	Labor Demand Topics (Ch.14)		
14	同上	28	同上		
【テキスト】					
Pauly, M., McGuire, T., Barros, P. eds. (2011) Handbook of Health Economics, Volume 2: North Holland.					
【参考書・参考資料等】					
研究を深めるために必要な文献を講義中に、受講者に伝えます。					
【事前・事後学習、時間等】					
毎回70～100分の予習が必要です。					
【課題の種類・内容】					
受講者は収集した文献を講義時間外に読みます。					
【課題に対するフィードバックの方法】					
課題に対する解説・講評は、講義中に行われます。					
【成績評価方法・基準】					
受講状況(課題を含む) 50%, レポート 50%					
【履修上の注意】					
予習90%, 復習10%の割合で学修してください。受講前に文献に目を通し、初見の専門用語の意味を調べてください。					

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導	通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	熊谷 成将			
【講義の到達目標及びテーマ】				
受講者の到達目標は、①専攻分野における研究を自立して遂行できる能力を身に付けて、②1人で良質の論文を完成させることができるようになることです(ディプロマ・ポリシーを参照)。				
【講義概要】				
自立した研究者として独創的な研究を行っていく能力を身に付けるために、下記の査読制専門雑誌に掲載された秀逸な論文を精読し、研究課題を選定してPCを用いる実証分析を行います。Health Economics, Journal of Health Economics, Social Science & Medicine				
【講義計画内容】				
No	講義計画	No	講義計画	
1	Stowasser, T. et al. (2011) Healthy, Wealthy and Wise? Revisited: An Analysis of the Causal Pathways from Socio-economic Status to Health, NBER Working Paper No. 17273	15	Clemente, J., Marcuello, C., Montañés, A., Pueyo, F. (2004) On the international stability of health care expenditure functions: are government and private functions similar?. Journal of Health Economics, 23, 589-613.	
2	同上	16	同上	
3	Fukushima, K., Mizuoka, S., Yamamoto, S., Iizuka, T. (2016) Patient cost sharing and medical expenditures for the Elderly. Journal of Health Economics, 45, 115-130.	17	Literature reviewの報告 (term paper の中間報告)	
4	同上	18	Grossman, M. (1972) On the concept of Health Capital and the Demand for Health. Journal of Political Economy, 80, 223-255.	
5	Folland, S., Goodman, A., Stano, M. (2001) Technology in The Economics of Health and Health Care, 3rd ed., Prentice Hall, New Jersey, 309-322.	19	同上	
6	同上	20	Kenkel, D.S. (1991) Health behavior, health knowledge, and schooling. Journal of Political Economy, 99(2), 287-305.	
7	Baker, L. C. (2001) Managed care and technology adoption in health care: evidence from magnetic resonance imaging. Journal of Health Economics, 20(3), 395-421.	21	同上	
8	同上	22	Fu, R., Noguchi, H., Tachikawa, H. et al. (2017) Relation between social network and psychological distress among middle-aged adults in Japan: Evidence from a national longitudinal survey. Social Science & Medicine, 175, 58-65.	
9	Okunada, A.A., Murthy, V.N.R. (2002) Technology as a 'major driver' of health care costs: a cointegration analysis of the Newhouse conjecture. Journal of Health Economics, 21, 147-159.	23	同上	
10	同上	24	Skira, M. (2015) Dynamic Wage and Employment Effects of Elder Parent Care. International Economic Review, 56(1), 63-93.	
11	Blank, J.L.T., Merkes, A.H.Q.M. (2004) Empirical Assessment of the Economic Behaviour of Dutch General Hospitals. Health Economics, 13 (3), 265-280.	25	同上	
12	同上	26	term paper の報告と修正 (1)	
13	Zweifel, P., Breyer, F. (1997) Hospital Services and Their Payment in Health Economics, Oxford University Press, 267-299.	27	term paper の報告と修正 (2)	
14	同上	28	term paper の報告と修正 (3)	
【テキスト】				
指定しません。				
【参考書・参考資料等】				
Kumagai, N. (2021) Valuation of health losses of women with multiple roles using a well-being valuation approach: Evidence from Japan. PLOS ONE 16(5): e0251468. Kumagai, N. (2017) "Distinct Impacts of High Intensity Caregiving on Caregivers' Mental Health and Continuation of Caregiving," Health Economics Review, 7(15): 1-14.				
【事前・事後学習、時間等】				
上記の講義計画に登場する論文は必読文献のため、毎回、少なくとも90分の予習が必要です。受講前に、講義計画に登場する論文に目を通して、分からない点を明らかにしてください。進捗状況に応じて随時、60～90分を要する課題を指示します。				
【課題の種類・内容】				
講義時間外において、受講者はStataもしくはEviewsを用いる実証分析の課題に取り組みます。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
課題に対する解説・講評は、講義中に行われます。				
【成績評価方法・基準】				
良質の論文を完成させるための取り組み 50%, 論文の質 50%				
【履修上の注意】				
予習90%, 復習10%の割合で学修してください。受講前に文献に目を通し、初見の専門用語の意味を調べてください。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	財政学A	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	近藤春生			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義の目的は、大学院レベルの財政学、公共経済学関係の論文を理解する上で必要となる基礎知識を学び、学位論文を書くための問題意識を醸成することである。				
【講義概要】				
テキストを用いた講義並びに履修者による報告を中心に進める。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	ガイダンス			
2	市場と政府			
3	国民と投票			
4	政党と政策(1): 政党の行動、政権交代			
5	政党と政策(2): 政党の数と大きさ、連立政権			
6	規制			
7	外部性			
8	公共財			
9	公共支出の効果			
10	課税(1): 直接税と間接税、課税体系の考え方			
11	課税(2): 最適課税の理論、消費税増税の政治経済学			
12	財政赤字と公債			
13	再分配政策			
14	まとめ			
【テキスト】				
井堀利宏『基礎コース: 公共経済学 第2版』(新生社、2015年)				
【参考書・参考資料等】				
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』(有斐閣)				
【事前・事後学習、時間等】				
<ul style="list-style-type: none"> ・事前にテキストを十分に読み、必要に応じて数式の展開を追うこと。(90分) ・講義で取り扱われた制度や理論について、さまざまな角度から検討し、論文作成にどのように応用できるか考えること。(90分) 				
【課題の種類・内容】				
必要に応じて、理解の確認や研究の基礎作業を目的にレポートを課すことがある。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
提出されたレポートは返却して、添削及びコメント行う。				
【成績評価方法・基準】				
報告(50%)、確認テストまたは期末レポート(50%)で評価する。				
【履修上の注意】				
少なくとも学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学の知識が必要である。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	財政学B	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	近藤春生			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義の目的は、大学院レベルの財政学、公共経済学関係の論文を理解する上で必要となる基礎知識を学び、学位論文を書くための問題意識を醸成することである。				
【講義概要】				
テキストを用いた講義並びに履修者による報告を中心に進める。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	ガイダンス			
2	地方財政入門			
3	地方財政の機能			
4	地方財政の理論(1):分権化定理、「規律づけ」としての競争			
5	地方財政の理論(2):地域間外部効果、自治体規模の決定			
6	地方分権の経済的・政治的帰結(1):地域経済の活性化、分権化と政府のアカウンタビリティ			
7	地方分権の経済的・政治的帰結(2):公共部門のガバナンス			
8	地方税と地方の財政責任(1):わが国の地方財、望ましい地方税の条件			
9	地方税と地方の財政責任(2):租税外部効果の理論、地方税にふさわしい税源は？			
10	政府間財政移転の理論(1):政府間財政移転のタイプと機能、財政移転の経済効果			
11	政府間財政移転の理論(2):地域間財政力格差の是正、政府間補助金の政治経済学			
12	わが国の政府間関係の実際と課題(1):政府間財政移転制度入門、国庫補助負担金制度			
13	わが国の政府間関係の実際と課題(2):地方交付税制度の実際、地方債制度			
14	まとめ			
【テキスト】				
佐藤主光『地方財政論入門』(新生社、2009年)				
【参考書・参考資料等】				
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』(有斐閣)				
【事前・事後学習、時間等】				
・事前にテキストを十分に読み、必要に応じて数式の展開を追うこと。(90分)				
・講義で取り扱われた制度や理論について、さまざまな角度から検討し、論文作成にどのように応用できるか考えること。(90分)				
【課題の種類・内容】				
必要に応じて、理解の確認や研究の基礎作業を目的にレポートを課すことがある。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
提出されたレポートは返却して、添削及びコメント行う。				
【成績評価方法・基準】				
報告(50%)、確認テストまたは期末レポート(50%)で評価する。				
【履修上の注意】				
少なくとも学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学の知識が必要である。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	財政学演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	近藤春生			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この演習の目標は、財政学・公共経済学分野で研究を行うための基礎となる部分を習得し、これを用いて経済問題の発見と解決策を見出す能力を身につけることである。最終的には修士論文の研究テーマと分析枠組みのヒントを得ることが望ましい。				
【講義概要】				
この演習では、財政学・公共経済学の研究上の基礎となる理論・実証分析の習得のために、下記のテキストに沿って議論し理解を深める。テキストの各章ごとに応用可能な制度・政策を取り上げて議論し、関連する論文を精読することで研究に関する視野を広げてもらう。演習の終盤では、総括的な議論を行ったうえで、修士論文のテーマ設定と研究計画を決めてもらう。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	ガイダンス	15	テキスト第6章(税制改革)の報告	
2	テキスト第1章(公共経済の基礎)の報告	16	テキスト第6章(税制改革)の関連論文	
3	テキスト第2章(戦後日本の財政)の報告	17	テキスト第6章(税制改革)の応用問題	
4	テキスト第2章(戦後日本の財政)の関連論文	18	テキスト第7章(地方財政)の報告	
5	テキスト第2章(戦後日本の財政)の応用問題	19	テキスト第7章(地方財政)の関連論文	
6	テキスト第3章(国の予算と財政政策)の報告	20	テキスト第7章(地方財政)の応用問題	
7	テキスト第3章(国の予算と財政政策)の関連論文	21	テキスト第8章(地方分権改革)の報告	
8	テキスト第3章(国の予算と財政政策)の応用問題	22	テキスト第8章(地方分権改革)の関連論文	
9	テキスト第4章(高齢化と世代間格差)の報告	23	テキスト第8章(地方分権改革)の応用問題	
10	テキスト第4章(高齢化と世代間格差)の関連論文	24	テキスト第9章(財政の持続可能性)の報告	
11	テキスト第4章(高齢化と世代間格差)の応用問題	25	テキスト第9章(財政の持続可能性)の関連論文	
12	テキスト第5章(高齢化と財政再建)の報告	26	テキスト第9章(財政の持続可能性)の応用問題	
13	テキスト第5章(高齢化と財政再建)の関連論文	27	総括的議論	
14	テキスト第5章(高齢化と財政再建)の応用問題	28	修士論文のテーマ設定	
【テキスト】				
Takero Doi and Toshihiro Ihuri, "The Public Sector in Japan" (Edward Elgar, 2009)				
【参考書・参考資料等】				
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』(有斐閣)				
【事前・事後学習、時間等】				
・事前にテキスト・論文を十分に読み、必要に応じて数式の展開を追うこと。(90分) ・講義で取り扱われた制度や理論について、さまざまな角度から検討し、論文作成にどのように応用できるか考えること。(90分)				
【課題の種類・内容】				
必要に応じて、理解の確認や研究の基礎作業を目的にレポートを課すことがある。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
提出されたレポートは返却して、添削及びコメント行う。				
【成績評価方法・基準】				
報告(50%)、期末レポート(50%)で評価する。				
【履修上の注意】				
英語の文献を読むとともに、理論分析では数学の知識が、実証分析では統計学の知識が必要である。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	近藤春生			
【講義の到達目標及びテーマ】				
財政学・公共経済学を中心とした学術的論文を精読する力を高めるとともに、履修者の関心に沿って、先行研究の報告や論文報告を行なってもらい、博士論文を構成する研究につなげることを目標とする。				
【講義概要】				
この演習では、財政学・公共経済学の研究上の基礎となる理論・実証分析の習得のために、下記のテキストに沿って議論し理解を深める。テキストの各章ごとに応用可能な制度・政策を取り上げて議論し、関連する論文を精読することで研究に関する視野を広げてもらう。演習の終盤では、総括的な議論を行ったうえで、学位論文のテーマ設定と研究計画を決めてもらう。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	ガイダンス	15	論文輪読・研究報告(1):最適課税	
2	テキスト輪読(課税理論)	16	論文輪読・研究報告(2):公共料金と規制	
3	論文輪読(課税理論)	17	論文輪読・研究報告(3):税と労働供給	
4	研究テーマ検討(課税理論)	18	論文輪読・研究報告(4):公共財の理論	
5	テキスト輪読(政治の経済分析)	19	論文輪読・研究報告(5):地方公共財の理論	
6	論文輪読(政治の経済分析)	20	論文輪読・研究報告(6):政治経済学	
7	研究テーマ検討(政治の経済分析)	21	論文輪読・研究報告(7):再分配政策	
8	テキスト輪読(マクロ経済政策)	22	論文輪読・研究報告(8):費用便益分析	
9	論文輪読(マクロ経済政策)	23	論文輪読・研究報告(9):厚生経済学	
10	研究テーマ検討(マクロ経済政策)	24	論文輪読・研究報告(10):世代会計	
11	テキスト輪読(地方財政)	25	論文輪読・研究報告(11):国際課税	
12	論文輪読(地方財政)	26	論文輪読・研究報告(12):社会保障	
13	研究テーマ検討(地方財政)	27	論文輪読・研究報告(13):税と民間投資	
14	研究経過報告	28	論文輪読・研究報告(14):法と経済学	
【テキスト】				
井堀利宏『公共経済の理論』(有斐閣、1996年)				
【参考書・参考資料等】				
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』(有斐閣)				
【事前・事後学習、時間等】				
<ul style="list-style-type: none"> ・事前にテキスト・論文を十分に読み、必要に応じて数式の展開を追うこと。(90分) ・講義で取り扱われた制度や理論について、さまざまな角度から検討し、論文作成にどのように応用できるか考えること。(90分) 				
【課題の種類・内容】				
必要に応じて、理解の確認や研究の基礎作業を目的にレポートを課すことがある。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
提出されたレポートは返却して、添削及びコメント行う。				
【成績評価方法・基準】				
報告(50%)、期末レポート(50%)で評価する。				
【履修上の注意】				
英語の文献を読むとともに、理論分析では数学の知識が、実証分析では統計学の知識が必要である。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	金融論A	通年・前期・後期 前期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	相模 裕一			
【講義の到達目標及びテーマ】				
金融市場の制度と歴史を概観し、金融システムについて基礎知識を習得する。フィンテック、ブロックチェーンの進展を学び、今後の新しい動向を説明できる。				
【講義概要】				
戦後の金融システムと金融行政、金融自由化の進展、バブルと不良債権問題、金融制度改革の動向について解説する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	貨幣について			
2	間接金融と直接金融			
3	決済システムの仕組み			
4	戦後の金融システム：銀行規制について			
5	高度成長下の金融システム：護送船団方式			
6	ドルショックとオイルショック			
7	2つのコクサイ化：国際化と国債化			
8	金融自由化について			
9	バブルと不良債権問題について			
10	金融機関の合併			
11	米国サブプライム問題：リーマンショック			
12	欧州通貨危機			
13	フィンテックについて			
14	ブロックチェーンについて			
【テキスト】				
なし				
【参考書・参考資料等】				
『金融論』第2版 家森信善 中央経済社(2019)				
【事前・事後学習、時間等】				
Moodleにアップロードされる毎回の授業資料を熟読し、内容を理解したうえで授業に臨むこと。復習問題を毎回課す。2時間				
【課題の種類・内容】				
レポートは3回、授業の要約と内容の発展について				
【課題に対するフィードバックの方法】				
レポートは3回とも発表し、授業の中で検討、良い内容へ指導する。				
【成績評価方法・基準】				
レポート60点（課題の理解度20点、授業との関連性20点、独自の主張20点）発表40点、(論理的展開20点、提示手法の工夫20点)の合計で評価する。合計100～80点はA、79～70点はB、69～60点はC、59点以下はDとなる。				
【履修上の注意】				
日頃から、株価、為替レート、金利の動向に注視してください。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	金融論B	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	相模 裕一			
【講義の到達目標及びテーマ】				
金融政策とファイナンス理論の基礎、フィンテックについて学習する。デリバティブ商品の価格を計算できるようになる。				
【講義概要】				
金融政策分析のため、マクロモデルを用いる。ファイナンス理論として、ポートフォリオ理論とCAPM、そしてデリバティブである先物、オプション、スワップを取り上げる。さらにフィンテック理論としてビットコインとブロックチェーンを取り上げる。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	金融政策の基本			
2	マクロ経済モデルIS-LM			
3	マクロ経済モデル 物価水準決定モデル			
4	アベノミクス マイナス金利 MMT理論			
5	資産選択理論			
6	デリバティブについて			
7	ヘッジ、裁定、投機 裁定原理			
8	先物市場 先物価格の理論			
9	オプション理論			
10	スワップ取引 金利スワップ 通貨スワップ			
11	イールドカーブと債券価格について			
12	フィンテックについて			
13	暗号通貨、ビットコイン、イーサリアム			
14	ブロックチェーンの構造			
【テキスト】				
野口悠紀夫『ブロックチェーン革命』 日本経済新聞社(2017)				
【参考書・参考資料等】				
木島正明『金融工学』(日経文庫、2002年)				
【事前・事後学習、時間等】				
日々、為替レート、日経平均株価、ダウ指数の動向を注視すること。 Moodleにアップロードされる毎回の授業資料を熟読し、内容を理解したうえで授業に臨むこと。復習問題を毎回課す。2時間				
【課題の種類・内容】				
レポートは3回、授業の要約と内容の発展について				
【課題に対するフィードバックの方法】				
レポートは3回とも発表し、授業の中で検討、良い内容へ指導する。				
【成績評価方法・基準】				
レポート60点 (課題の理解度20点、授業との関連性20点、独自の主張20点) 発表40点、(論理的展開20点、提示手法の工夫20点)の合計で評価する。合計100～80点はA、79～70点はB、69～60点はC、59点以下はDとなる。				
【履修上の注意】				
高校数学以上の内容については、解説します。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	金融論演習		単位数	使用言語
			4	日本語
担当教員名	相模 裕一			
【講義の到達目標及びテーマ】				
証券市場(株・債券)、外国為替市場、デリバティブ市場の機能と仕組みを理解する。資産価格決定の理論の基礎を習得する。特に無裁定理論であるファイナンスの基本定理を理解する。フィンテックの動向、ブロックチェーンの仕組みを理解する。				
【講義概要】				
証券市場・デリバティブ市場の実際と理論分析、ポートフォリオ理論、CAPM、オプション理論、ブロックチェーンの仕組み				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	証券市場1:株式市場	15	債券価格の計算方法	
2	証券市場2:債券市場	16	割引債と利付債 パー債券	
3	外国為替市場の現実	17	イールドカーブとは	
4	デリバティブ市場1 先物・先渡し	18	金利スワップ スワップレートの求め方	
5	デリバティブ市場2 オプション	19	通貨スワップ テナースワップ	
6	デリバティブ市場3 スワップ	20	フィンテックとは何か	
7	ポートフォリオ理論の基礎	21	AI とIoTによる金融システム	
8	ポートフォリオ理論の実際、具体例の計算	22	キャッシュレス経済	
9	CAPM	23	ビットコインについて	
10	CAPMの計算、妥当性	24	P2P 分散型台帳	
11	オプション理論2項モデル	25	proof of work ブロック生成過程	
12	ブラック・ショールズ方程式	26	ブロックチェーンの応用	
13	リスク中立価格付け	27	イーサリアムとスマートコントラクト	
14	無裁定原理	28	新しい貨幣論について	
【テキスト】				
木島正明『金融工学』(日経文庫、2002年)				
【参考書・参考資料等】				
野口悠紀夫『ブロックチェーン革命』日本経済新聞社(2017)				
【事前・事後学習、時間等】				
事前にテキストを読み、疑問点を明確にしておくこと。理論モデルの学習には計算が必要です。必ず計算問題を解くこと。 2時間				
【課題の種類・内容】				
レポートは3回、授業の要約と内容の発展について				
【課題に対するフィードバックの方法】				
レポートは3回とも発表し、授業の中で検討、良い内容へ指導する。				
【成績評価方法・基準】				
レポート60点 (課題の理解度20点、授業との関連性20点、独自の主張20点) 発表40点、(論理的展開20点、提示手法の工夫20点)の合計で評価する。合計100~80点はA、79~70点はB、69~60点はC、59点以下はDとなる。				
【履修上の注意】				
なし				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	学位論文指導 I	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	相模 裕一			
【講義の到達目標及びテーマ】				
この講義は、金融システム設計とファイナンスにおける研究手法を身につけ学院論文作成の基礎能力を養成するためのものであり、研究テーマの設定方法、研究遂行上の調査分析の方法、研究結果の論文としてのまとめ方の習熟等を目標とします。				
【講義概要】				
代表的な研究論文を具体例として、研究テーマの設定方法と先行研究等との関連性、テーマを分析するための資料収集方法、資料やモデルの分析方法、結果を論文にまとめる際の倫理面を含めた注意点や学術論文の形式や書き方等について研究していきます。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	講義内容と進め方:リーディングリストの配布			
2	研究テーマの設定方法(1)			
3	研究テーマの設定方法(2)			
4	研究テーマの設定方法(3)			
5	先行研究との関連性の整理(1)			
6	先行研究との関連性の整理(2)			
7	先行研究との関連性の整理(3)			
8	資料収集の方法(1) (モデルの作成方法(1))			
9	資料収集の方法(2) (モデルの作成方法(2))			
10	資料の分析方法(1) (モデルの分析方法(1))			
11	資料の分析方法(2) (モデルの分析方法(2))			
12	資料の分析方法(3) (モデルの分析方法(3))			
13	学術論文の形式等			
14	論文のまとめ方(1)			
【テキスト】				
授業の初回にリーディングリストを配布します。				
【参考書・参考資料等】				
リーディングリスト以外に必要な資料等は、その都度指示します。				
【事前・事後学習、時間等】				
それぞれの文献について、その回の講義の目的に即して事前に読み込むようにしてください。 毎回の講義後に、自分の研究に活用できる部分を具体的に確認するようにしてください。				
【課題の種類・内容】				
レポートは5回、授業の要約と内容の発展について				
【課題に対するフィードバックの方法】				
レポートは5回とも発表し、授業の中で検討、良い内容へ指導する。				
【成績評価方法・基準】				
レポート発表:30点、(論理的展開20点、独自の主張10点) 論文:70点 (論理性30点、明確な記述30点、独創性0点)の合計で評価します。合計100~80点はA、79~70点はB、69~60点はC、59点以下はDとなる。				
【履修上の注意】				
なし				

2020年度大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	証券投資論A	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		前期	2	日本語
担当教員名	丹波 靖博			
【講義の到達目標及びテーマ】				
実務・研究者レベルのファイナンスの基本理論を理解し、証券投資に関する基礎知識を習得する。				
【講義概要】				
証券投資に関するテキストを輪読し、練習問題を解くことで理解を深める。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	株式ポートフォリオ戦略 シングルファクターモデル			
2	株式ポートフォリオ戦略 マルチファクターモデル			
3	株式ポートフォリオ戦略 株式ポートフォリオの運用			
4	株式ポートフォリオ戦略 売買執行のリスクとコスト			
5	債券ポートフォリオ戦略 債券投資分析の基本ツール1			
6	債券ポートフォリオ戦略 債券投資分析の基本ツール2			
7	債券ポートフォリオ戦略 債券ポートフォリオの運用			
8	デリバティブと投資戦略 オプション取引			
9	デリバティブと投資戦略 先物取引			
10	デリバティブと投資戦略 債券先物取引			
11	デリバティブと投資戦略 金利デリバティブ・リスク管理			
12	投資政策とアセットアロケーション ストラテジックアセットアロケーション			
13	投資政策とアセットアロケーション 短期のアセットアロケーション			
14	投資政策とアセットアロケーション 長期投資とアセットアロケーション・リスク管理			
【テキスト】				
2021年試験対策 証券アナリスト1次対策総まとめテキスト 証券分析 TAC株式会社(証券アナリスト研究会) 編著				
【参考書・参考資料等】				
証券アナリスト 1次試験過去問題集 2022年試験対策(日本語) 証券アナリスト研究会(著)				
【事前・事後学習、時間等】				
輪読のため全ての受講者は事前学習が必須。発表者はレジメの作成等が必要。関連する練習問題を事前・事後に行うこと。				
【課題の種類・内容】				
必要に応じ小テスト・簡単なレポートを実施する可能性がある。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
毎回、報告内容について担当教員よりコメント及び内容確認の詳細な質問を行う。指定した課題については解答例をGoogleClassroomに掲示するか、理解度に応じて講義内にて補足の説明を行う。				
【成績評価方法・基準】				
発表60%、授業内質疑応答20%、授業内課題20%。 無断欠席や正当な理由のない欠席をすると、単位が認定されない場合があります。				
【履修上の注意】				
相談時には事前にメール等で相談日時を調整してください。その際、相談の概要と相談者の在学番号・氏名もお知らせください。メールで対応可能な時は、メールで対応致します。メールアドレスは y-tanba@seinan-gu.ac.jp です。 ※GoogleClassroomと学内メールは毎日確認すること。 ※履修者の理解レベルにより内容を変更する可能性があります。				

2020年度大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	証券投資論B	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	丹波 靖博			
【講義の到達目標及びテーマ】				
実務・研究者レベルのファイナンスの基本理論を理解し、証券投資に関する基礎知識を習得する。				
【講義概要】				
証券投資に関するテキストを輪読し、練習問題を解くことで理解を深める。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	国際証券投資 外国証券投資の基本ツール			
2	国際証券投資 国際証券投資の諸論点			
3	オルタナティブ投資 オルタナティブ投資とは・証券化商品			
4	オルタナティブ投資 ヘッジファンド			
5	オルタナティブ投資 その他のオルタナティブ投資			
6	パフォーマンス評価 パフォーマンス収益率の測定			
7	パフォーマンス評価 リスク調整後収益率測定			
8	パフォーマンス評価 その他のパフォーマンス評価の方法			
9	パフォーマンス評価 スタイルマネジメント			
10	信用リスクモデル 信用リスクのある債権の評価・格付			
11	信用リスクモデル 財務諸表データに基づくデフォルト確率の推定			
12	信用リスクモデル 構造型モデル・デフォルトの相関リスク			
13	信用リスクモデル クレジット・リスク・デリバティブ			
14	行動ファイナンス 市場の効率性とアノマリー・行動ファイナンスとは・行動ファイナンスの代表事例			
【テキスト】				
2022年試験対策 証券アナリスト1次対策総まとめテキスト 証券分析 TAC株式会社(証券アナリスト研究会) 編著				
【参考書・参考資料等】				
証券アナリスト 1次試験過去問題集 2022年試験対策 (日本語) 証券アナリスト研究会 (著)				
【事前・事後学習、時間等】				
輪読のため全ての受講者は事前学習が必須。発表者はレジメの作成等が必要。関連する練習問題を事前・事後に行うこと。				
【課題の種類・内容】				
必要に応じ小テスト・簡単なレポートを実施する可能性がある。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
毎回、報告内容について担当教員よりコメント及び内容確認の詳細な質問を行う。指定した課題については解答例をGoogleClassroomに掲示するか、理解度に応じて講義内にて補足の説明を行う。				
【成績評価方法・基準】				
発表60%、授業内質疑応答20%、授業内課題20%。 無断欠席や正当な理由のない欠席をすると、単位が認定されない場合があります。				
【履修上の注意】				
相談時には事前にメール等で相談日時を調整してください。その際、相談の概要と相談者の在学番号・氏名もお知らせください。メールで対応可能な時は、メールで対応致します。メールアドレスは y-tanba@seinan-gu.ac.jp です。 ※GoogleClassroomと学内メールは毎日確認すること。 ※履修者の理解レベルにより内容を変更する可能性があります。				

2020年度大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	証券投資論演習	通年・前期・後期	単位数	使用言語
		通年	4	日本語
担当教員名	丹波 靖博			
【講義の到達目標及びテーマ】				
証券市場のデータを用いて各自で分析を行うことにより、具体的な例を通して証券市場・証券投資に関するファイナンス理論を理解すること。				
【講義概要】				
証券投資とファイナンスにおける演習を通じて、データの取得方法、Excelによるデータ分析の方法、データの取り扱い方、分析モデルの構築、検証方法など、実務における方法を修得します。毎回エクセルによる実習を行います。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	ガイダンス 株式市場 証券のリターンとリスク	15	オプション市場 2項モデル/ブラック-ショールズ・モデル	
2	株式市場 マーケットモデル・リスクとリターン	16	オプション市場 オプションのリスク 各感応度分析	
3	株式市場 アセットアロケーション・効率的フロンティアの導出	17	オプション市場 スワップ取引	
4	株式市場 資本資産価格モデル(CAPM)	18	ポートフォリオ運用 アセットアロケーション	
5	株式市場 現在価値・将来価値・WACC	19	ポートフォリオ運用 国際分散投資	
6	債券市場 債券の価格と利回り	20	ポートフォリオ運用 投資パフォーマンス評価	
7	債券市場 イールドカーブの特性	21	より高度な分析 アセットアロケーション1	
8	債券市場 各種金利・デュレーション	22	より高度な分析 アセットアロケーション2	
9	債券市場 債券の信用リスク・ポートフォリオ運用	23	より高度な分析 企業価値評価1	
10	先物 先物の概要と使い方	24	より高度な分析 企業価値評価2	
11	先物 先物の理論価格	25	より高度な分析 オプション評価1	
12	先物 先物によるヘッジ・スペキュレーション・アービトラージ	26	より高度な分析 オプション評価2	
13	先物 ベーシスリスク・最適ヘッジ比率	27	より高度な分析 債券評価	
14	オプション市場 オプションの概要と理論価格	28	より高度な分析 モンテカルロシミュレーション	
【テキスト】				
藤林宏他「EXCELで学ぶファイナンス〈2〉証券投資分析」金融財政事情研究会、2009年				
【参考書・参考資料等】				
サイモン・ベニング、大野薫監訳「ファイナンシャル・モデリング(第4版)」ロギカ書房、2017年				
【事前・事後学習、時間等】				
受講者は事前事後学習が必須。				
【課題の種類・内容】				
必要に応じ小テスト・簡単なレポートを実施する可能性がある。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
対話形式・提出物の採点と添削等により理解度の確認を行う。指定した課題については解答例をGoogleClassroomに掲示するか、理解度に応じて講義内にて補足の説明を行う。				
【成績評価方法・基準】				
授業内課題50%、定期試験50%。 無断欠席や正当な理由のない欠席をすると、単位が認定されない場合があります。				
【履修上の注意】				
受講者の理解度により講義計画内容を調整する可能性があります。 相談時には事前にメール等で相談日時を調整してください。その際、相談の概要と相談者の在学番号・氏名もお知らせください。メールで対応可能な時は、メールで対応致します。メールアドレスは y-tanba@seinan-gu.ac.jp です。 ※GoogleClassroomと学内メールは毎日確認すること。 ※履修者の理解レベルにより内容を変更する可能性があります。				

2020年度大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	経済学研究指導	通年・前期・後期 通年	単位数 4	使用言語 日本語
担当教員名	丹波 靖博			
【講義の到達目標及びテーマ】				
ファイナンス・金融工学に関する研究論文を作成するための能力を習得し、その後の研究論文作成の基本的知識・技術を向上させること。独自に社会的意義のある課題を設定し、解決方法を提案できる論文を執筆できるようになること。				
【講義概要】				
幅広い研究トピックスをカバーできるようになるため、テキストを輪読しファイナンス分野における幅広い知識と技術を習得する。研究論文を作成するプロセスを実施しながら、課題の提出とフィードバックを繰り返しながら、自分で考え試行錯誤を行うことにより論文の作成を行っていく。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画	No.	講義計画	
1	Introduction, Futures markets and central counterparties	15	Value at risk and expected shortfall, Estimating volatilities and correlations	
2	Hedging strategies using futures	16	Credit risk, Credit derivatives	
3	Interest rates	17	Exotic options, More on models and numerical procedures	
4	Determination of forward and futures prices, Interest rate futures	18	Martingales and measures, Interest rate derivatives: The standard market models	
5	Swaps, Securitization and the credit crisis of 2007	19	Convexity, timing, and quanto adjustments, Equilibrium models of the short rate	
6	XVAs, Mechanics of options markets	20	No-arbitrage models of the short rate, HJM, LMM, and multiple zero curves	
7	Properties of stock options	21	Swaps Revisited, Energy and commodity derivatives	
8	Trading strategies involving options	22	Real options, Derivatives mishaps and what we can learn from them	
9	Binomial trees	23	研究テーマ設定と先行研究サーベイ	
10	Wiener processes and Itô's lemma	24	アウトラインと論文の構成	
11	The Black—Scholes—Merton model	25	データ収集・資料収集・データ構築	
12	Employee stock options	26	データの基礎分析	
13	Options on stock indices and currencies	27	データ分析 モデル構築・モデル検証	
14	Futures options and Black's model, The Greek letters, Volatility smiles. Basic numerical procedures	28	論文作成 結果と考察	
【テキスト】				
Options, Futures, and Other Derivatives (10th Edition) , John C. Hull, Pearson, 2017				
【参考書・参考資料等】				
必要に応じ指定する。				
【事前・事後学習、時間等】				
指定した文献やテキストについて理解し、必要に応じレジュメ等を作成のこと。				
【課題の種類・内容】				
アカデミックな英語論文を読むための英語読解力を身につけておくこと。論文作成の各プロセスに関する課題を行うこと。				
【課題に対するフィードバックの方法】				
課題に対する解説・講評を講義中に行っていく。毎回、報告内容について担当教員よりコメント及び内容確認の詳細な質問を行う。				
【成績評価方法・基準】				
平常点（課題を含む）50%、レポート 50%				
【履修上の注意】				
無断欠席や正当な理由のない欠席をすると、単位が認定されない場合がある。 受講者の興味分野により、テキスト輪読にかけるウェイトを調整する。また、論文作成を輪読と並行して行う可能性がある。 ※履修者の理解レベルにより内容を変更する可能性があります。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	国際金融論A	通年・前期・後期	単位数 2	使用言語 日本語
		前期		
担当教員名	岩本武和			
【講義の到達目標及びテーマ】				
国際金融の理論的分析・国際マクロ経済学				
【講義概要】				
国際経済学は、「ミクロ経済学の応用として国際貿易論」、および「マクロ経済学の応用としての国際金融論」というように、比較的「体系的」のある学問分野ですが、「国際金融論A」では、理論分析である「国際マクロ経済学」を研究する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	国際収支と国際投資ポジション(1)			
2	国際収支と国際投資ポジション(2)			
3	外国為替市場と為替レート(1)			
4	外国為替市場と為替レート(2)			
5	為替レートの短期モデルと金利平価(1)			
6	為替レートの短期モデルと金利平価(2)			
7	為替レートの長期モデルと購買力平価(1)			
8	為替レートの長期モデルと購買力平価(2)			
9	対外不均衡の調整メカニズム(1)			
10	対外不均衡の調整メカニズム(2)			
11	開放経済下でのマクロ経済学政策の有効性:マンデル=フレミング・モデル(1)			
12	開放経済下でのマクロ経済学政策の有効性:マンデル=フレミング・モデル(2)			
13	経常収支の動学モデル:DSGEモデル(1)			
14	経常収支の動学モデル:DSGEモデル(2)			
【テキスト】				
Krugman,P., M.Obstfeld, and M.Melitz, International Economics: Theory and Policy, Global Edition,2018.(『クルーグマン 国際経済学 理論と政策』下:金融編、丸善出版、2017年)のPart3				
【参考書・参考資料等】				
岩本武和『国際経済学 国際金融編』ミネルヴァ書房、2012年(第3刷2019年または第4刷2021)の第2編-3編				
【事前・事後学習、時間等】				
毎回の予習とパワポでのプレゼンの準備。				
【課題の種類・内容】				
小テスト+レポート				
【課題に対するフィードバックの方法】				
小テスト+レポートに関しては口頭でコメントします。				
【成績評価方法・基準】				
出席+毎回のプレゼン+小テスト+レポートを各25%で合計。				
【履修上の注意】				
極端な数学アレルギーの方、エクセル*パワポが使用できない方は受講を避けた方がよい。				

2022年度 大学院シラバス

経済学研究科 経済学専攻

講義科目名	国際金融論B	通年・前期・後期 後期	単位数 2	使用言語 日本語
担当教員名	岩本武和			
【講義の到達目標及びテーマ】				
国際金融政策と国際通貨・金融システムの制度・歴史				
【講義概要】				
国際経済学は、「ミクロ経済学の応用として国際貿易論」、および「マクロ経済学の応用としての国際金融論」というように、比較的「体系的」のある学問分野ですが、「国際金融論B」では、政策分析である「国際通貨・国際金融の制度・歴史」を研究する。				
【講義計画内容】				
No.	講義計画			
1	国際金本位制とその崩壊			
2	ブレトンウッズ体制とその崩壊			
3	変動相場制とプラザ合意			
4	ラテンアメリカの債務危機			
5	東アジアの奇跡とアジア通貨危機(1)			
6	東アジアの奇跡とアジア通貨危機(2)			
7	グローバル・インバランス(1)			
8	グローバル・インバランス(2)			
9	リーマンショックと世界金融危機(1)			
10	リーマンショックと世界金融危機(2)			
11	通貨統合と最適通貨圏			
12	ユーロと欧州債務危機(1)			
13	ユーロと欧州債務危機(2)			
14	グローバル流動性			
【テキスト】				
Krugman,P., M.Obstfeld, and M.Melitz, International Economics: Theory and Policy, Global Edition,2018.(『クルーグマン 国際経済学 理論と政策』下: 金融編、丸善出版、2017年)のPart4				
【参考書・参考資料等】				
岩本武和『国際経済学 国際金融編』ミネルヴァ書房、2012年(第3刷2019年または第4刷2021)の第1編・4編				
【事前・事後学習、時間等】				
毎回の予習とパワポでのプレゼンの準備。				
【課題の種類・内容】				
小テスト+レポート				
【課題に対するフィードバックの方法】				
小テスト+レポートに関しては口頭でコメントします。				
【成績評価方法・基準】				
出席+毎回のプレゼン+小テスト+レポートを各25%で合計。				
【履修上の注意】				
極端な数学アレルギーの方、エクセル*パワポが使用できない方は受講を避けた方がよい。				

西南学院大学 大学院課 大学院事務室

〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号

TEL 092-823-3368

FAX 092-823-3348

e-mail gra-jimu@seinan-gu.ac.jp

